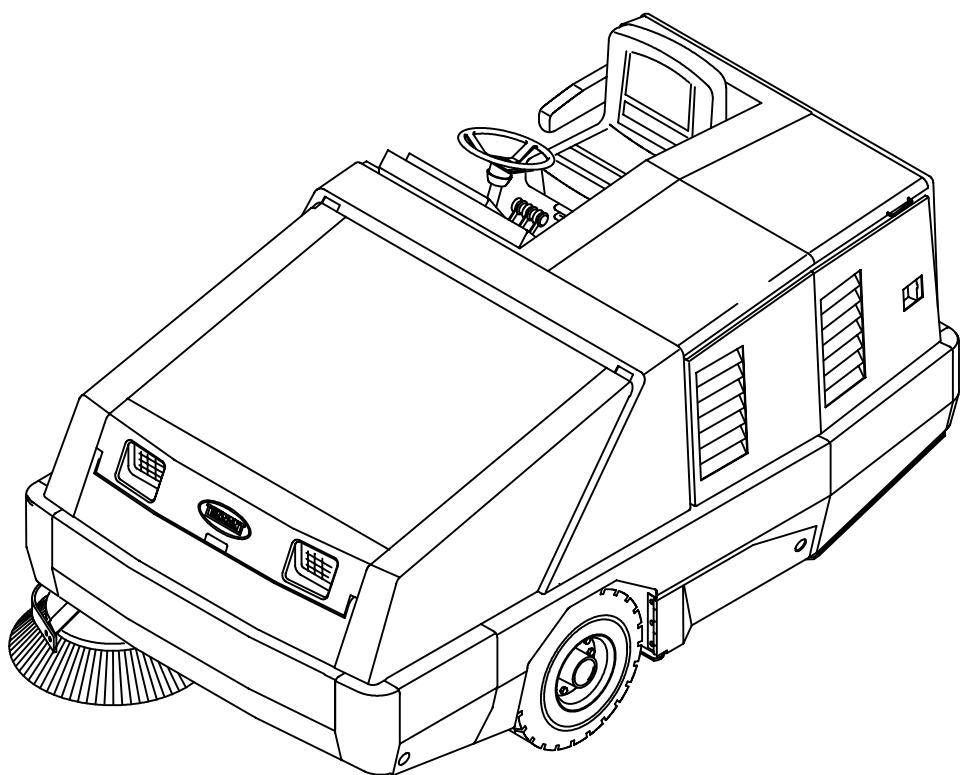




800D



MM308JP



この取り扱い説明書はTENNANT800D.型一台毎に添付されています。本機の操作方法及び点検整備方法が記されています。本機の操作、点検整備を行う前に、本書をよく読み、本機のことをよく理解して下さい。

本機はすばらしい清掃効果をお約束します。さらに、次の点に気を付けていただければ、最小のコストで、最大の能力を発揮いたします。

- 本機を十分注意して操作すること。
- 本書の点検整備の項に従って、定期的な点検整備を行うこと。
- 本機にはテナント社製のパーツ、またはそれと同品質のものを使用すること。

取扱書番号 - MM308JP

改訂番号 : 07

発行 : 1996年3月

目次

ページ	ページ		
安全のための注意	3	本機の仕組み	32
操作	5	操作前の点検事項	32
オペレーターの責任	5	本機を始動する	34
各部の名称	7	清掃方法とブラシのご案内	36
制御パネルの絵表示	8	清掃	38
制御装置と計器類	10	清掃をやめる	40
制御装置の操作	11	ホッパーのゴミ空け	41
前後進ペダル	11	本機を停止する	43
ブレーキペダル	12	操作後の点検事項	45
パーキングブレーキ(号機番号001102 以下の本機に適用。)	12	ホッパー安全棒の掛け方	46
パーキングブレーキ (号機番号001103 以上の本機に適用)	13	ホッパー安全棒の外し方	48
スロットルレバー	14	傾斜面での操作	49
サイドブラシレバー(号機番号001177 以下の本機に適用。)	15	運搬のための固定	50
サイドブラシ・スイッチ (号機番号 001177以上の本機に適用)	15	オプション	51
サイドブラシ下方圧調整ノブ	16	バキュームワンド	51
ホッパードアレバー	17	プロアワンド	55
ホッパー回転レバー	18	RFSフィルターシステム	57
ホッパー昇降レバー	19	故障と対策	58
ホーンボタン	19	点検整備	59
充電系統ランプ	20	点検整備一覧表	59
エンジンオイル圧ランプ	20	潤滑	61
エンジン冷却水温度ランプ	20	エンジン	61
ホッパー温度ランプ—サーモセントリ	20	後輪サポート	61
メインブラシ緊急停止ランプ	21	前輪ベアリング	62
フィルター目詰まり警告ランプ	21	サイドブラシピボットピン	62
ホッパードアランプ (オプション)	21	メインブラシ調整装置	62
燃料レベルゲージ	21	油圧	63
アワーメーター	22	油圧作動油タンク	63
回転灯スイッチ (オプション)	22	油圧作動油	64
ヘッドライトスイッチ	22	油圧ホース	64
フィルターシェーカースイッチ	23	走行モーター	65
バキュームファンスイッチ	23	エンジン	65
イグニションスイッチ	24	冷却システム	65
メインブラシスイッチ	25	エアフィルター汚れ表示計	66
方向制御ハンドル	26	エアフィルター	66
ステアリングホイールチルトレバー	26	ウォーターセパレーター/燃料フィ ルター	67
プロアワンドレバー (オプション)	26	エンジン燃料フィルター	67
サーキットブレーカー	27	燃料ライン	67
グローブラグランプ	27	燃料系統の空気抜き	67
メインブラシ下方圧調整ノブ	28	燃料系統の空気抜きの方法	68
掛け金	28	バッテリー	69
オペレーター席	29	ベルトとチェーン	69
ホッパー安全棒	29	エンジンベルト	69
ウインドシールドワイパースイッチ (オプション)	30	静電気放電チェーン	69
ドームライトスイッチ (オプション)	30	ゴミ受けホッパー	70
循環エアールーバー (通風口) (オプション)	30	ホッパー防塵用フィルター	70
ヒーターノブ (オプション)	30	ホッパー防塵フィルターの外し方 及び交換方法	70
ファンスピードスイッチ (オプション)	31	サーモセントリ	72

	ページ
ブラシ	72
メインブラシ	72
メインブラシの交換	72
メインブラシパターンの点検と調整	73
サイドブラシ	76
サイドブラシの交換	76
スカートとシール	77
ホッパー・リップスカート	77
ブラシ室スカート	77
リアスカート	78
ブラシドアシール	78
ホッパーシール	78
ホッパードアシール	78
ホッパー・サイドスカート	79
ホッパー防塵シール	79
ホッパー・カバーシール	79
ホッパー・バキュームファンシール	79
ブレーキとタイヤ	80
サービスブレーキ	80
パーキングブレーキ	80
タイヤ	81
リヤー・ホイール	81
本機の押し方と引き方	81
本機のジャッキング	82
本機の格納	82
仕様	83
本機の主要寸法と容量	83
本機の主要性能	83
駆動方式	84
方向制御	84
油圧系統	84
ブレーキ系統	84
タイヤ	84

安全のための注意

本書中では、注意を促すために、次の二種類の表示が用いられ、それと共に注意の内容が記されています。

! 注意：重傷又は死に至る危険な操作及び状況を警告するために用いられます。

安全のために：本機の安全な操作のために従わなければならない動作を示します。

本機は処分可能なゴミを掃き集めるためのものです。取り扱い説明書に書かれている以外の使い方をしないで下さい。また、本機は公道で使用することはできません。

どのような場合に操作者または本機が危険な状態に陥る可能性があるか、以下の注意事項を読んで、理解して下さい。

安全のために：

1. 次のような場合は本機を操作しないで下さい。
 - トレーニングを受けず、許可を得ていません。
 - 本書を読んでいない、あるいは理解していない。
 - 本機の状態が正常でない場合。
 - 引火物や爆発物のある場所。（そのような場所で使用できるように改造されている場合を除く）
 - 物が落ちて来る可能性がある場所（オーバヘッドガードが装備されている場合を除く）
2. 本機の操作の前に：
 - 燃料、オイル、液漏れの有無を点検する。
 - 燃料補給場所には火花や炎を近づけない。
 - 全ての安全装置が所定の位置にあり、的確に作動することを確かめる。
 - ブレーキとハンドルが的確に作動することを点検する。
3. 本機を始動させる時：
 - ブレーキに足をのせ、前後進ペダルをニュートラルにしておく。
4. 本機を使用している時：
 - 停止するときはブレーキを使用する。
 - 傾斜面や滑りやすい場所ではゆっくり進む。
 - 後進するときは十分注意する。
 - ホッパーを上げているときは、十分注意して移動する。
 - ホッパーを上げる前に、十分な空間があることを確認する。

- オペレーター以外の人を乗せて運ばない。
- 常に交通安全のルールに従う。
- 本機の破損および誤作動はただちに報告する。

5. 本機を離れたり点検を行う前に：

- 水平な床に停止する。
- パーキングブレーキをかける。
- スイッチを切り、キーを抜き取る。

6. 本機の点検整備の際：

- 本機の動いている部分に触れないこと。点検の時は、大きすぎる上着やシャツ、袖の大きな服などを身につけない。
- 本機をジャッキで持ち上げる前に、本機のタイヤを固定する。
- ジャッキは、必ず指定された位置に当てて使用する。また、持ち上げたらジャッキスタンドで固定する。
- 本機を持ち上げるときは十分な許容重量のホイストやジャッキを使用する。
- 圧力のかかった空気や水を使用するときは、保護眼鏡や耳栓を着用する。
- 作業を始める前にバッテリーの接続を切る。
- バッテリー酸性液には触れないようにする。
- 熱せられたエンジン冷却液には触れないようとする。
- エンジンは自然に冷ます。
- 燃料補給所には火花や炎を近づけない。また、換気に気をつける。
- 圧力のかかった作動油の漏れている箇所を見つけるときは、厚紙を使用する。
- テナント社の供給する部品、またはそれに準ずるものを使用する。

! 注意：エンジンから有毒ガスが発生します。重度の呼吸器損傷、または窒息に至る可能性がありますので、換気を十分に行ってください。ガスにさらされる限度に関してお近くの取締機関にお尋ねください。常にエンジンは良好な状態にしておかなければなりません。

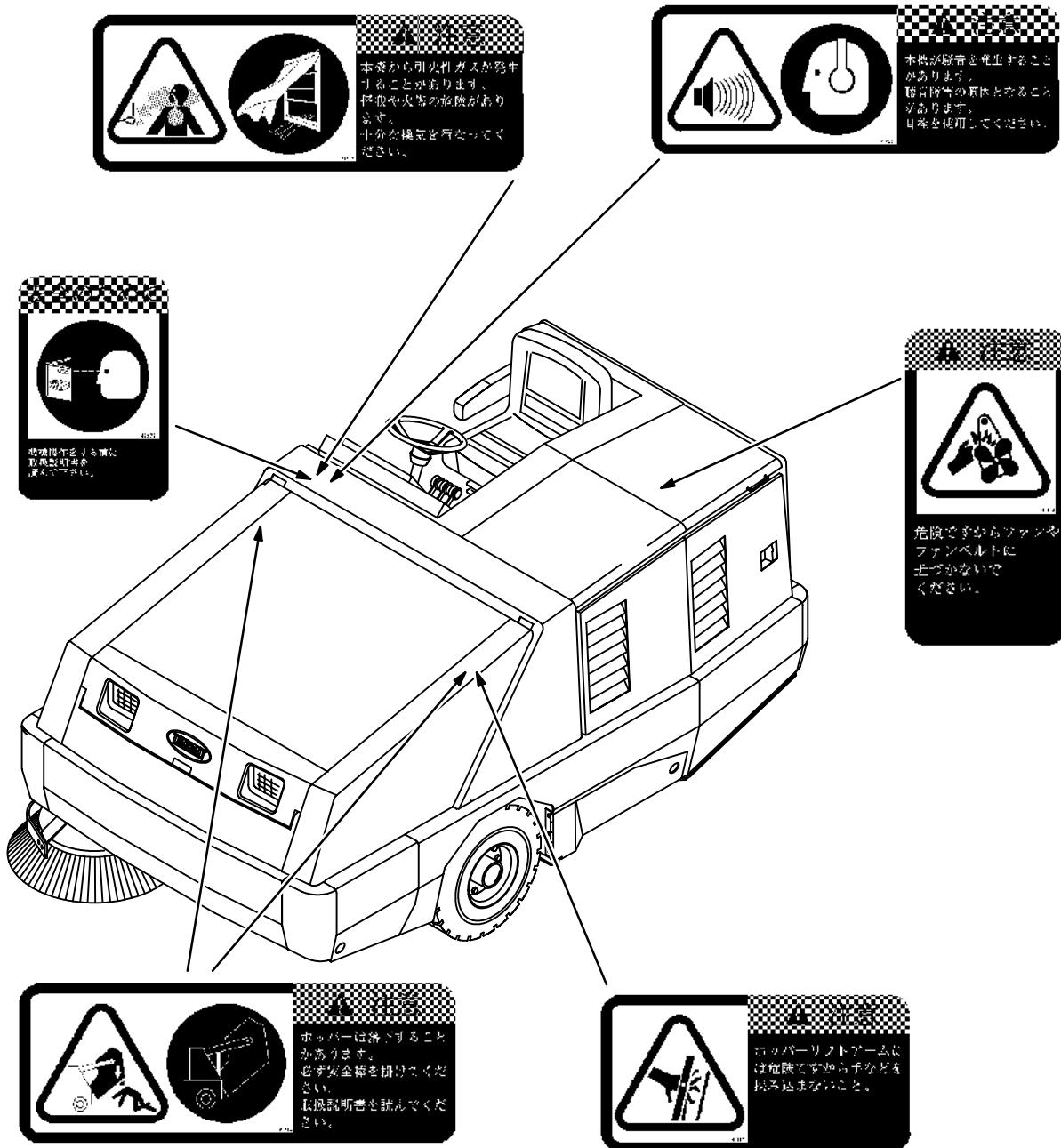
! 注意：持ち上げたホッパーが落ちて来ることがあります。必ずホッパー安全棒を使用して下さい。

! 注意：ホッパーリフトアームに挟まることがあります。近づかないで下さい。

! 注意：動いているベルトやファンは危険です。近づかないで下さい。

安全のための注意

本機には、次の安全ラベルがそれぞれ図に示された位置に貼られています。これらのラベルの何れもが損傷を受けたり、読めなくなったら、新しく張り替えて下さい。



操作

オペレーターの責任

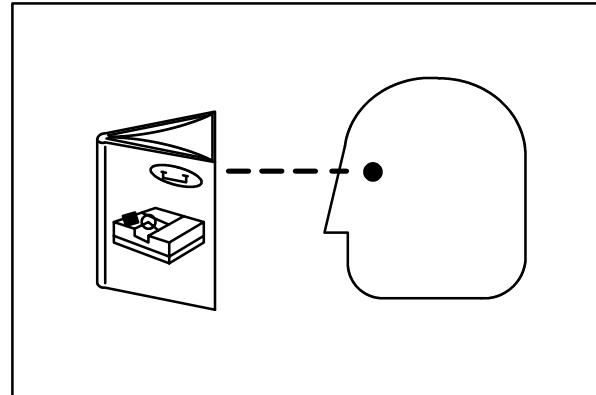
□ 本機が常に良好な状態にあるように、毎日の手入れと点検をするのは、オペレーターの責任です。オペレーターは本書の「点検整備」の章に記されている点検整備の時期をサービスマンや監督者に知らせなければなりません。

□ 本機を操作する前に、この説明書をよく読んで下さい。

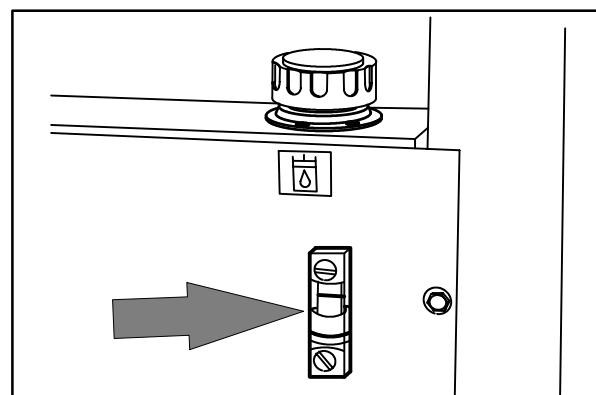
安全のために：この操作説明書を読んで理解するまでは、本機を操作しないで下さい。

□ 運搬中に損傷を受けていないか、点検して下さい。運搬指示書にそって、本機に損傷がないことを確認して下さい。

□ 作動油タンク内の作動油レベルを調べる。

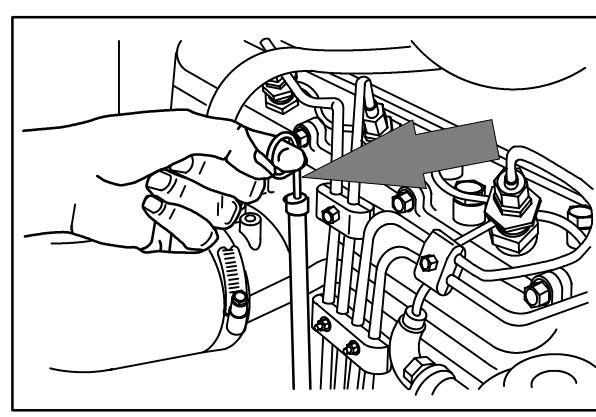


07324



08430

□ エンジンオイルのレベルを調べる。

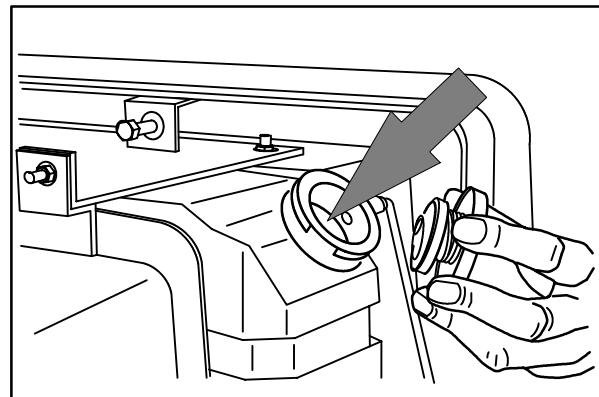


08431

操作

- ラジエーターの冷却液のレベルを調べる。冷却液のレベルは、注入口の下25mmから35mm迄のあいだにします。

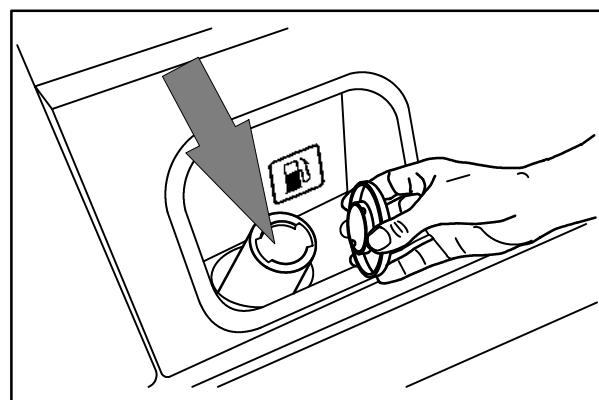
安全のために：点検整備の際、熱せられたエンジン冷却液には触れないようにして下さい。



08432

- 燃料タンクに燃料を入れる。

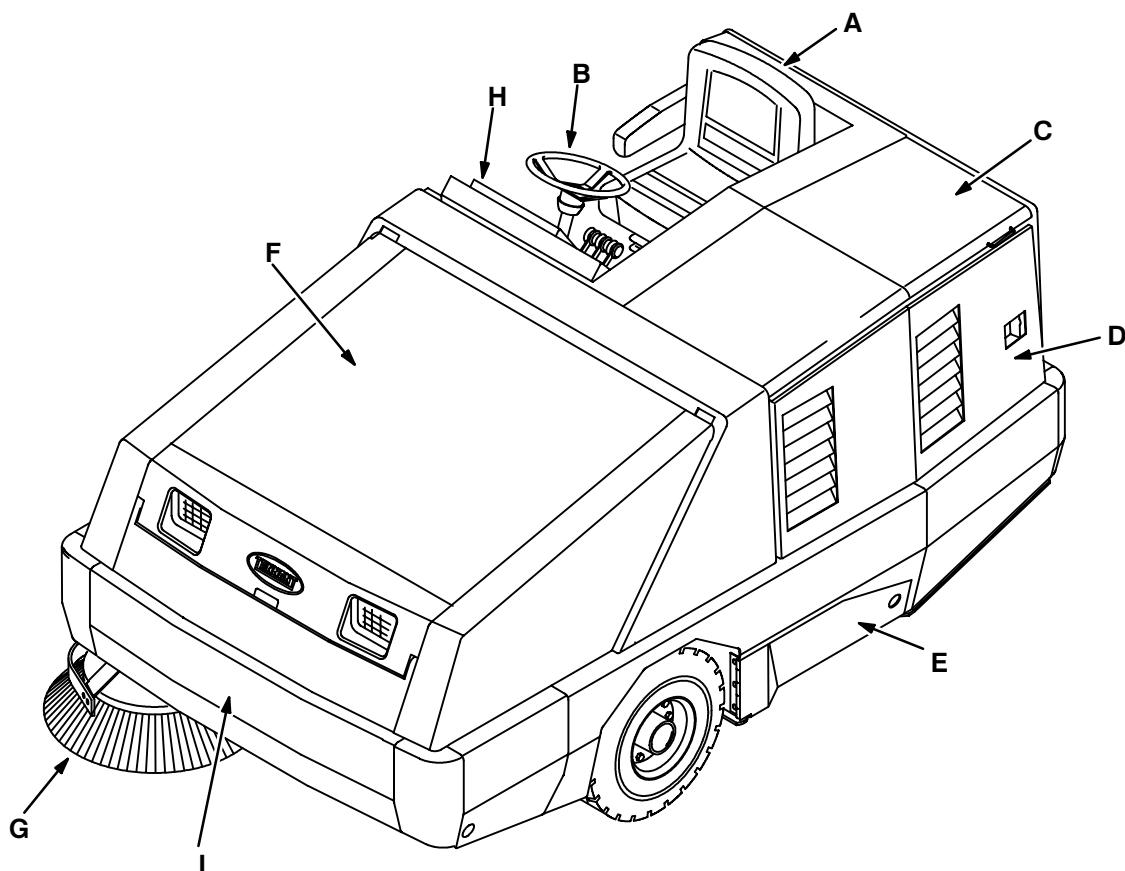
安全のために：点検整備の際、燃料補給場所には炎や火花を近づけないで下さい。また、換気には十分注意して下さい。



08433

- 初使用50時間後に、「点検整備一覧表」に従って整備を行って下さい。
- 本書に示された点検整備方法に従って、定期的に本機の手入れを行って下さい。また、テナント代理店の定期サービスをご利用になることをおすすめします。
- 部品や消耗品の注文は、お取引きのあるテナント代理店に直接お申しつけ下さい。部品の注文の際はお手元のパーツマニュアルをご利用下さい。

各部の名称



- A. オペレーター席
 B. 方向制御ハンドル
 C. エンジンカバー
 D. エンジン用サイドドア
 E. メインブラシ点検用ドア

- F. ホッパーカバー
 G. サイドブラシ
 H. 計器盤
 I. ホッパードア

07623

制御パネルの絵表示

本機には、操作や表示を分かりやすくするために、次のような絵表示が使われています。



アイドリング



エンジンオイル圧



速い



エンジン冷却水温度



サイドブラシ下方圧・軽



ホッパー温度-サーモセントリ



サイドブラシ下方圧・重



メインブラシ緊急停止



サイドブラシ下降/回転



フィルター目詰まり



サイドブラシ上昇/停止



ホッパードア・閉



ホッパードア・閉じる



燃料



ホッパードア・開ける



アワーメーター



ホッパー転回・イン



回転灯



ホッパー転回・アウト



ヘッドライト



ホッパー下降



ファン



ホッパー上昇



方向制御ハンドルチルト



ホーン



メインブラシ下降/II速



充電系統



メインブラシ停止



メインブラシ下降/I速（通常）



サーキットブレーカー5



メインブラシ下方圧・軽



サーキットブレーカー6



メインブラシ下方圧・重



サーキットブレーカー7



サーキットブレーカー1



サーキットブレーカー8



サーキットブレーカー2



サーキットブレーカー9



サーキットブレーカー3



パーキングブレーキ

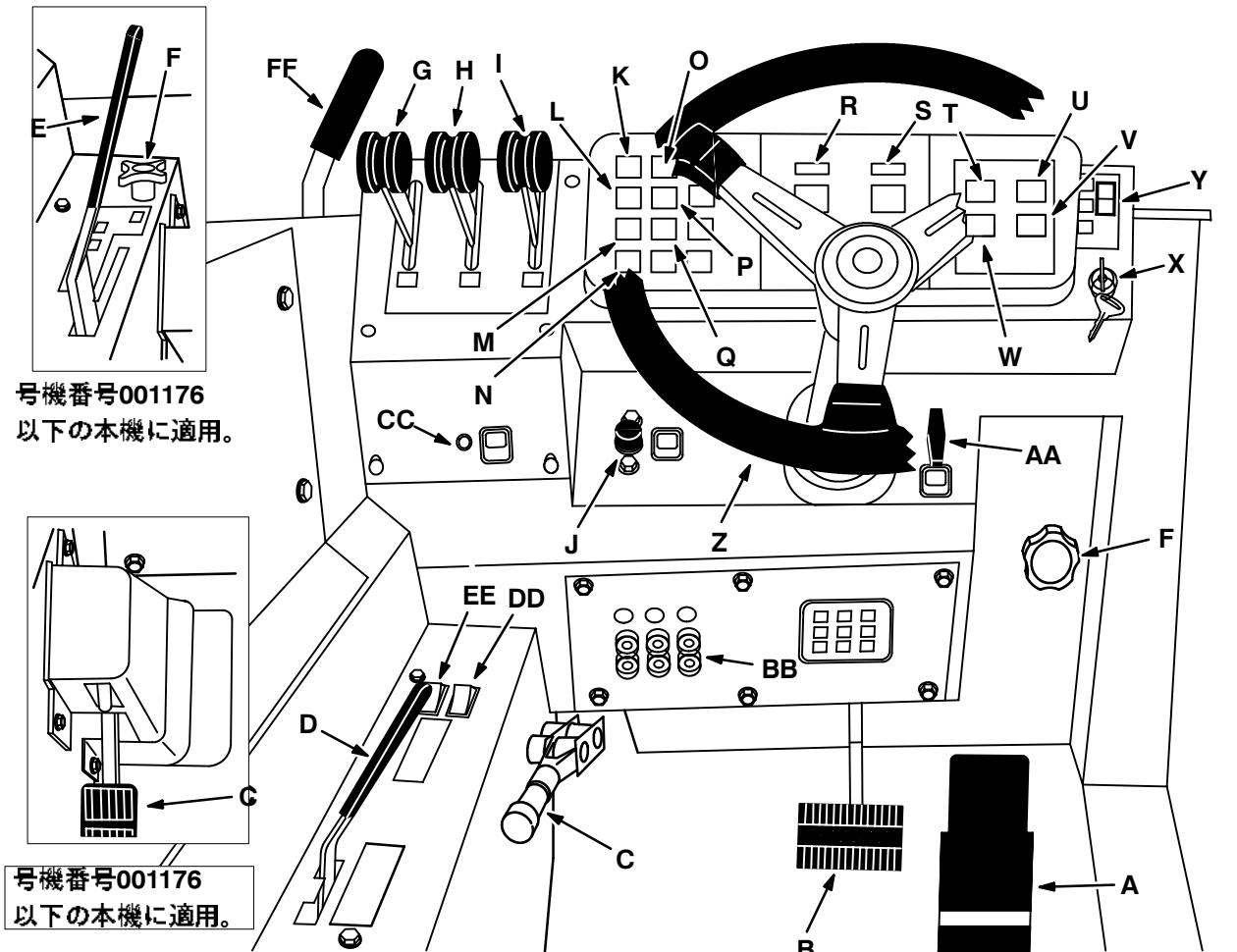


サーキットブレーカー4



グローブラグ（予熱）

制御装置と計器類



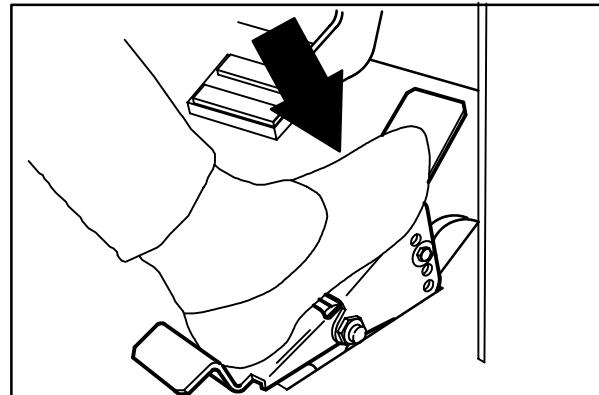
- | | |
|----------------------|------------------------|
| A. 前後進ペダル | Q. ホッパーードアランプ |
| B. ブレーキペダル | R. 燃料レベルゲージ |
| C. パーキングブレーキ | S. アワーメーター |
| D. スロットルレバー | T. 回転灯スイッチ（オプション） |
| E. サイドブラシレバー | U. ヘッドライトスイッチ |
| F. サイドブラシ下方圧ノブ | V. フィルターシェーカースイッチ |
| G. ホッパーードアレバー | W. バキュームファンスイッチ |
| H. ホッパー回転レバー | X. イグニッションスイッチ |
| I. ホッパーリフトレバー | Y. メインブラシスイッチ |
| J. ホーンボタン | Z. 方向制御ハンドル |
| K. 充電系警告ランプ | AA. ステアリングコラムチルトレー |
| L. エンジンオイル圧ランプ | BB. サーキットブレーカー |
| M. エンジン冷却水温度ランプ | CC. グロープラグランプ |
| N. ホッパー温度ランプ-サーモセントリ | DD. 右サイドブラシスイッチ |
| O. メインブラシ緊急停止ランプ | EE. 左サイドブラシスイッチ（オプション） |
| P. フィルター目詰まりランプ | FF. プロアワンドレバー（オプション） |

制御装置の操作

前後進ペダル

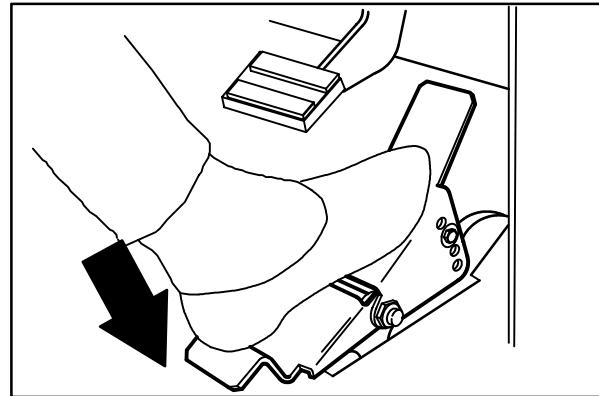
前後進ペダルは本機の進行方向及び速度を制御します。速度はペダルの踏み加減で調節します。強く踏めばそれだけ速度は速くなります。

前進：前後進ペダルに足をのせ、つまさきでペダルの上部を踏みます。



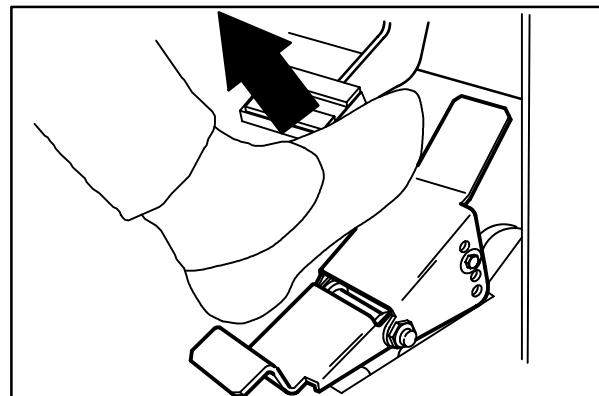
08467

後進：ペダルに足をのせ、かかとでペダルの下部を踏みます。



08468

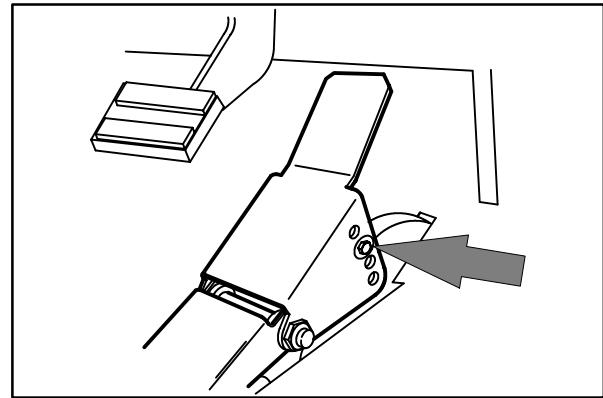
ニュートラル：足を離すと、ペダルは自動的にニュートラルの位置に戻ります。



08469

操作

前後進ペダルのつまさきの角度は調節ができます。調整用の穴のU字ピンを取り外し、ちょうどよい角度になるようにペダルの上部を動かし、調整用の穴にU字ピンを差し込みます。

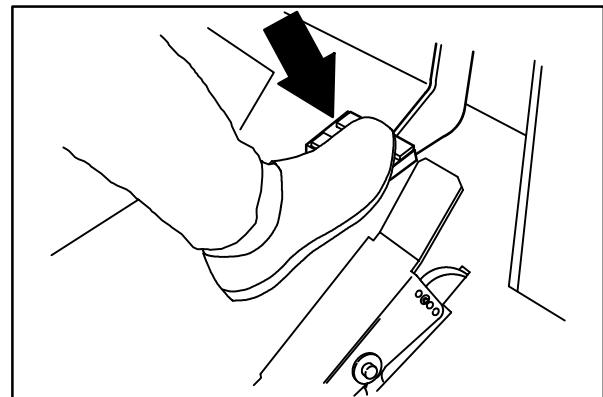


08470

ブレーキペダル

ブレーキペダルで本機は停止します。

停止する：前後進ペダルから足を離し、ニュートラルに戻す。ブレーキペダルを踏む。



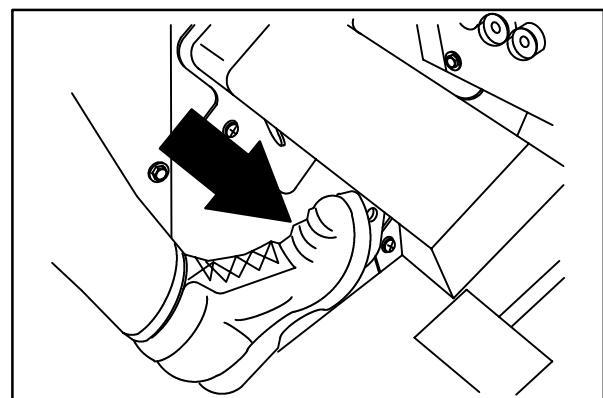
08471

パーキングブレーキ(号機番号001102以下の本機に適用。)

パーキングブレーキ①のペダルで前輪のブレーキをかけ、レバーでそれを解除します。

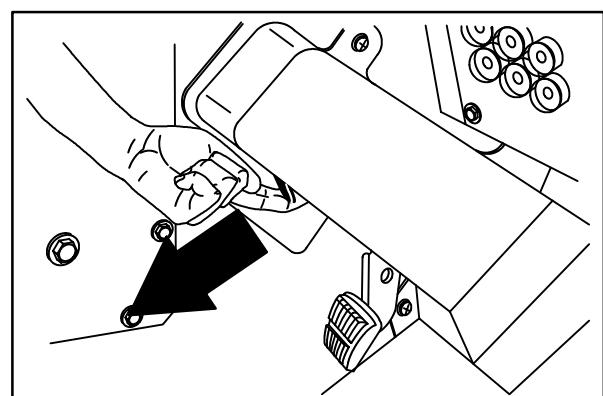
ブレーキをかける：パーキングブレーキペダルを踏む。

安全のために：本機を離れたり、点検整備をする前には、本機を水平な場所に止め、パーキングブレーキをかけ、スイッチを切り、キーを抜いて下さい。



08434

解除する：リリースレバーを引き上げる。



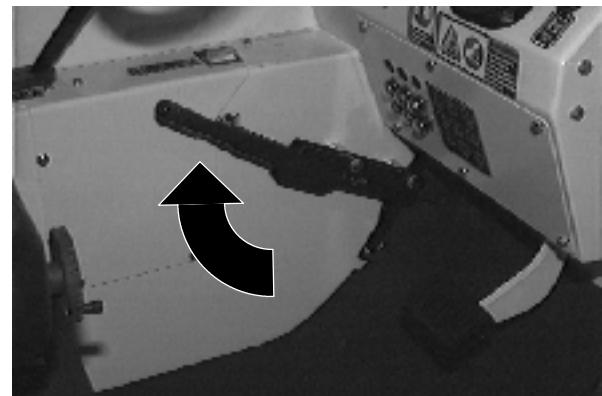
08435

パーキングブレーキ（号機番号001103以上の本機に適用）

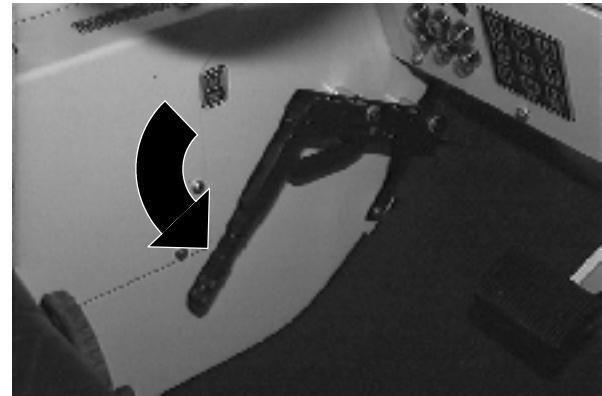
パーキングブレーキ⑩レバーで、前輪のブレーキをかけ、解除します。

かけるとき：パーキングブレーキ・レバーを引いて上げる。

安全のために：本機を離れたり、点検整備をする前には、本機を水平な場所に止め、パーキングブレーキをかけ、スイッチを切り、キーを抜いて下さい。



解除するとき：パーキングブレーキ・レバーを下に押す。

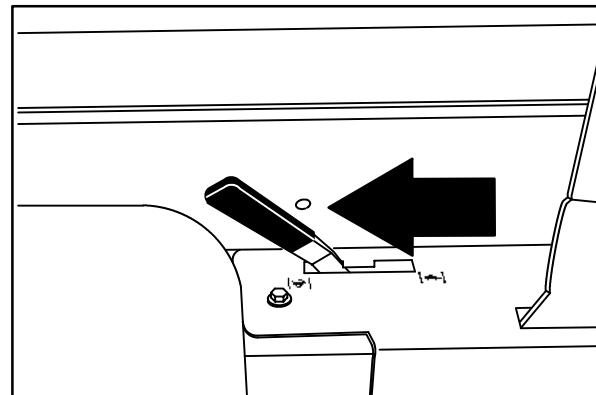


操作

スロットルレバー

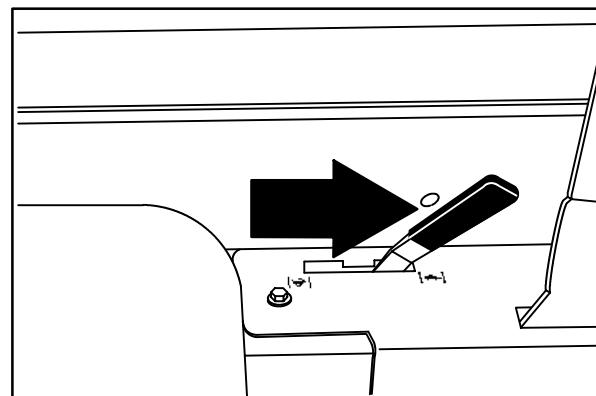
スロットルレバーはエンジンの回転速度を制御します。

速くする：レバーを  「速い」 の位置に引っ張る。



08456

アイドリング：レバーを  「アイドリング」 の位置に押し込む。



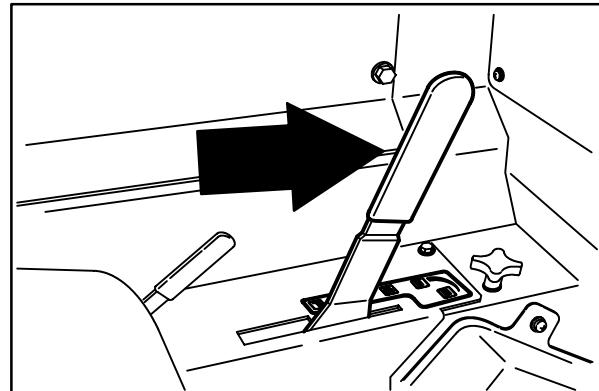
08457

サイドブラシレバー

(号機番号001177以下の本機に適用。)

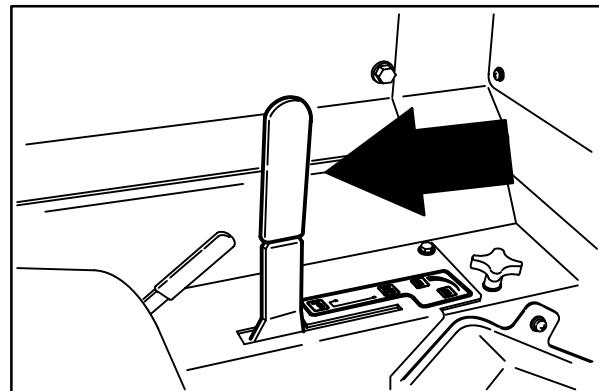
サイドブラシレバーはサイドブラシの位置と回転を制御します。

ON/下降：サイドブラシ位置レバーを引いて、右の図「ON/下降」のスロットに入れる。



08458

OFF/上昇：サイドブラシ位置レバーを引いて、左の図「OFF/上昇」のスロットに入れる。



08459

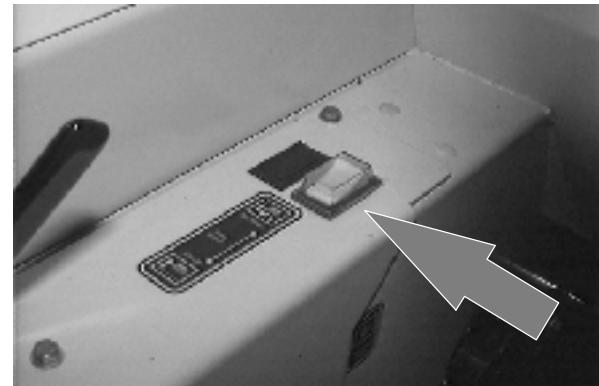
サイドブラシ・スイッチ

(号機番号001177以上の本機に適用)

右サイドブラシスイッチは、右サイドブラシの位置と回転を制御し、オプションの左サイドブラシスイッチは、オプションの左サイドブラシの位置と回転を制御します。

下降と回転の場合：スイッチの上部を回転／下降の位置に押して入れる。

上昇と停止：スイッチの底部を停止／上昇の位置に押して入れる。



操作

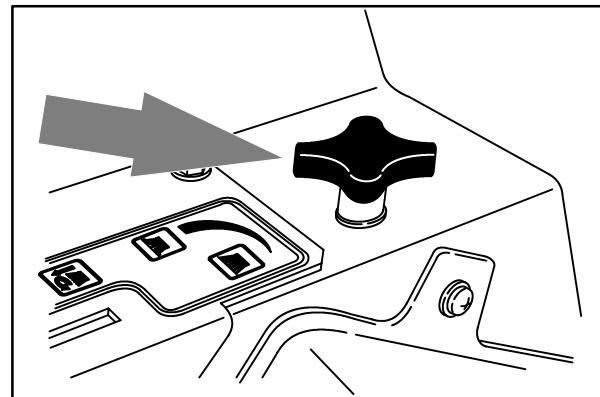
サイドブラシ下方圧調整ノブ

サイドブラシ下方圧調整ノブは清掃面に対するブラシの圧力を変えます。

号機番号001176以下の本機に適用。

■ 重くする：サイドブラシ下方圧調整ノブを左に回す。

■ 軽くする：サイドブラシ下方圧調整ノブを右に回す。

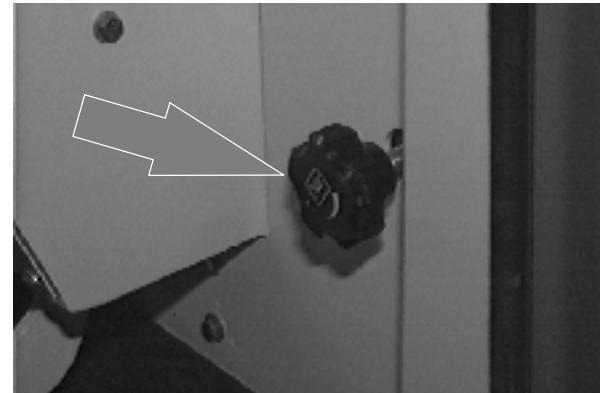


09395

■ 号機番号001177以上の本機に適用。

圧を上げるとき：サイドブラシ下方圧ノブを左に回す。

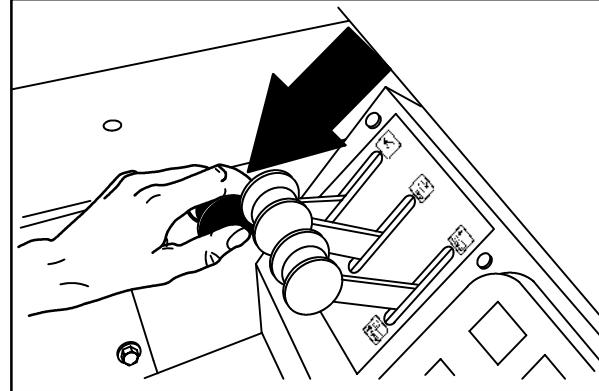
圧を下げるとき：サイドブラシ下方圧ノブを右に回す。



ホッパードアレバー

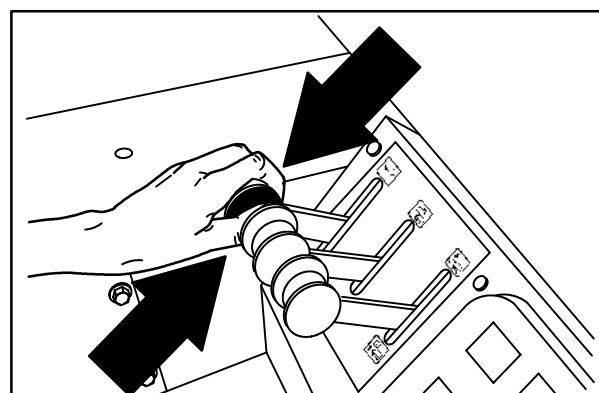
ホッパードアレバーはホッパードアの開閉を制御します。ホッパーのゴミ捨てをしようとするときにゴミやほこりが飛び散らないように閉じます。

開ける：ホッパードアレバーを  「開」の位置に引き、そのまま押さえる。



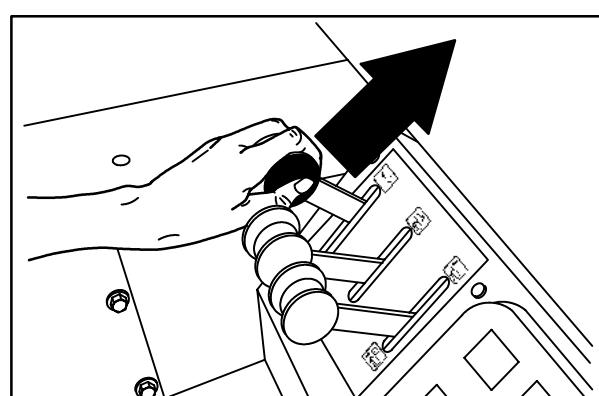
08474

固定：ホッパードアレバーを中央の位置に戻し、手を離す。



08475

閉じる：ホッパードアレバーを  「閉」の位置に押し、そのまま押さえる。

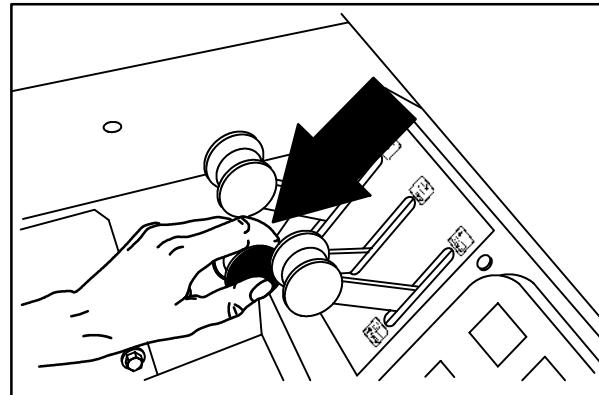


08476

ホッパー回転レバー

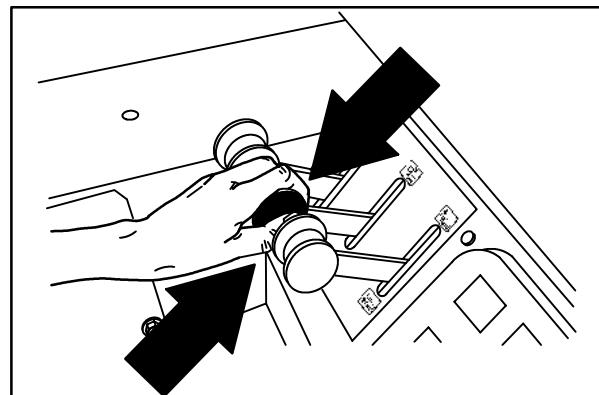
ホッパー回転レバーはホッパーを前、後ろに回転させます。

前：回転レバーを  「前」の位置に引いて、そのまま押さえる。



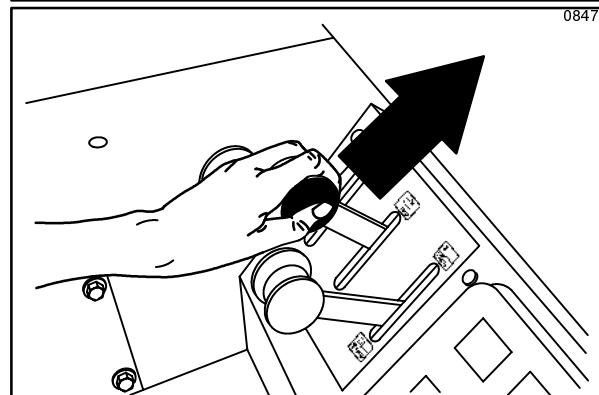
08477

固定：回転レバーを中央の位置に戻し、手を離す。



08478

後ろ：回転レバーを  「後ろ」の位置に押して、そのままに押さえる。



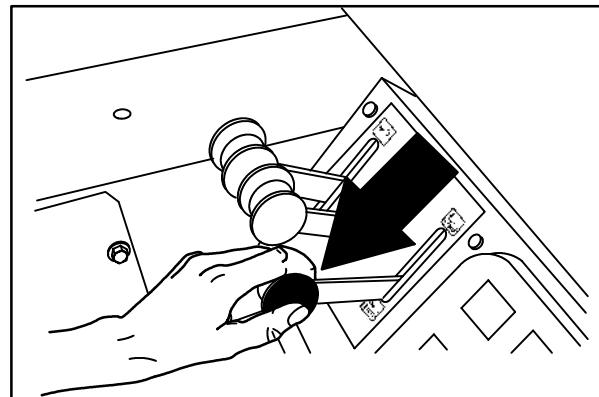
08479

ホッパー昇降レバー

ホッパー昇降レバーはホッパーの上げ降ろしをします。

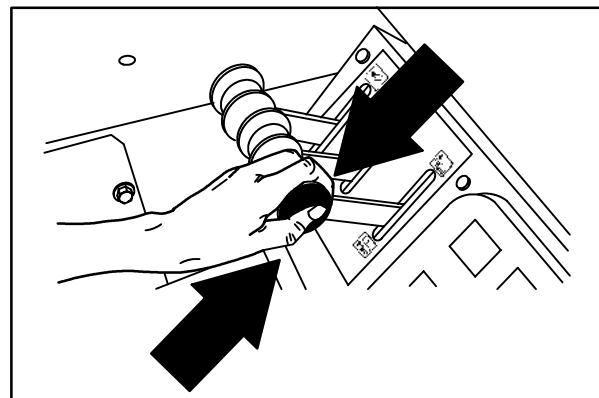
上げる：ホッパー昇降レバーを 「上」の位置に引いて、そのまま押さえる。

注意：上に上げたホッパーは落ちて来ることがあります。必ず安全棒を使用して下さい。



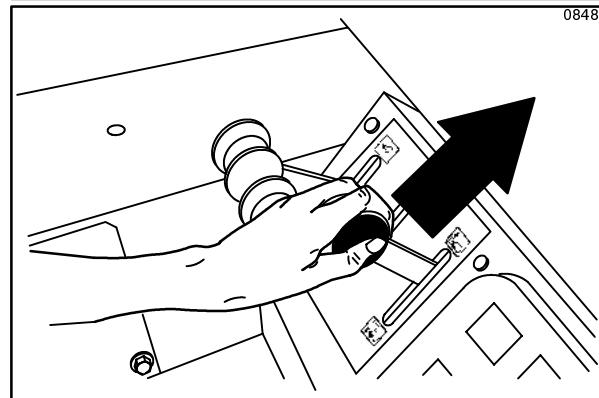
08480

固定：昇降レバーを中心の位置に戻し、手を離す。



08481

降ろす：昇降レバーを 「下」の位置に押して、そのまま押さえる。

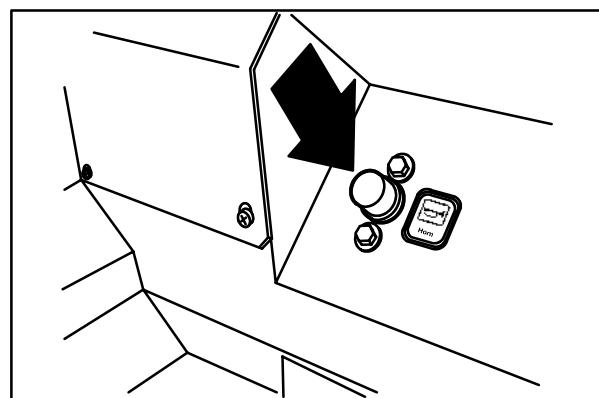


08482

ホーンボタン

ホーンボタン は警笛を操作します。

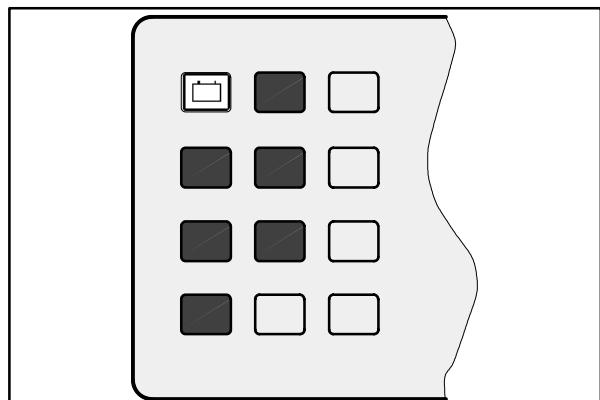
鳴らす：ボタンを押す。



08438

充電系統ランプ

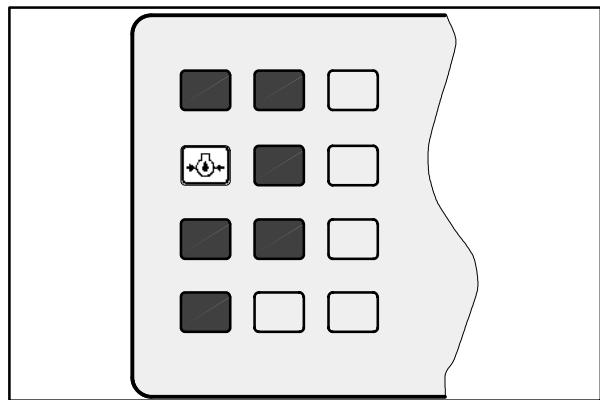
充電系統ランプはバッテリーの電圧が正常値(10~14V)から外れているときに点灯します。□ 点灯した場合はすぐに本機の操作を停止して下さい。異常の原因を調べ、正常に戻して下さい。



07757

エンジンオイル圧ランプ

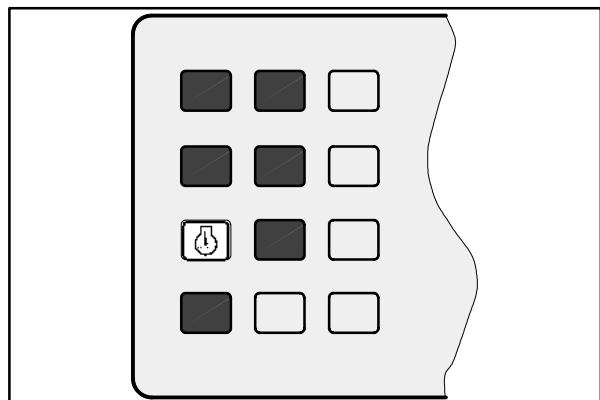
エンジンオイル圧ランプ④はエンジンオイルの圧力が35kPa以下になると点灯します。点灯した場合はすぐに本機の操作を停止して下さい。異常の原因を調べ、正常に戻して下さい。



07758

エンジン冷却水温度ランプ

エンジン冷却水温度ランプ⑤は冷却水の温度が107°C以上になると点灯します。点灯した場合はすぐに本機の操作を停止して下さい。異常の原因を調べ、正常に戻して下さい。

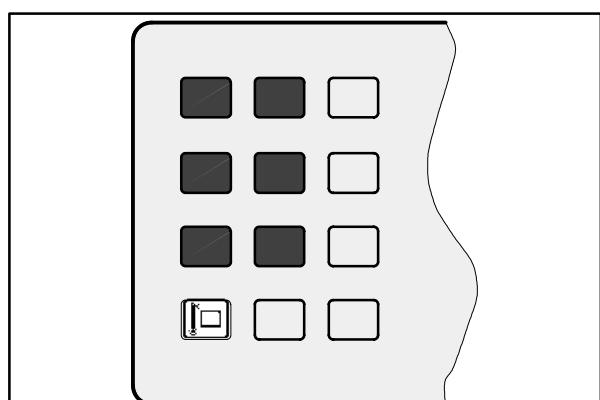


07759

ホッパー温度ランプ—サーモセントリ

ホッパー温度ランプはホッパー内の温度が火災などにより異常に高くなった時に点灯します。□ その場合はサーモセントリがバキュームファンを停止します。

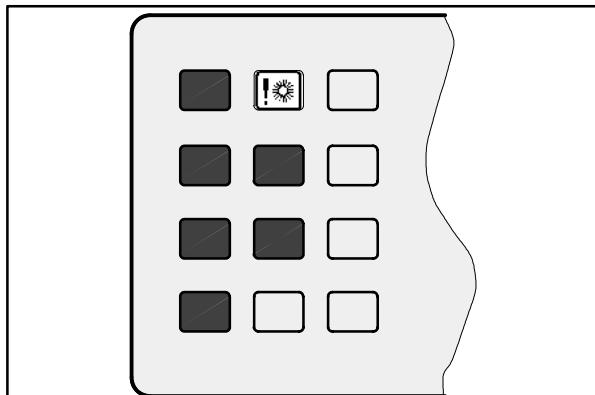
サーモセントリが一度作動したら、「点検整備」の「サーモセントリ」の項を参照してリセットをして下さい。



07760

メインブラシ緊急停止ランプ

メインブラシ緊急停止ランプ  はメインブラシに過大な下方圧がかかったり、メインブラシ及びサイドブラシの油圧モーターの回路に異常が生じたときに点灯します。ブラシ圧はメインブラシ及びサイドブラシの下方圧調整ノブで小さくすることができます。

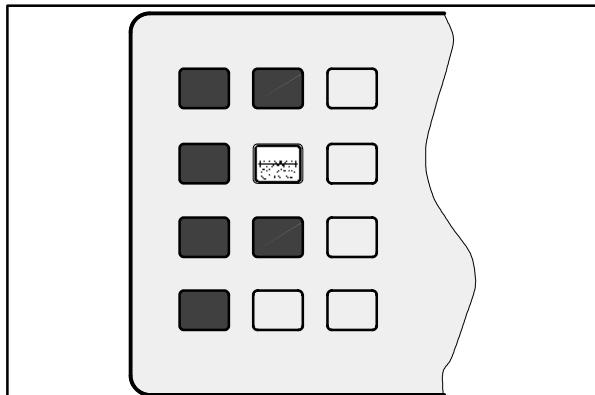


07761

フィルター目詰まり警告ランプ

フィルター目詰まり警告ランプ  はホッパー防塵フィルターが目詰まりをおこしたときに点灯します。フィルターを清掃するときは、フィルターシェーカースイッチを押します。本機がオプションのRFS装置付きの場合は、フィルター目詰まり警告ランプがRFSのサイクル毎に2~3秒間点灯のままになります。

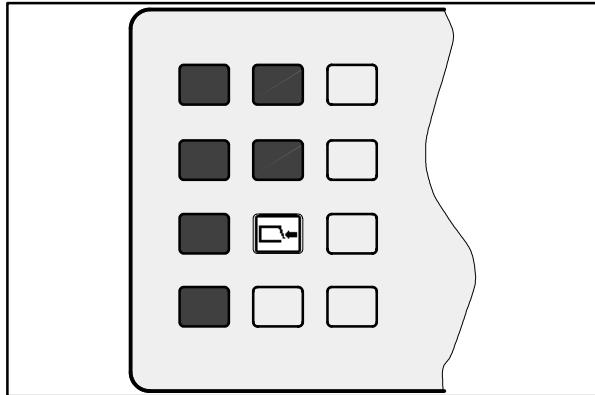
それでもランプが消えないときは、フィルターを、「点検整備」の「ホッパー防塵フィルター」の項に従って、きれいにして下さい。



07762

ホッパードアランプ（オプション）

ホッパードアランプ  はホッパードアが開いているときに点灯します。本機で清掃を始める前に、ホッパードアが閉じてドアランプが消えていることを確認して下さい。

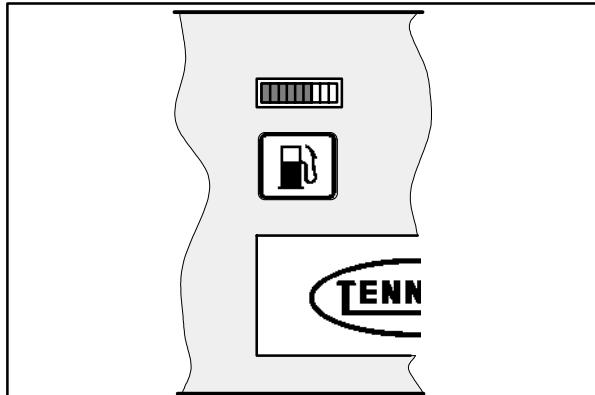


07763

燃料レベルゲージ

燃料レベルゲージ  は燃料タンクにどれだけ燃料が残っているか、LEDのランプの残量で示します。タンクがいっぱいの時はランプの10個の区切りが全部点灯します。タンクが空になるのに従って、区切りが一つづつ消えていきます。10個の区切りが全部消えたときはタンクは空になっています。

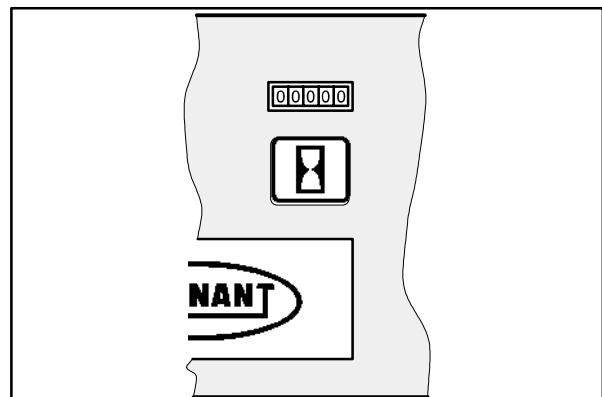
注：燃料タンクを完全に空にしないようにしてください。燃料系統に空気が入り込む恐れがあります。空気が入ってしまうと、次にエンジンをかけるときに空気抜きをしなければなりません。



07764

アワーメーター

アワーメーター[■]は本機を操作した時間数を記録します。定期点検の時期を決めるときの参考にします。



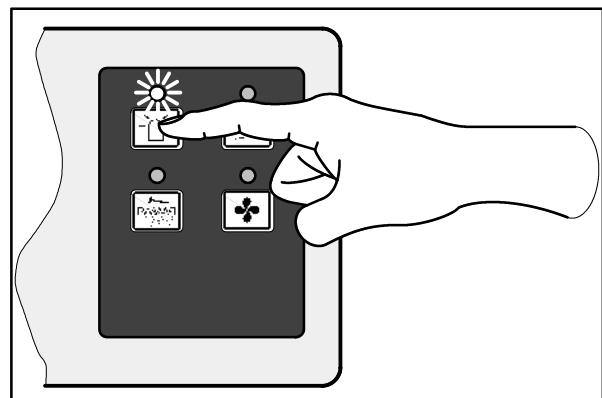
07785

回転灯スイッチ（オプション）

回転灯スイッチ[■]は回転灯の点灯・消灯をします。

点灯する：回転灯スイッチを押す。スイッチの上の表示ランプがつきます。

消灯する：回転灯スイッチを押す。スイッチの上の表示ランプが消えます。



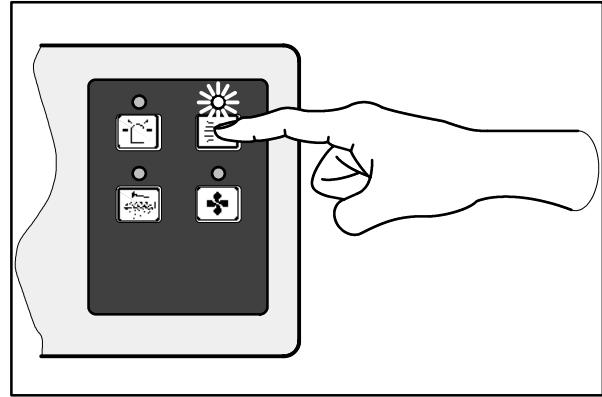
08228

ヘッドライトスイッチ

ヘッドライトスイッチ[■]はヘッドライトと後尾灯の点灯・消灯をします。

点灯する：ヘッドライトスイッチを押す。スイッチの上の表示ランプがつきます。

消灯する：ヘッドライトスイッチを押す。スイッチの上の表示ランプが消えます。



08230

フィルターシェーカースイッチ

フィルターシェーカースイッチ \square はホッパー防塵フィルターの塵落しを始めます。塵落しは約40秒間行われます。

始動：フィルターシェーカースイッチを押す。フィルターシェーカーが作動している間、表示ランプが点灯します。

停止：40秒間のシェーキングのサイクル中にシェーカーを停止させたいときは、再度フィルターシェーカースイッチを押してください。

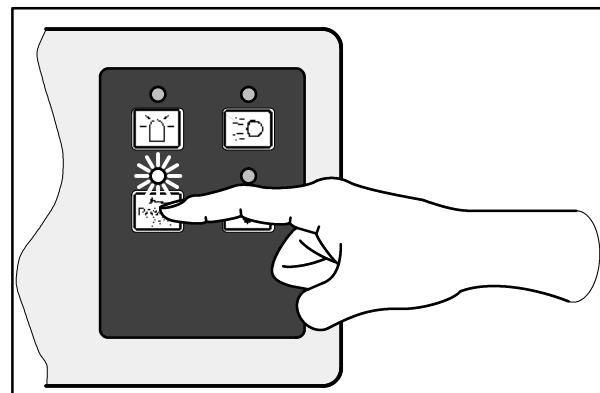
注：バキュームファンは、フィルターシェーカーの作動中は停止しています。

バキュームファンスイッチ

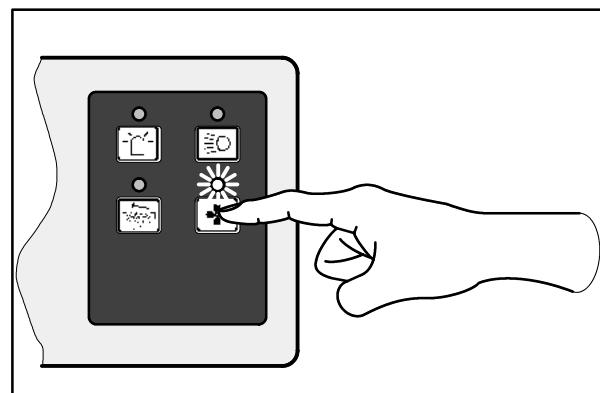
バキュームファンスイッチ \clubsuit はバキュームファンの始動・停止を制御します。

始動：バキュームファンスイッチを押す。スイッチの上の表示ランプが点灯します。

停止：バキュームファンスイッチを押す。スイッチの上の表示ランプが消えます。



08229



08231

イグニションスイッチ

イグニションスイッチはキー操作でエンジンの始動と停止を行います。

予熱：キーを時計方向に回すと、グローブラグ（予熱）ランプが点灯する。このランプは気温などにもよるが、通常5~15秒で消灯し、エンジンを始動できる状態になります。



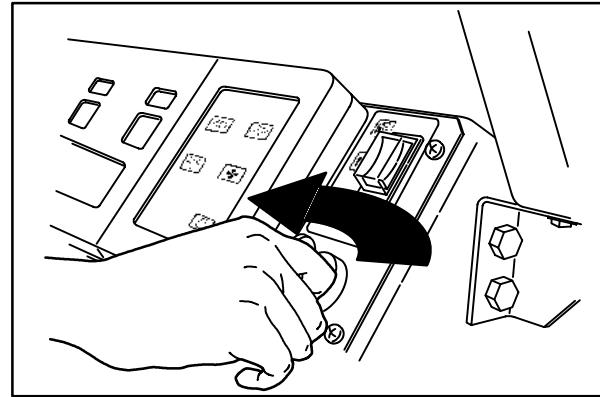
08460

始動：キーを右いっぱいに回す。エンジンがかかったらすぐに手を離す。



08460

停止：キーを左に回す。

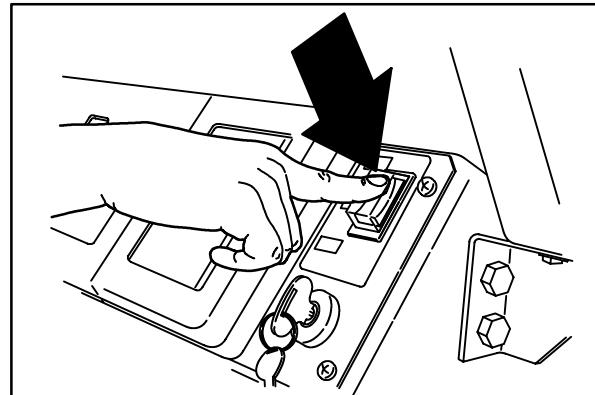


08461

メインブラシスイッチ

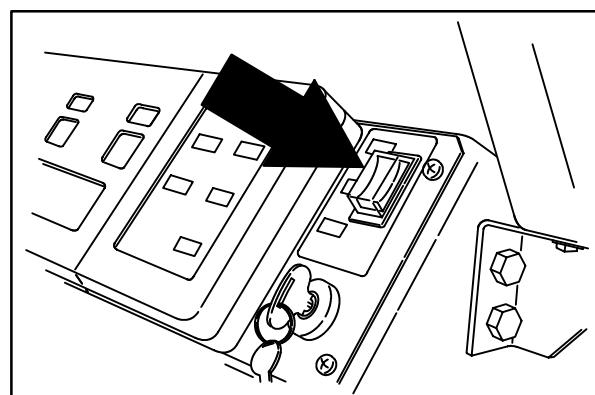
メインブラシスイッチはメインブラシの位置と回転を制御します。

メインブラシ下降／通常速度：スイッチの上部の
「通常」の位置を押す。



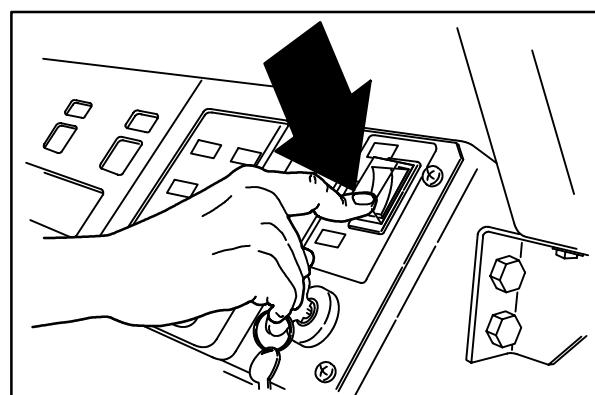
08462

メインブラシ上昇／停止：スイッチを中央の「OFF」
の位置にする。



08464

メインブラシ下降/II速：スイッチの下部の「II速」
の位置を押す。



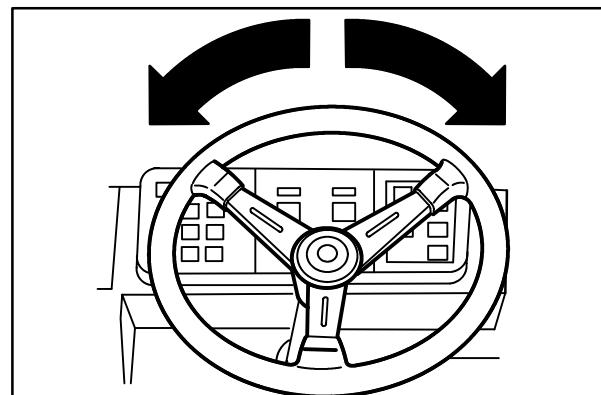
08463

方向制御ハンドル

方向制御ハンドルは本機の方向を制御します。本機はハンドルの動きに敏感に反応します。

左：ハンドルを左に回す。

右：ハンドルを右に回す。

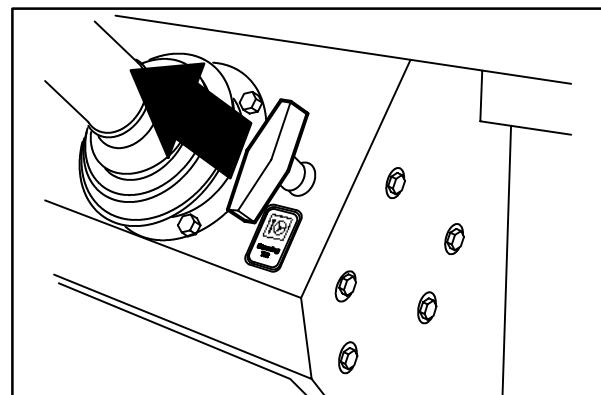


08484

ステアリングホイールチルトレーべー

ステアリングホイールチルトレーべー⑩は方向制御ハンドルの傾きを調整します

調整：チルトレバーを引き出し、ハンドルを上下に動かし、ちょうどよい位置でレバーの手を離す。



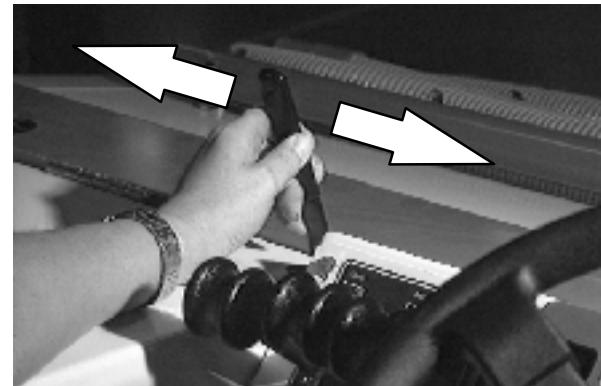
08439

プロアワンドレーべー（オプション）

プロアワンドレーべーは、オプションのプロアwandを流れるエアーを制御します。

ON: レバーを左にする。

OFF: レバーを右にする。



サーキットブレーカー

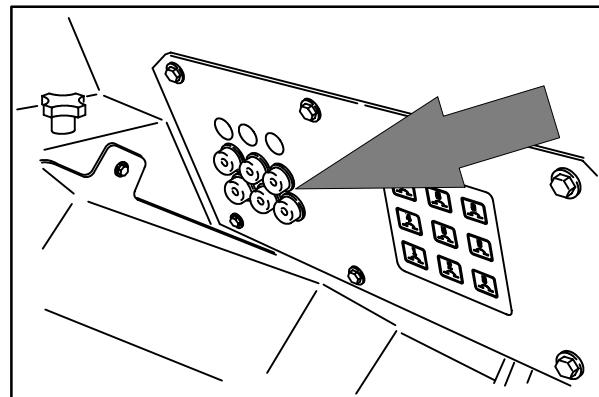
サーキットブレーカーは何回でも使える電気回路保護装置です。回路に過負荷がかかった時、回路内の電流を遮断するようになっています。ブレーカーが切れたときは、ブレーカーが自然に冷めるのを待って、リセットボタンを押して下さい。

ブレーカーが切れた原因となる過負荷が取り除かれない場合は、ブレーカーは電流を遮断し続けます。

サーキットブレーカーはオペレーター室の中にあります。

下の表はサーキットブレーカーとその保護している電気部品を示しています。

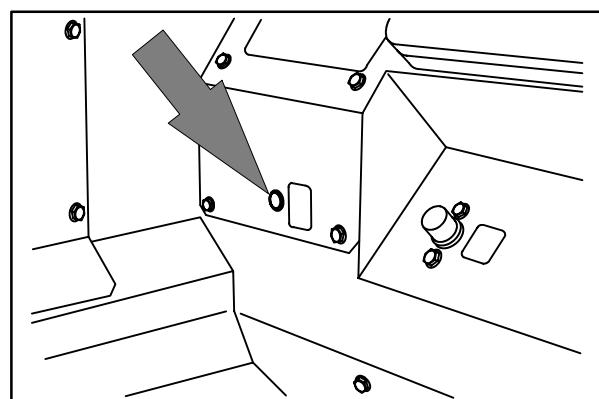
サーキット ブレーカー	許容量	保護している回路
① CB-1	15 A	ホーン
② CB-2	15 A	フィルターシェーカー
③ CB-3	15 A	制御装置
④ CB-4	15 A	計器盤
⑤ CB-5	15 A	回転灯
⑥ CB-6	2.5 A	ブラシ
⑦ CB-7	15 A	左サイドブラシ (オプション)
⑧ CB-8	15 A	アクセサリ類
⑨ CB-9	15 A	アクセサリ類



08440

グローブラグランプ

イグニションスイッチをスタート位置の時計方向に回すと、グローブラグランプが点灯する。 このランプは気温にもよるが、通常5~15秒で消灯し、エンジンを始動できる状態になります。

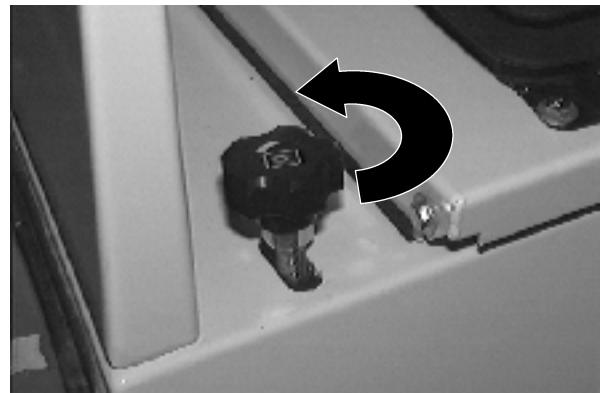


08927

メインブラシ下方圧調整ノブ

メインブラシ下方圧調整ノブは清掃面に対するメインブラシの圧力を変えます。 

圧を上げる：メインブラシ下方圧調整ノブを左に回す。



圧を下げる：メインブラシ下方圧調整ノブを右に回す。



掛け金

サイドドア、後部ドア、エンジンカバー、ホッパー カバーにはそれぞれ、安全のために掛け金がついています。

メインブラシ用サイドドアを開ける：ドアの掛け金を引き上げる。

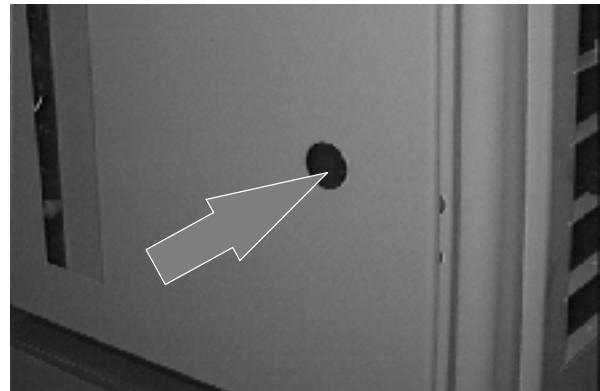
エンジン用サイドドアを開ける：ドアの掛け金を引き上げる。

後部ドアを開ける：掛け金を左に押す。

エンジンカバーを開ける：カバーの掛け金を押し込む。

ホッパー カバーを開ける：掛け金を右に押す。

後部バンパードアを開ける：掛け金を左に押す。

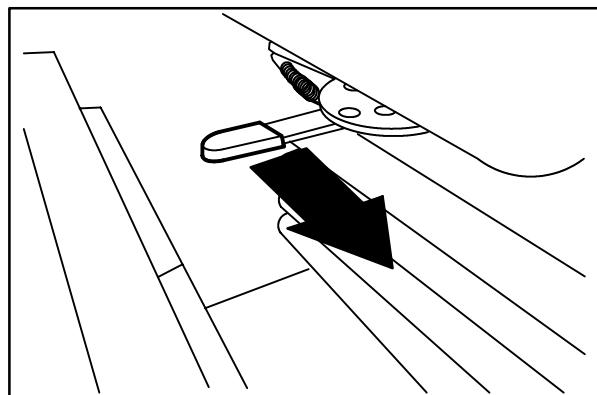


オペレーター席

オペレーター席は、シートの前後位置とシートの堅さを調整することができます。

シートの前後位置はシート位置レバーで調整します。

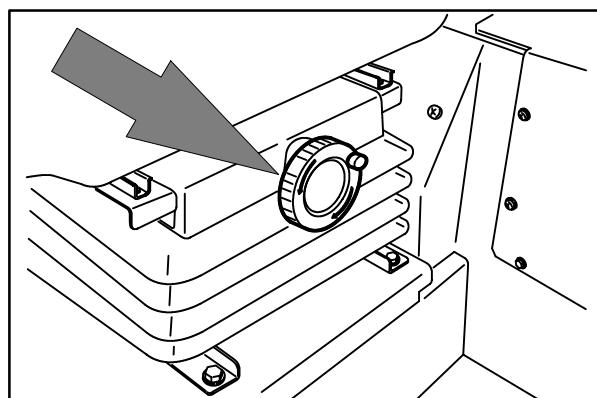
調整：レバーを前に押しながら、シートを前後に滑らせ、好みの位置でレバーから手を離す。



08443

シートの座り心地は堅さ調整ノブで調整します。

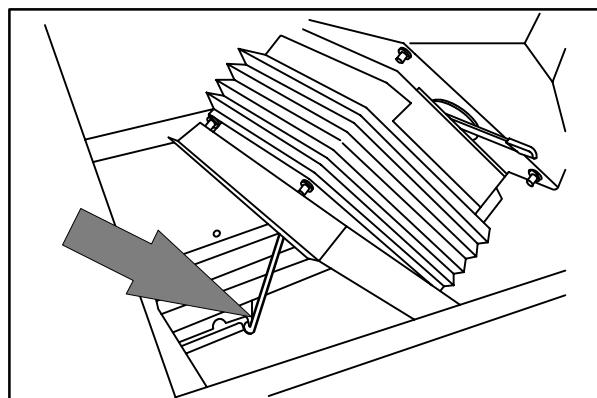
調整：シートをより堅くしたいときは、調整ノブを右に回し、堅さを減らしたいときは調整ノブを左に回す。



08444

持ち上げる：シート取り付け板を安全棒で固定される位置まで引き上げる。

降ろす：安全棒を外して、シート取り付け板を降ろす。

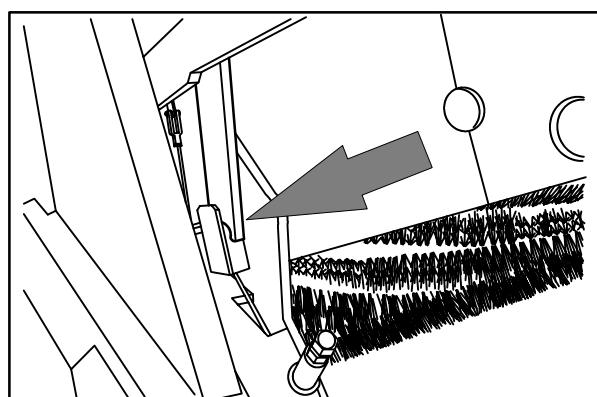


08445

ホッパー安全棒

ホッパー安全棒はホッパーのオペレーター席側にあります。ホッパー安全棒はホッパーを上に上げた状態で固定して、その下で作業ができるようにするものです。本機の油圧システムだけでホッパーを上に上げた状態にしておくことがないようにして下さい。

注意：上に上げたホッパーは落ちて来ることがあります。必ずホッパー安全棒を使用してください。



08446

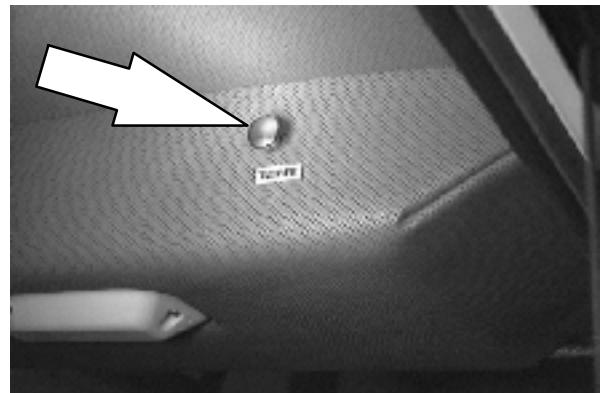
操作

ウインドシールドワイパースイッチ (オプション)

ウインドシールドワイパースイッチは、オプションのキャビンのウインドシールドワイパーを作動させます。

ON:スイッチを引く。

OFF:スイッチを押す。

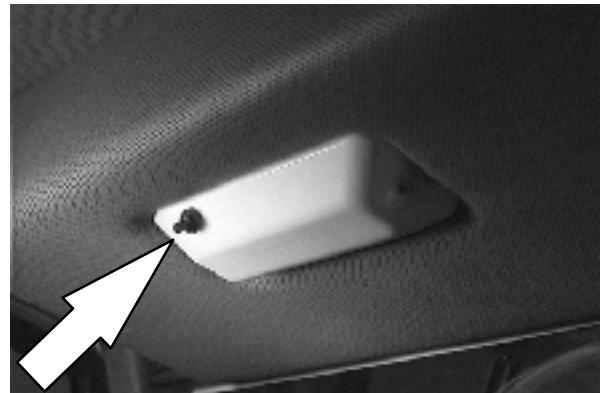


ドームライトスイッチ (オプション)

ドームライトスイッチは、オプションのキャビンのドームライトを作動させます。

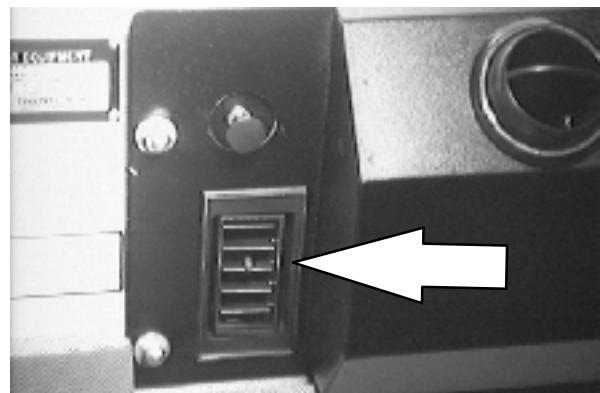
ON:スイッチを押す。

OFF:スイッチを再度押す。



循環エアールーバー (通風口) (オプション)

オプションの循環エアールーバーは、キャビン内のエアーを循環させます。この通風口をあけて、エアーの加熱、冷却を最大に出来ます。

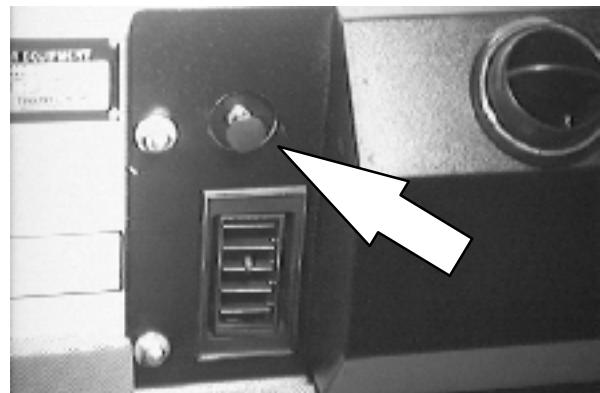


ヒーターノブ (オプション)

ヒーターノブはオプションのキャビンのヒーターを制御します。

ON:希望する温度になるまでノブを引き込む。ヒーターを最高にするにはノブを一杯に引き込む。

OFF:ノブを一杯に押し込む。



ファンスピードスイッチ（オプション）

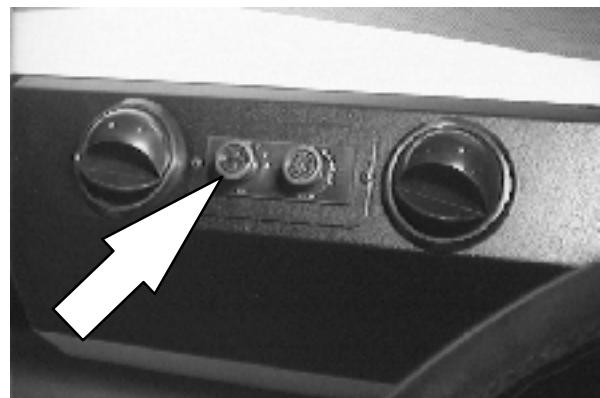
ファンスピードスイッチは、オプションのキャビン内のファンスピードを制御し、プレッシャーライザーは3段階のスピードに出来ます。

弱：スイッチを右に回し、第1の位置にする。

中：スイッチを右に回し、第2の位置にする。

強：スイッチを右に回し、第3の位置にする。

OFF:スイッチを左に回し、offの位置にする。

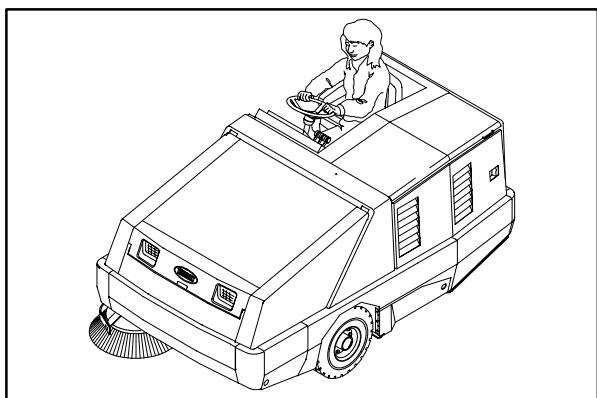


本機の仕組み

本機の進む方向は方向制御ハンドルで制御します。速度と前進／後進は前後進ペダルで制御します。本機の速度を緩めたり、停止させるのはブレーキペダルで行います。

サイドブラシはゴミをメインブラシの前方に掃き寄せます。メインブラシは床のゴミを拾ってホッパーに入れます。バキュームシステムはほこりを含んだ空気をホッパーとホッパー防塵フィルターを通して吸引します。

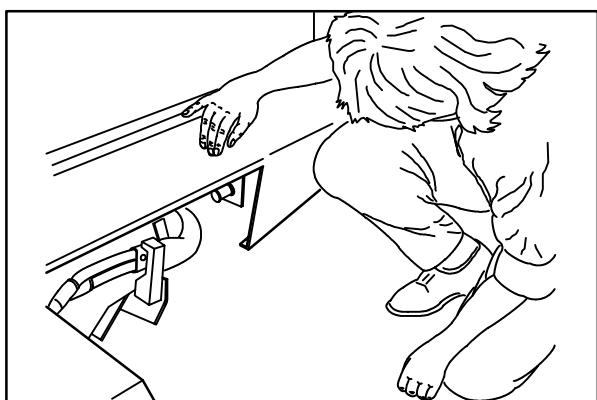
清掃が終わったら、ホッパー防塵フィルターをきれいにして、ホッパー内のゴミを捨てて下さい。



08580

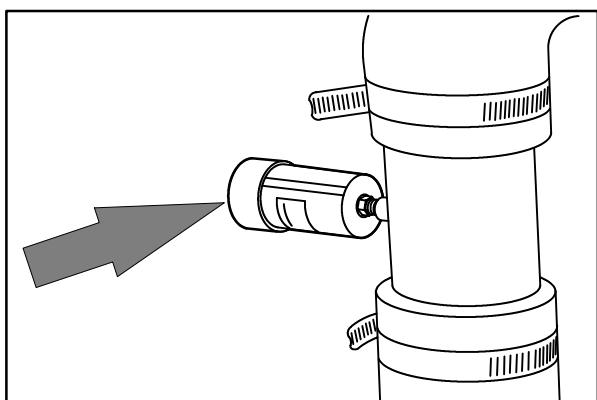
操作前の点検事項

- 本機の下を見て、燃料、オイル、冷却液などの液漏れがないか、調べる。



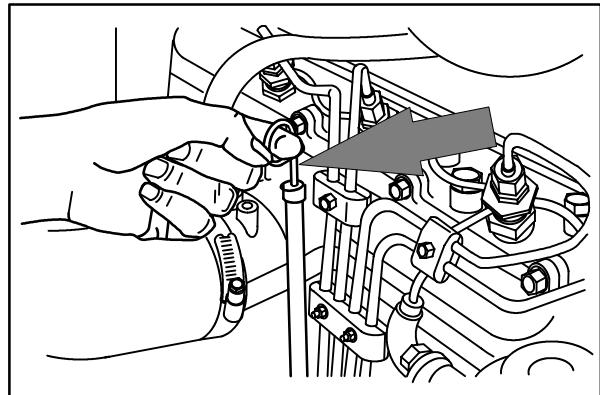
07807

- エンジンエアフィルター計を点検する。



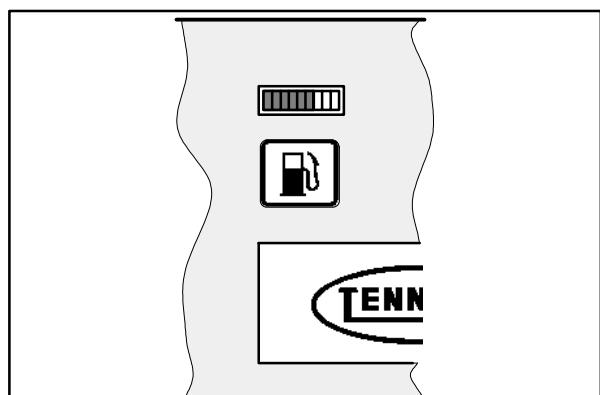
08447

□ エンジンオイルのレベルを調べる。



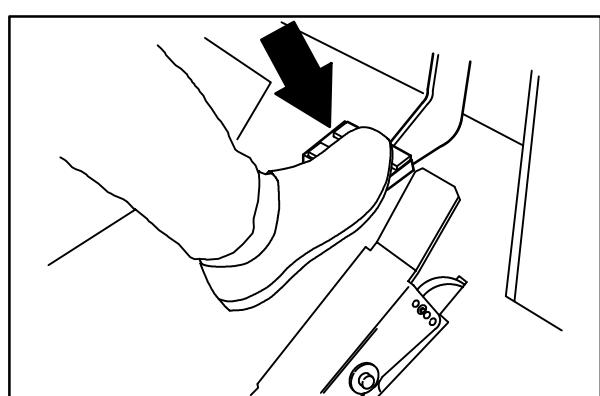
08431

□ 燃料計を点検する。



07764

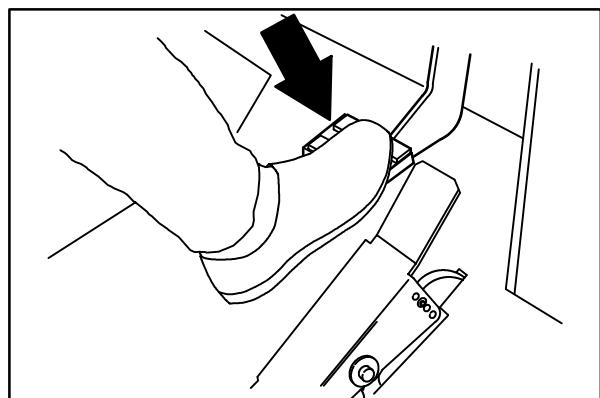
□ ブレーキとハンドルが正常に作動するか、点検する。



08471

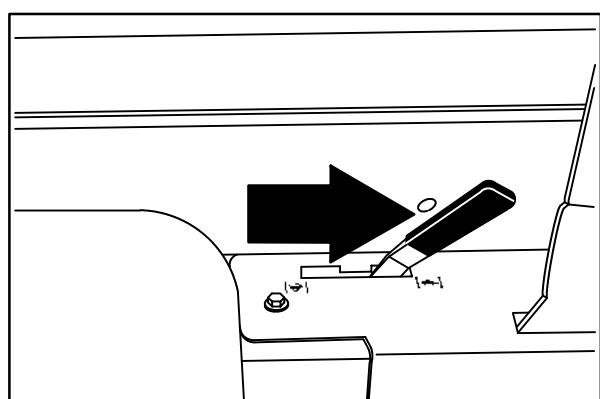
本機を始動する

1. オペレータ席に座り、前後進ペダルをニュートラルにしておく。ブレーキペダルを踏むか、パーキングブレーキをかける。



08471

2. スロットルレバーを「アイドリング」の位置に動かす。



08457

3. イグニションスイッチのキーを時計方向に回すと、グロー・プラグ（予熱）ランプが点灯する。このランプは気温にもよりますが通常5~15秒で消灯し、エンジンを始動できる状態になります。



08460

4. イグニションスイッチのキーをエンジンがかかるまで右に回す。

注：スターターのモーターは一度に10秒以上回さないで下さい。また、エンジンがかかった後には回さないで下さい。始動の操作を再度行なうときは数秒間おいて再び行なってください。続けて行なうと、スターターのモーターを損傷する恐れがあります。

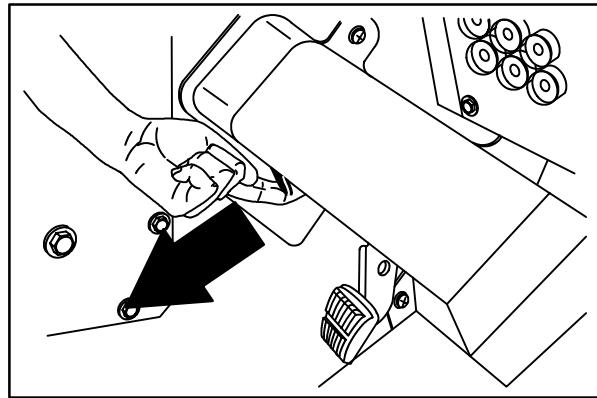
5. エンジンと油圧系統が温まるまで、3~5分待つ。

! 警告：エンジンは有毒ガスを発生し、重度の呼吸障害を起こすか、窒息する可能性もありますので、十分な換気に注意してください。安全関係指示に注意し、エンジンは適正に調整してください。

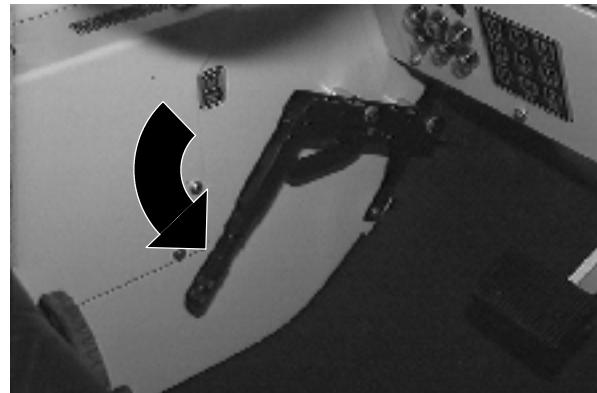


08460

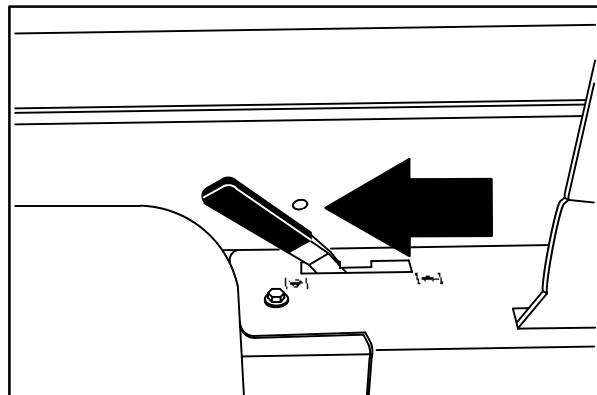
6. パーキングブレーキをはずす。



08435

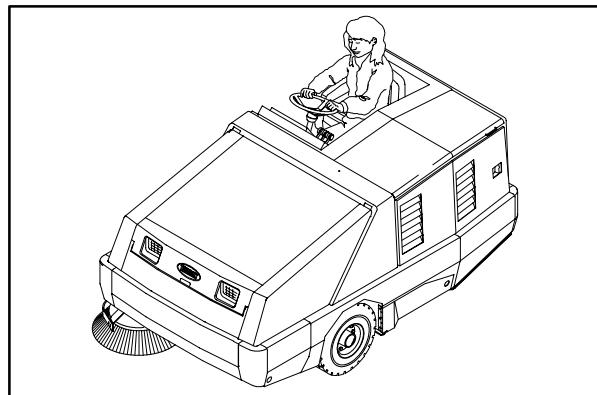


7. スロットルレバーを 「速い」 の位置に動かす。



08456

8. 本機を清掃場所に移動する。



08580

清掃方法とブラシのご案内

清掃を始める前に、大きなゴミは拾っておきます。段ボールの箱はつぶすか、通路から取り除いて下さい。ブラシやブラシのプラグに絡み付く恐れのある紐や針金も拾って下さい。

予め清掃の順序を考えます。できるだけ停止する回数を減らし、長い距離を続けて清掃できるようになって下さい。狭い通路のゴミは前もって広い通路に掃き出しておきます。部屋または一区画全体を、一度に清掃するようにします。また、できるだけ直線的に進んで下さい。柱にぶつかったり、本機の脇を擦ったりしないようにします。また、ブラシの幅は少しづつ重ねて下さい。

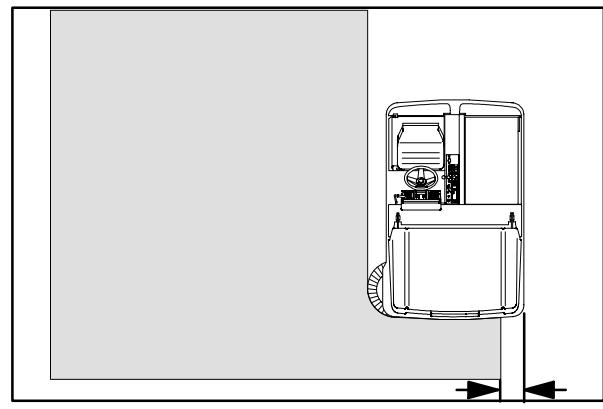
本機の操作中に方向制御ハンドルを必要以上に急に回さないで下さい。本機はハンドルの動きに敏感に反応するようになっていますので、緊急事態を除き、急なハンドル操作はやめて下さい。軽い紙屑などを拾い上げるときは、メインブラシを「II速」にして使用して下さい。この速度は効率よく紙屑を拾い上げ、ホッパーに放り込みます。

ただし、ほこりの多い場所にはこの「II速」は使用しないで下さい。本機がほこりをかぶり、防塵フィルターも目詰まりを起こします。一般的なゴミを拾うときはメインブラシの速度を「通常」にして行って下さい。

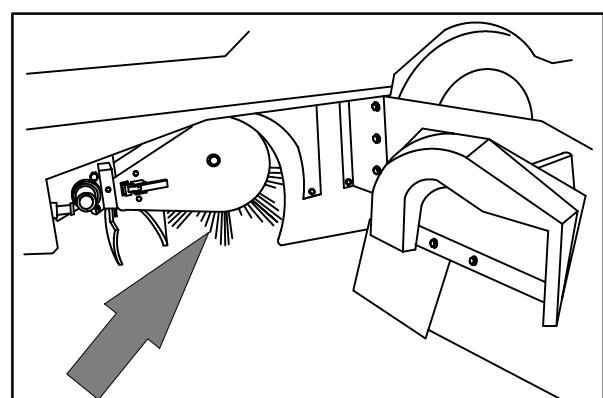
ブラシは最も能率よく清掃するために、状況に応じて適切なタイプを選んで使用して下さい。用途にあわせて次のようなメインブラシ、サイドブラシがあります。

ポリプロピレン8列ダブル植毛メインブラシ 砂や砂利、紙屑などに最適。濡れても堅さを失わず、屋内、屋外とも使用可。熱を持ったゴミには不適。

ポリプロピレンとワイヤーの8列ダブル植毛 メインブラシ ワイヤーの毛は少し固まりかけた汚れや重い破片を細かくします。ポリプロピレンの毛はそのゴミをうまくホッパーに送り込みます。



07817



08587

**リンクル（縮れ）ワイヤー8列ダブル植毛メイン
ブラシ** 固くなつた汚れ、重い塵、油汚れ、グリス、泥などに対し、硬いワイヤーの先がくいこみます。このブラシは鋳物工場など、化学素材のブラシでは溶ける恐れのある場所に適しています。ホッパーにゴミを放り込むことはよくできますが、ほこりっぽい場所には向きません。

ナイロン24列植毛メインブラシ 非常にほこりっぽい場所または凹凸のある床に適しています。このブラシはゴミをよく拾い、長持ちします。

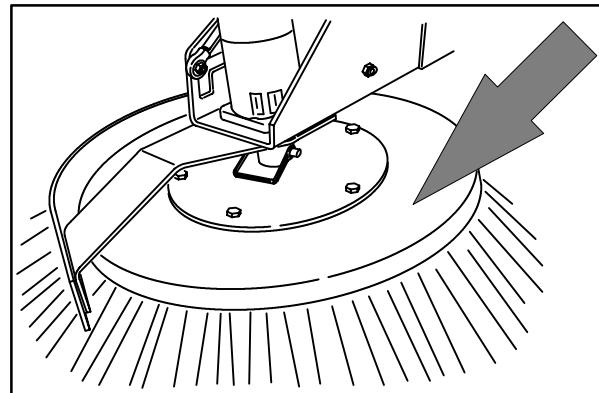
ナイロンパトロールメインブラシ 屋内または屋外の広い場所を高速で清掃するためのブラシ。このブラシのパターンは軽いゴミ（木の葉や紙屑）に最適。ナイロンの毛は長持ちします。

**太ゲージのポリプロピレン8列ダブル植毛メイン
ブラシ** 屋外の清掃用。堅い毛が重くてかさばるゴミ（木の葉や紙屑）を効率よくホッパーに送り込みます。

ポリプロピレンのサイドブラシ 屋内、屋外で軽量または中程度の重さのゴミの掃き掃除用。このブラシはゴミが濡れている時にも適しています。

ナイロンのサイドブラシ 長持ちします。凹凸のある床に適しています。

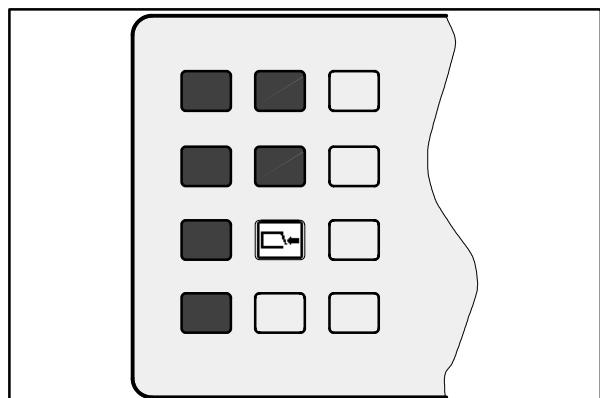
平ワイヤーのサイドブラシ 屋外の縁石沿いの、汚れがひどく、固くなっている場所の清掃に適しています。硬いワイヤーの先が汚れの塊を掘り起こします。このブラシはまた、化学素材の毛先では溶ける恐れのある鋳物工場などの清掃にも適しています。



08588

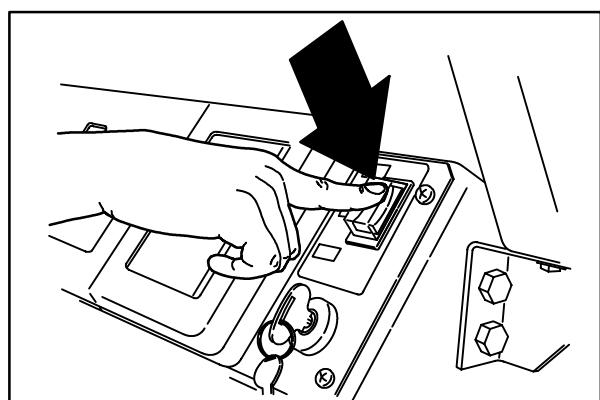
清掃

- オプションのホッパードア・ライト付きの本機の場合、清掃運転中はホッパードアが閉まります。ホッパードアランプが消えていることを確認する。もしホッパードアランプが点灯していたら、ホッパーのドアを閉じる。



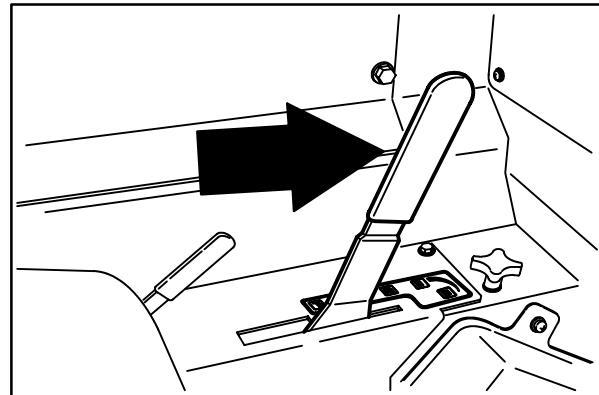
07763

- メインブラシスイッチを「通常」または「II速」の位置に入れる。



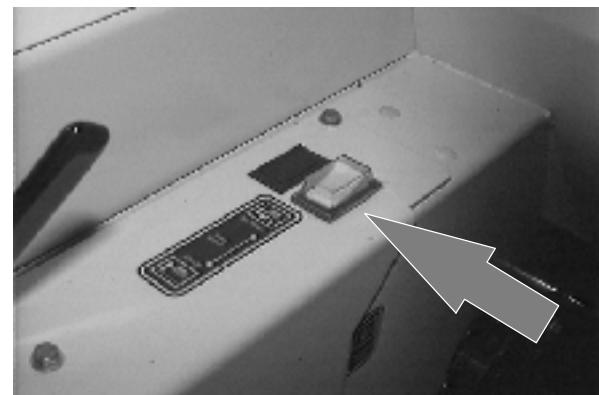
08462

3. 号機番号001176以下の本機に適用。サイドブラシ位置レバーを引いて、右の「ON/下降」のスロットを入れる。



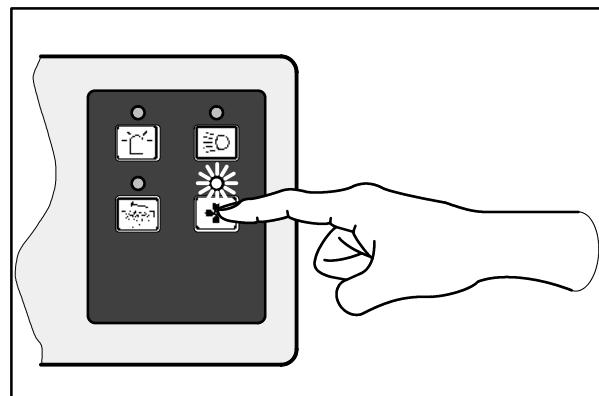
08458

号機番号001177以上の本機については、サイドブラシ・スイッチの上部を回転／下降の位置に押して入れる。



4. バキュームファンスイッチを押して、吸引を始める。

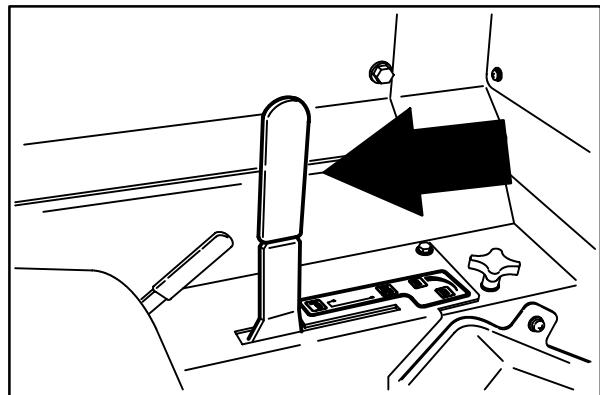
5. 清掃する。



08231

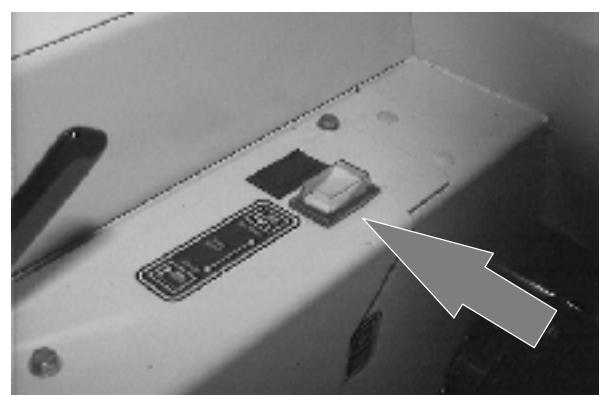
清掃をやめる

- 号機番号001176以下の本機に適用。サイドブラシ位置レバーを引いて、左の図「OFF/上昇」のスロットに入れる。

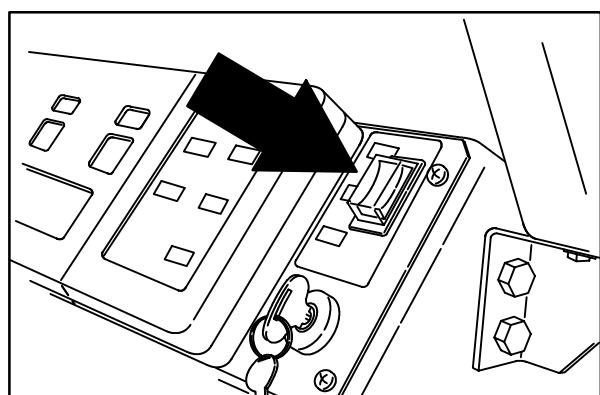


08459

号機番号001177以上の本機については、サイドブラシ・スイッチの底部を停止／上昇の位置に押して入れる。

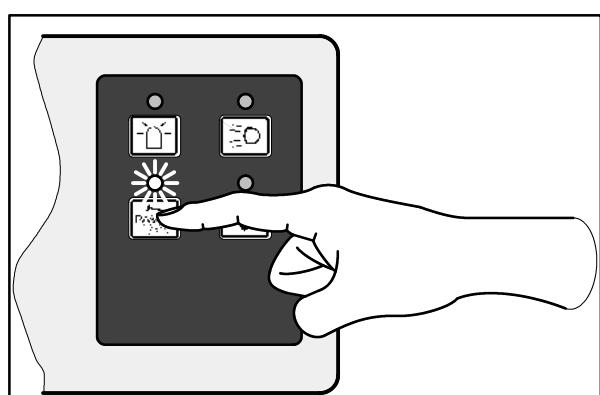


- メインブラシスイッチを中央の図「OFF」の位置にする。



08464

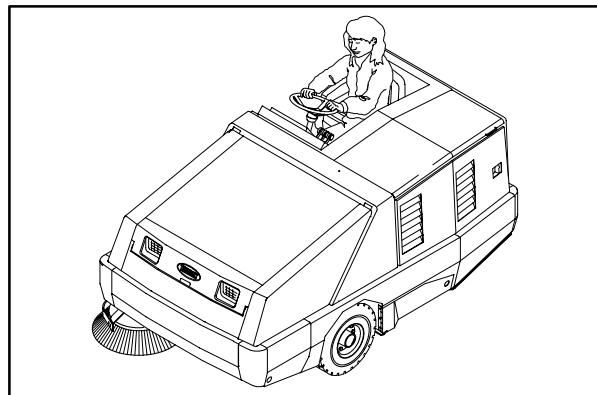
- フィルターシェーカースイッチを押して、ホッパー防塵フィルターの塵落しをする。



08229

ホッパーのゴミ空け

1. 本機をゆっくりとゴミ捨て場、またはゴミ箱に移動する。

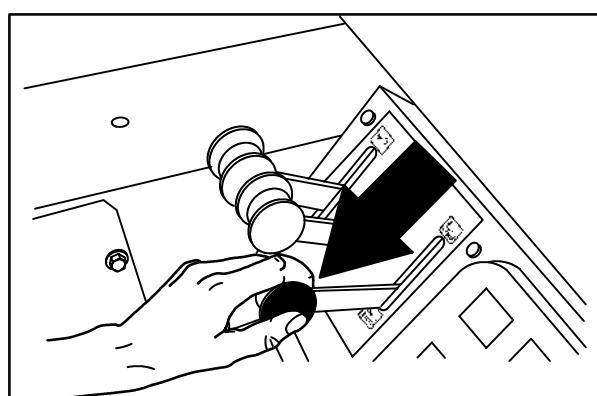


08580

2. ホッパー昇降レバーを引いて、「上」の位置にし、ホッパーを必要な高さに持ち上げる。

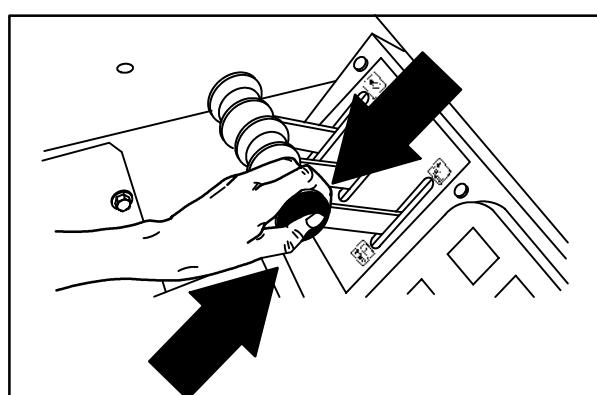
安全のために：本機使用の際、ホッパーを上げる前に、十分な空間があることを確認して下さい。

注：高い位置でホッパーのゴミ空けをするときに最低必要な高さは床から3355mmです。



08480

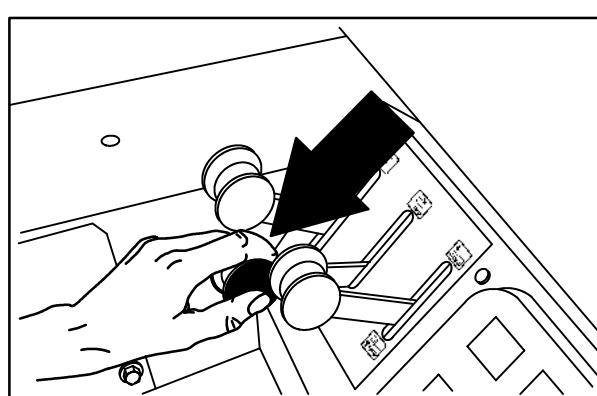
3. ホッパー昇降レバーを中央の「固定」の位置に戻して手を離す。



08481

4. ゴミ箱に近づく。

安全のために：本機使用の際、ホッパーを持ち上げて移動するときは、十分に注意すること。



08477

5. ホッパー転回レバーを引いて、「アウト」の位置に保つ。

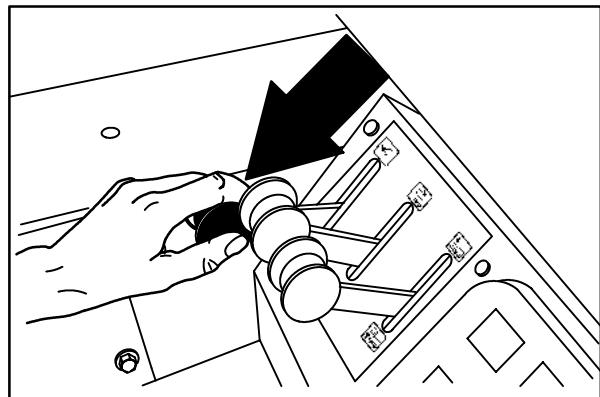
6. ホッパーをゴミ捨て位置に下げ、埃をコントロールする。

操作

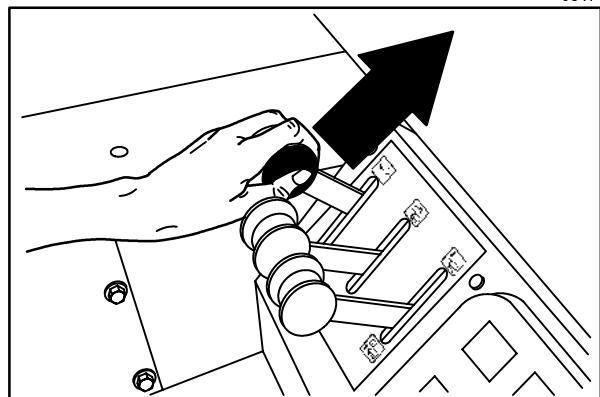
7. ホッパーードアレバーを引き、「開」の位置に保つ。
8. ホッパーを十分に上げ、又はホッパーードアを閉め、ゴミ捨て場所の高さをクリヤー出来るようする。
9. ゴミ捨て場所から機体をゆっくり後退させる。

安全のために：本機使用の際、ホッパーを持ち上げて移動するときは、十分に注意すること。

10. ホッパーードアレバーを押して、「閉」の位置に保つ。

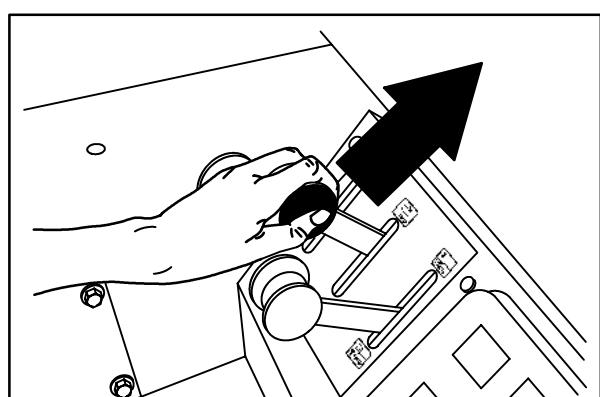


08474



08476

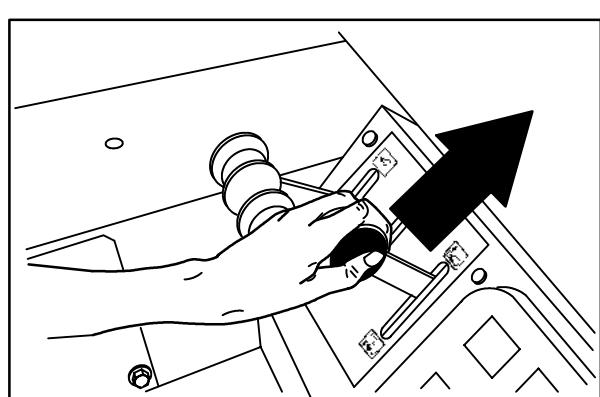
11. ホッパー転回アウトレバーを押して、「イン」の位置に保つ。



08479

12. ホッパー昇降レバーを中央の押して、「下」の位置に保つ。

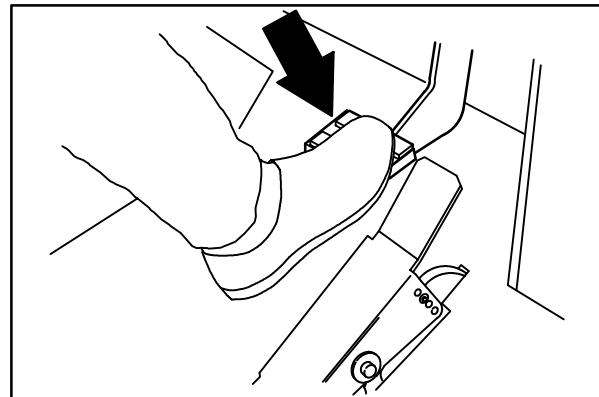
注：ホッパーリフトレバー、ホッパー転回レバー及びホッパーードアーレバーの制御は、ホッパーを上げ、ホッパー転回アウトし、ホッパーードアを開ける作業を同時に操作することが出来ます。



08482

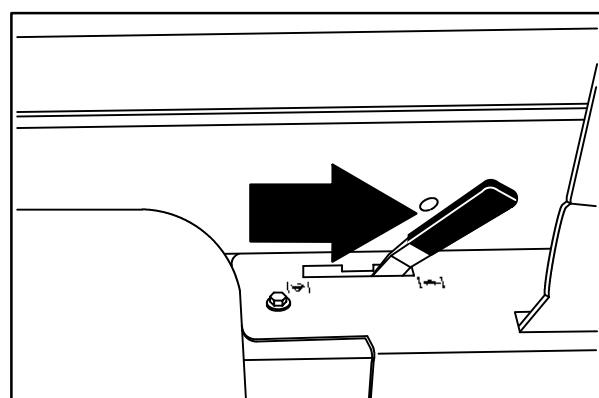
本機を停止する

1. 清掃をやめる。
2. 前後進ペダルから足を降ろす。ブレーキペダルを踏む。



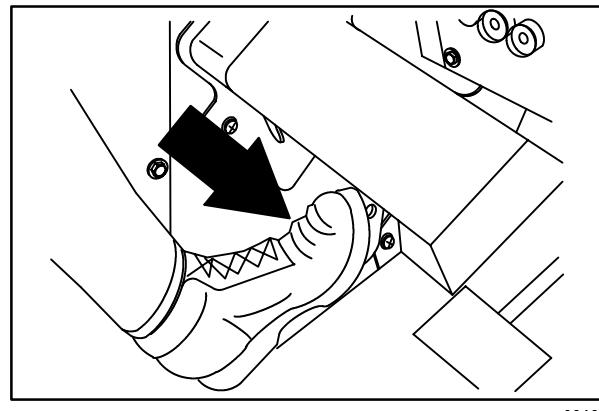
08471

3. スロットルレバーを 「アイドリング」 の位置に動かす。

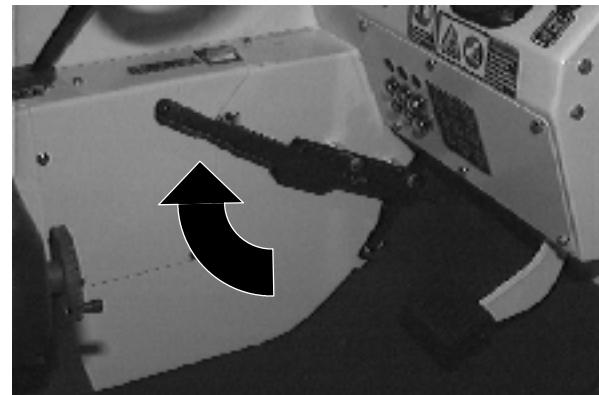


08457

4. パーキングブレーキをかける。

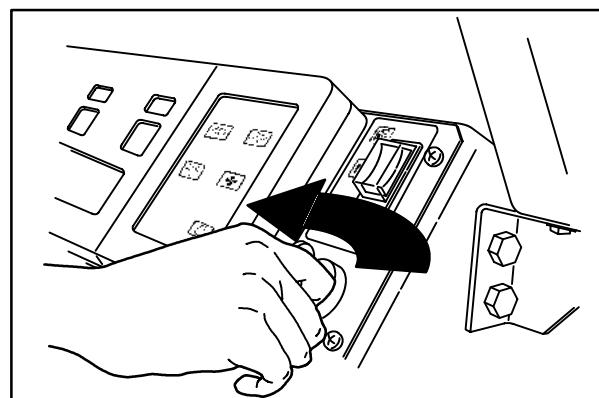


08434



5. イグニションスイッチのキーを左へ回し、エンジンを止める。キーを抜く。

安全のために：本機を離れたり、点検整備をする前に、本機を水平な場所に止め、パーキングブレーキをかけ、スイッチを切り、キーを抜いて下さい。

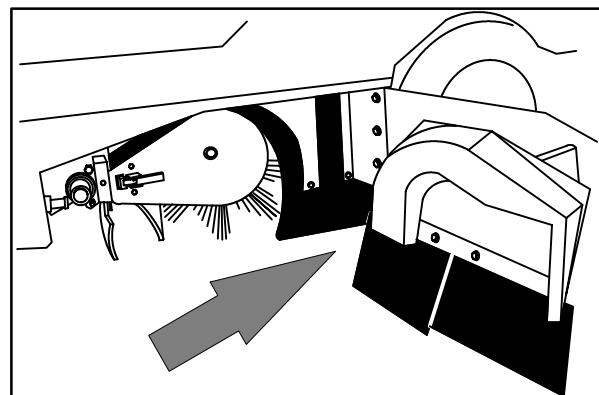


08461

操作後の点検事項

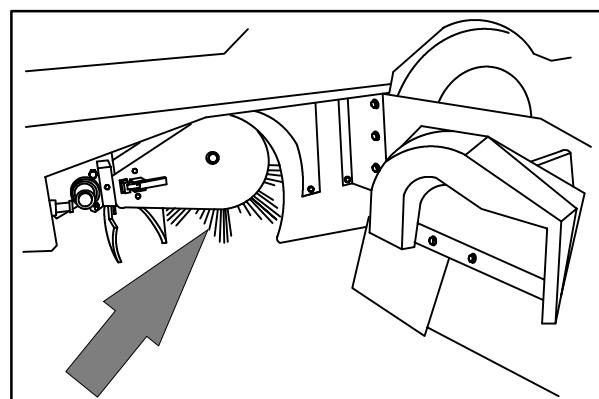
- ブラシの調整を見る。「点検整備」の「メインブラシパターンの点検と調整」「サイドブラシ」の項を参照。

- ブラシスカートの損傷、摩耗、調整を見る。



08493

- メインブラシ及びサイドブラシに針金や紐が絡み付いていないか、調べる。

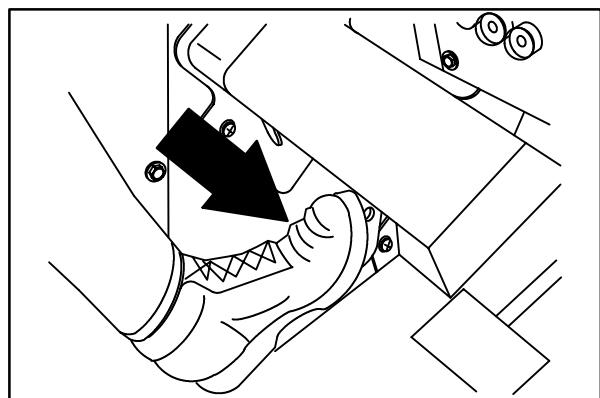


08587

- 燃料漏れがないか、臭いを調べる。
- 燃料、オイル、冷却液の漏れがないか、本機の下を見る。
- 点検整備の記録を調べ、整備の必要時期を決める。

ホッパー安全棒の掛け方

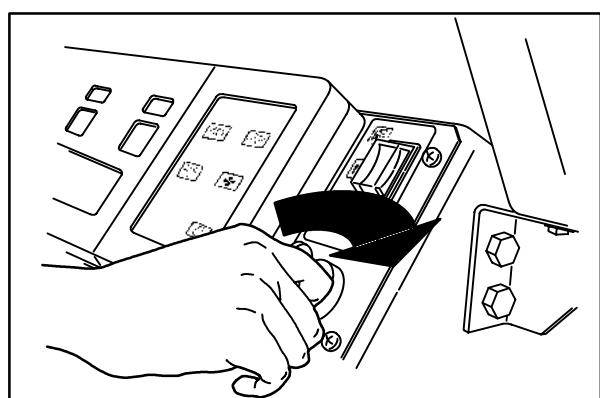
1. パーキングブレーキをかける。



08434

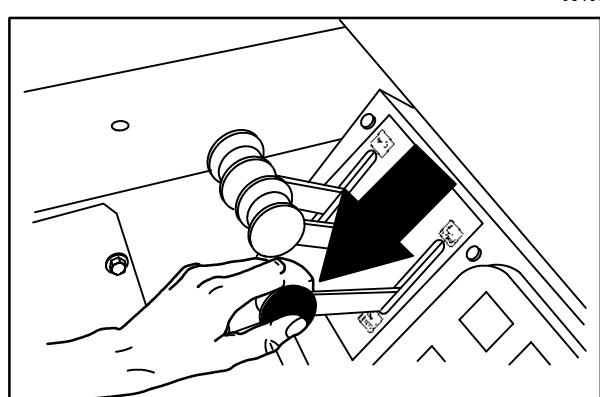


2. エンジンを始動する。



08460

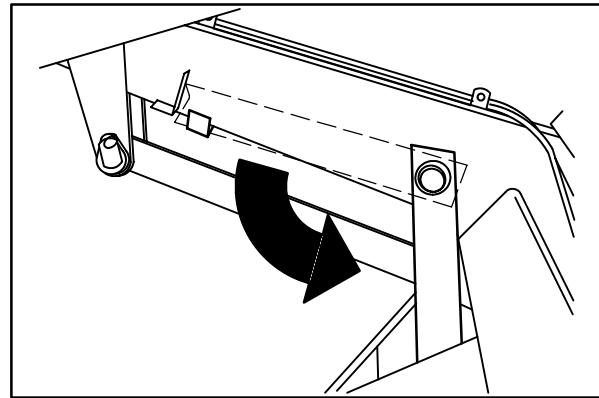
3. ホッパーを一番上まで上げる。



08480

4. 安全棒を収納クリップから取り出す。

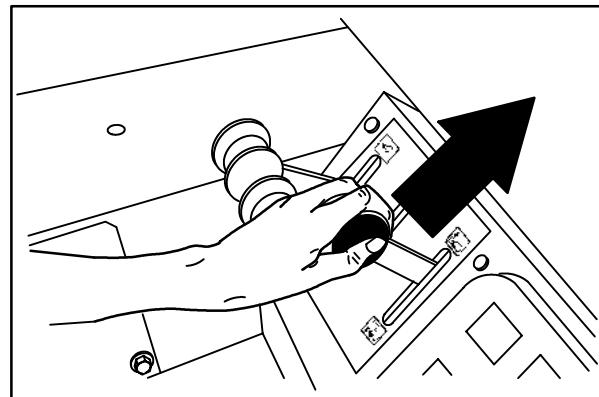
! 警告：上げたホッパーは落下することがありますので、ホッパー安全棒を使ってください。



08589

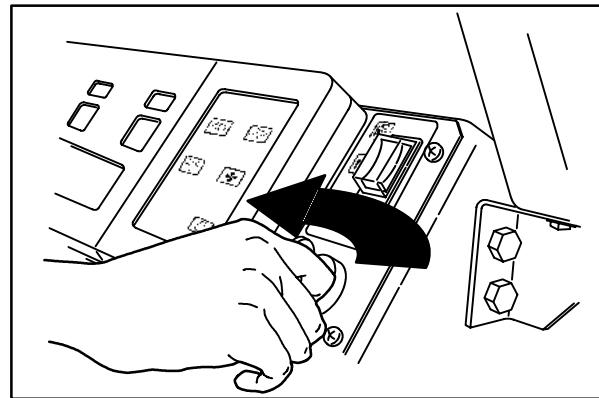
5. ホッパーをゆっくり降ろし、安全棒が本機のフレーム上のストッパーにのるようにする。

! 警告：リフトアームピンチポイント。リフトアームから離れていること。



08482

6. エンジンを切る。



08461

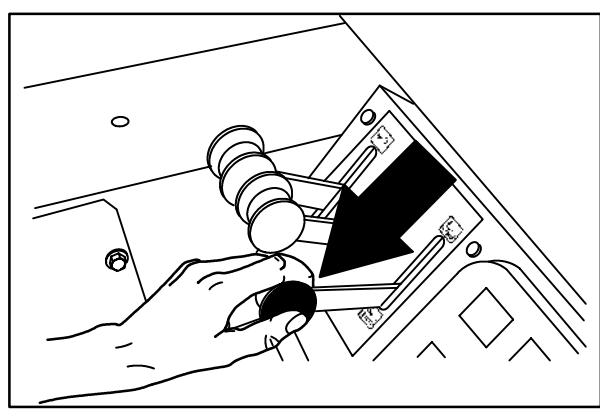
ホッパー安全棒の外し方

1. エンジンを始動する。



08460

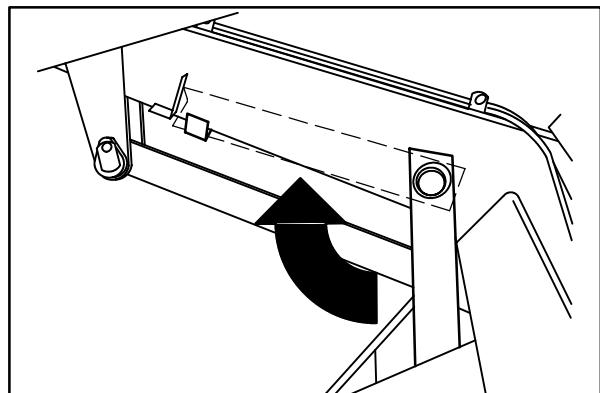
2. ホッパーを少し上昇させ、安全棒を外す。



08480

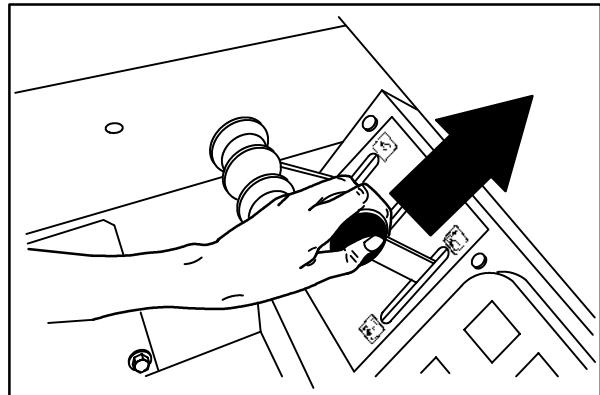
3. 安全棒を収納クリップにしまう。

! 警告：リフトアームピンチポイント。リフ
トアームから離れていること。



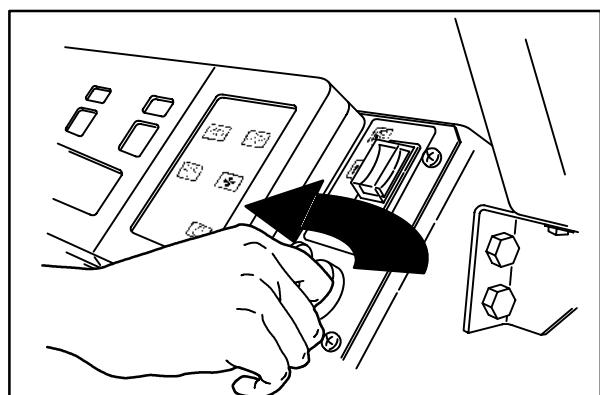
08590

4. ホッパーを下に降ろす。



08482

5. エンジンを切る。



08461

傾斜面での操作

傾斜面ではゆっくりと移動して下さい。下り坂ではブレーキペダルを踏んで、速度を落として下さい。

走行可能な最大傾斜角は8.5° です。

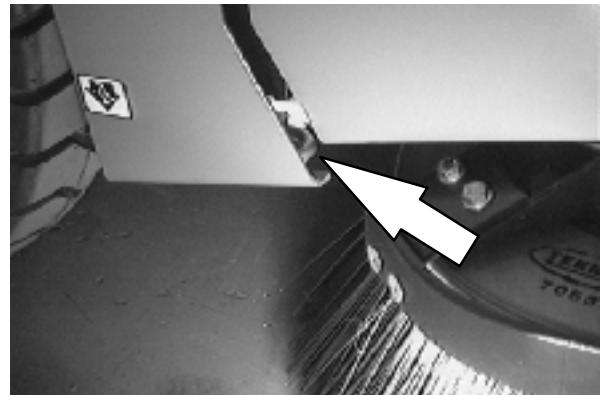
安全のために：本機使用の際、ホッパーを持ち上げて移動するときは、十分に注意すること。

運搬のための固定

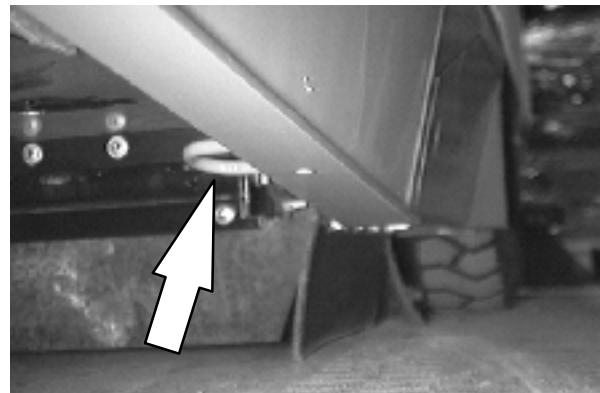
本機の固定はメインフレームで行います。固定する前に必ず本機のパーキングブレーキをかけ、タイヤをロックしてください。

安全のために：本機から離れたり、本機の整備を行う場合は、本機を平坦な場所に停止させパーキングブレーキをかけ、電源を切ってからキーを取り外し、タイヤをロックしてください。

本機前部における二箇所の固定位置は、本機前部のメインフレームのUーボルト部で行う。



後部の二箇所の固定位置は、本機後部のサイドバンパー下のメインフレームのUーボルト部で行う。



オプション

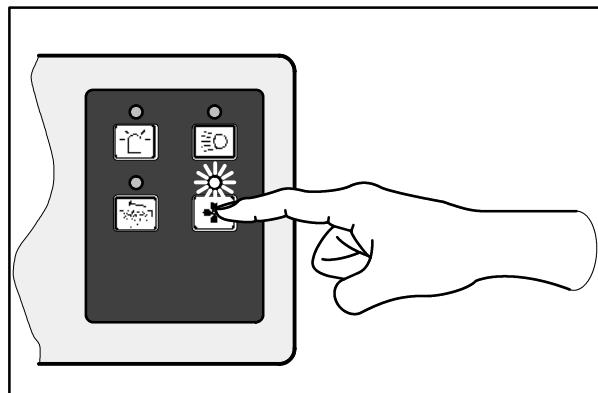
バキュームワンド

バキュームワンドは本機のバキュームシステムを用い、本機では手の届かない場所のゴミ類をバキュームホースとワンドで吸引することが出来ます。

1. バキュームワンドが届く位置に本機を停車させ、本機のパーキングブレーキをかける。

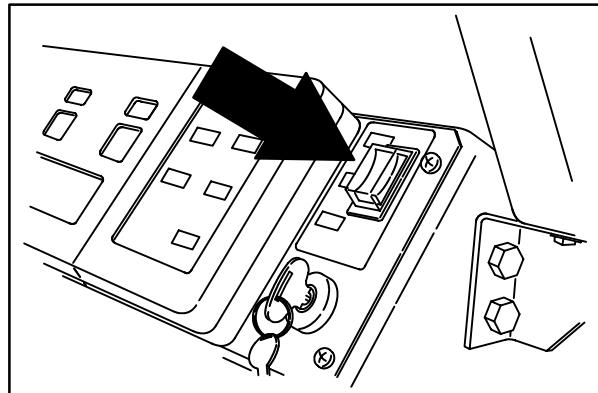


2. バキュームファンスイッチを押し、 バキュームファンの作動を止める。スイッチ上のライトが消える。



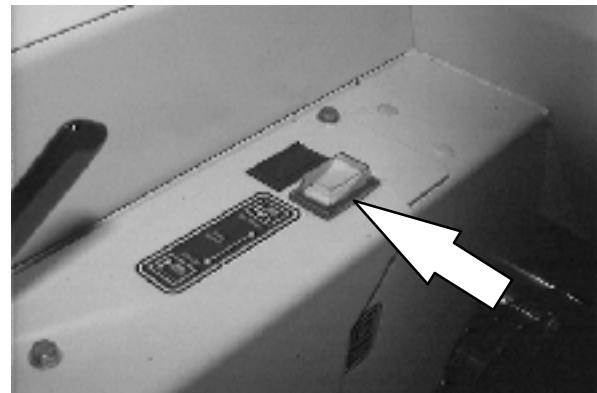
08231

3. スイッチを中央部OFFの位置にし、メインブラシの作動を止め、 上げる。

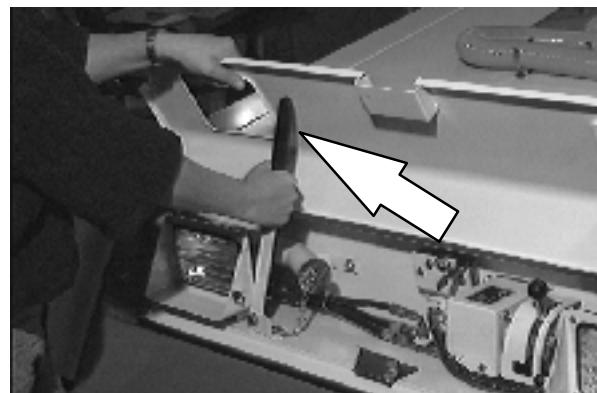


08464

4. スイッチの下部を押してOFF/UPの位置にし、サイドブラシの作動を止め、上げる。



5. ホッパー前部の点検ドアを開け、リフトアームを固定する。



6. ホッパー前部のバキュームアダプターチューブからバキュームプラグを外す。

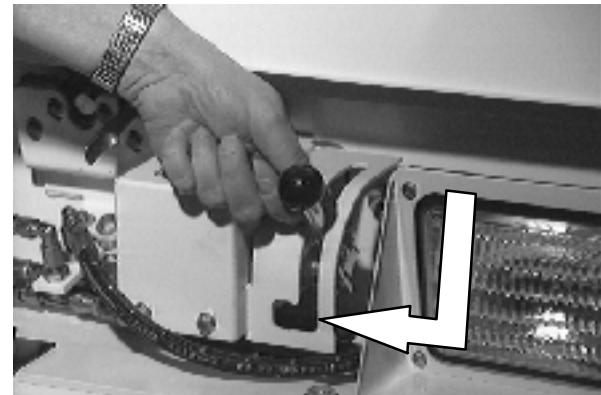


7. バキュームワンドとホースをクリップから取り外し、組み付ける。

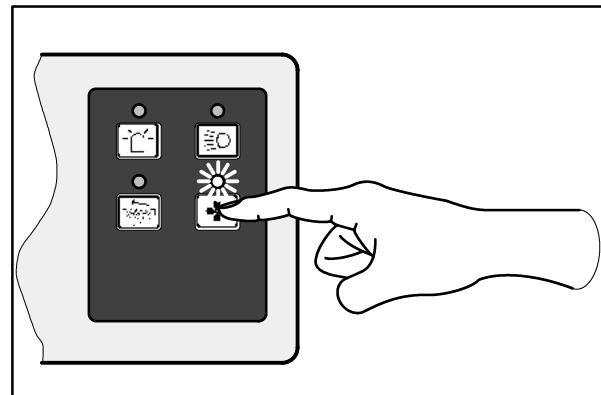


8. バキュームホースをホッパー前部のバキュームアダプターチューブに接続する。

9. バキュームドアーレバーを下方にスライドさせ、左のロックの位置にしてバキュームドアを閉める。



10. バキュームファンスイッチを押し、 バキュームファンを作動させる。上のライトがつく。

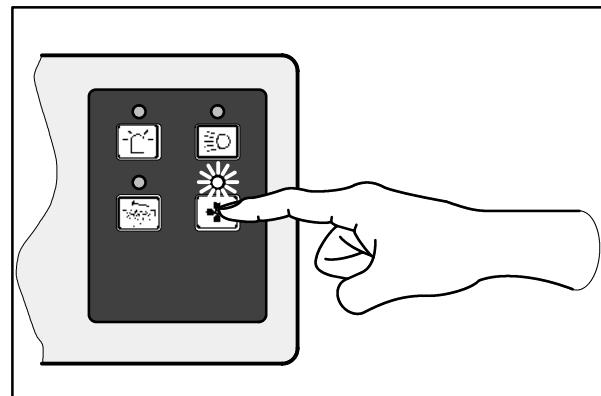


08231

11. 必要な吸引作業を行う。

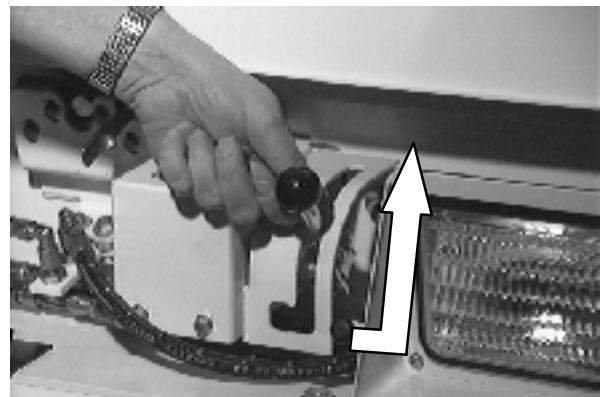


12. 吸引作業を行った後は、バキュームファンスイッチを押し、 バキュームファンの作動を止める。スイッチ上のライトが消える。



08231

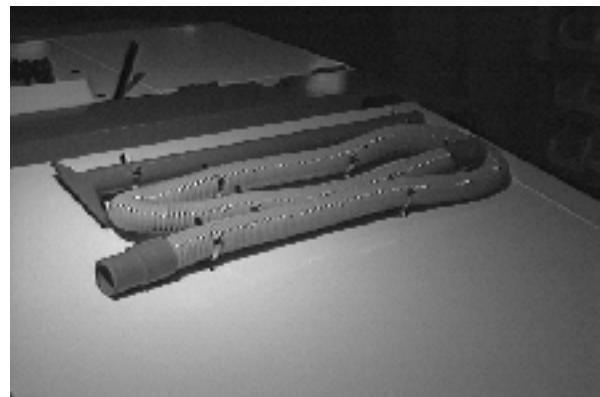
13. バキュームドアレバーを右にスライドさせ、ロック位置から上げてバキュームドアを開ける。



14. ホッパー前部のバキュームアダプターチューブからバキュームホースを外す。



15. バキュームホースアッセンブリーを組み外し、
ホッパーの取り付けクリップに戻す。



16. ホッパー前部のバキュームアダプターチューブにバキュームプラグを戻し入れる。



プロアンド

プロアンドはバキュームの排気を使用し、オペレーターは清掃場所のゴミをプロアーで吹き出し、本機で清掃することができます。

1. 本機後部からプロアーアタッチメントを取り外す。



2. リンテル上のプロアンドレバーを左のON位置にして、ワンド内のエアフローを起こす。



3. ワンドを吹き出すゴミのある場所に持ち込む。



ワンドをサイドブラケットに置くことが出来ます。



またプロア端にエクステンション（延長ホース）をつけてより遠くに届くようにも出来ます。



4. リンテル上のプロアワンドレバーを右の OFF位置にして、ワンドのエアフローを止める。



5. プロアーの作業を終えたら、プロアアタッチメントを本機の裏に戻す。



RFSフィルターシステム

オプションのRFSシステム(RFS装置)は、ホコリやゴミのためフィルターの清掃が必要になった際、フィルターシェーカーモーターを交互に作動させる装置です。

RFS装置は、通常本機の清掃運転中フィルターのシェーキングのために、本機を停止させる必要はありません。(極端にひどくホコリが多い場所は例外です)。しかしホッパーをダンプする度にオペレーターの自発的なフィルターシェーキングを行うようおすすめします。これはダンプする場所へ移動する途中で出来ることです。ホッパーがロールアウトの位置にある場合は、フィルターのシェーキングを避けてください。シェーキングサイクルを始動させるには、計器パネルのフィルターボタンを押します。「フィルターシェーカースイッチ」の項参照。

ホコリがひどい場所では、計器パネルのフィルター目詰まり警報ライトが点灯のままになることがあります、この場合は1~2回シェーキングサイクルを始動させ目詰まりを取ってください。シェーキングの後、ホッパーをロールアウトして、ダストトレイを空にし、本機の清掃作業を再開します。

ホッパー容量が満杯限度を超えるとライトが点くことがあります、ホッパー掃き込み量を調べ、必要に応じダンプしてください。

以上の状態をすべて是正された後も、フィルターライトがつくばいは、フィルターが目詰まりか、又はRFS装置が作動不良ということになります。オプションのRFS装置の項かをあげるには、きれいな損傷のないフィルターを使用することが大切です。

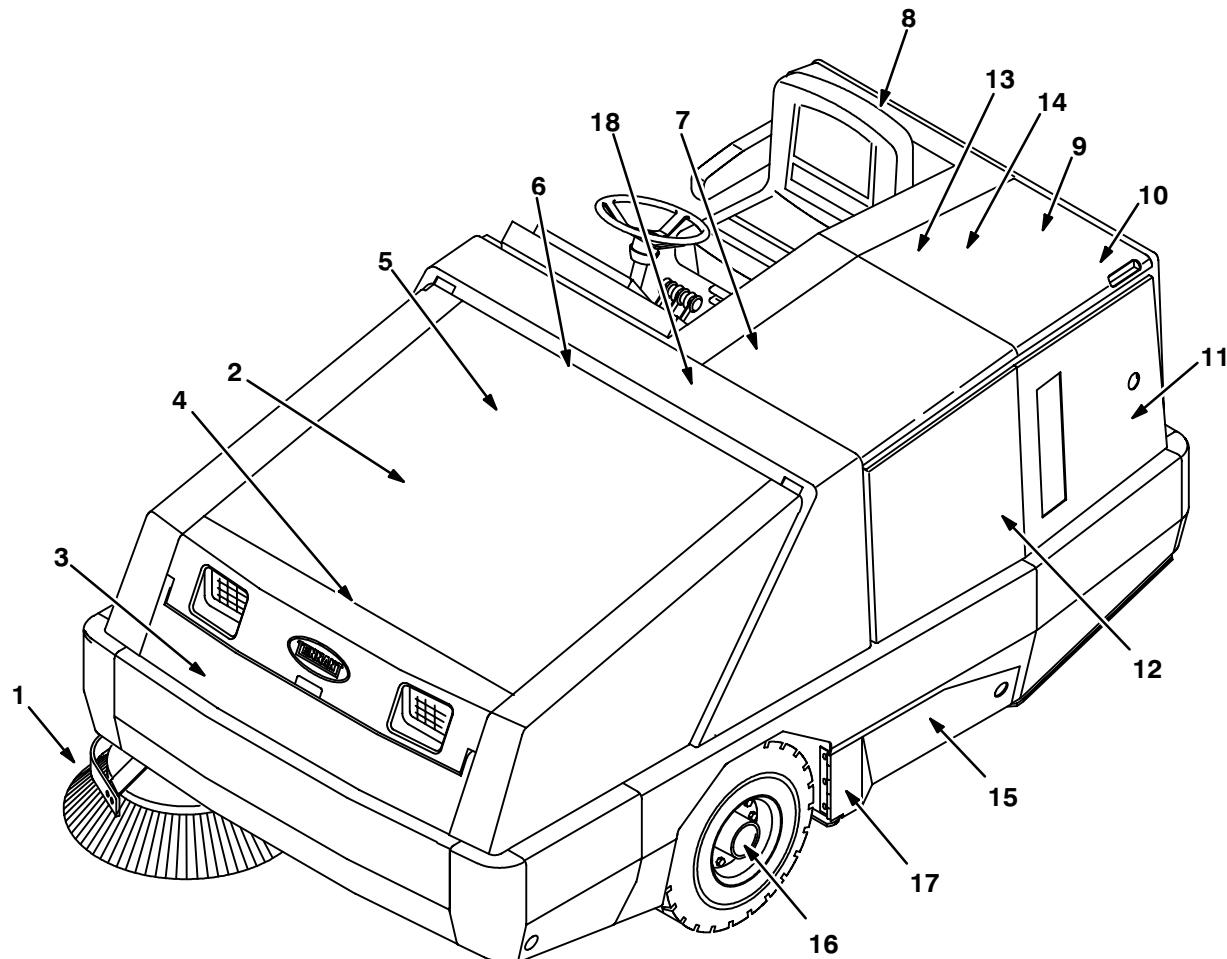
目詰まりのあるフィルターは、本機の始動時に早くもRFSサイクルを連続させてしまう可能性があり、又ホッパーの上ぶたのシールとフィルター室上部のフィルター間のシール作用がよくなければなりません。本機の最初の始動時には、このRFSオプション付でテスト清掃を行うことをおすすめします。

RFSオプション装置を取り付ける前に、ホッパーカバーとホッパーの上部フィルター室は十分にきれいにしてください。30分間清掃運転し、シールが十分かホッパーかバーを開けて調べてください。シェーカーパネルのトップ部とホッパーかバーの下側をよく調べてください。シール又はフィルターの不良のためホコリノ引き込みの兆候がないか調べ、必要に応じ修理をしてください。RFSオプション装置付の本機については、これらの点を定期的に点検してください。

故障と対策

問題点	原因	対策
ほこりが異常に舞い上がる	ブラシスカート、防塵シールの摩耗、破損、調整不良	ブラシスカート、防塵シールの交換、調整
	ホッパー防塵フィルターの目詰まり	防塵フィルターの塵落し、清掃、または交換
	メインブラシがII速になっている	メインブラシを通常速度で操作
	バキュームホースが破損	バキュームホースの交換
	バキュームファンシール（バキュームファン吸い込み口のブラケット）の破損	シールの交換
	バキュームファンの不調	ニチュテナント社のサービスマンに連絡
	ホッパードアが一部または全部開いている	ホッパードアを閉じる
	サーモセントリが作動	サーモセントリをリセット
	防塵フィルターの布製のプレスクリーンがない	フィルターエレメントを清掃、プレスクリーンを取り付ける
清掃能力が落ちた	ブラシの摩耗	ブラシの交換
	メイン、サイドのブラシの調整不良	メイン、サイドのブラシの調整
	ゴミがメインブラシ駆動部にひっかかっている	駆動部からゴミを取り除く
	メインブラシ駆動の不調	ニチュテナント社のサービスマンに連絡
	サイドブラシ駆動の不調	ニチュテナント社のサービスマンに連絡
	ホッパーが満杯	ホッパーのゴミ捨てをする。
	ホッパーフロアスカートの摩耗、または破損	フロアスカートの交換
	ホッパードアが一部、または全部開いている	ホッパードアを閉じる
	清掃ブラシが不適当	ニチュテナント代理店に相談する

点検整備



07623

点検整備一覧表

周期	番号	名称	点検内容	潤滑/ 作動油	点検 箇所数
50 時間毎	15	メインブラシ	左右の入れ替え	-	1
	12	エンジンファンベルト	張りを点検	-	1
	2	ホッパー防塵フィルター	点検、清掃	-	2
	12	フュエルラインとクランプ	締め付けと損傷	-	1
	18	メインブラシ調整	潤滑	-	1

目次

周期	番号	名称	点検内容	潤滑/作動油	点検箇所数
100 時間毎	8	油圧作動油タンク	作動油レベルを点検	HYDO	1
	10	油圧作動油クーラー	クーラーフィンの清掃	-	1
	9	ラジエーター	コアエクステリアの清掃 冷却液量の点検 スクリーンの清掃	-	2
		タイヤ	空気の点検		
	7	駐車ブレーキ	点検調整	-	1
	15	メインブラシと ホッパーのシール	■破損と磨耗の点検	-	12
	12	エンジンクランクケース	■オイルとフィルター エレメントの交換	EO	1
200 時間毎	12	エンジン	外回りの蒸気洗浄	-	1
	9	ラジエーターのホースと クランプ	堅さと磨耗の点検	-	2
	14	後輪サポートベアリング	潤滑	SPL	1
	3	サイドブラシピボットピン	潤滑	DL	1
400 時間毎	12	燃料フィルター	交換	-	1
	8	油圧作動油タンク	作動油の交換	HYDO	1
	11	油圧作動油フィルター	フィルターエレメントの交換	-	1
	5	ブレーキマスター・シリンダーブレーキオイルの点検		BF	1
800 時間毎	9	冷却系統	中を洗い流す	WG	1
	8	油圧作動油タンク	フィラーキャップの交換	-	1
		油圧ホース	サクションストレーナーの交換	-	1
	13	バッテリー	磨耗と破損の点検 ■バッテリーケーブルの 接続部の清掃、締めなおし	-	45
	14	走行モーター	■シャフトナットの締め付け	-	1
	14	後輪	■ホイールナットの締め付け	-	1
1600 時間毎	16	前輪ベアリング	点検、潤滑、調整	SPL	2

潤滑油／作動油

BF ブレーキ作動油

EO エンジンオイル、SAE-CC/CDクラス

HYDO .. テナント社製、又は認定油圧作動油

SPL 特製潤滑油、ルブリプレートEMBグリス（テナント社部品番号01433-1）

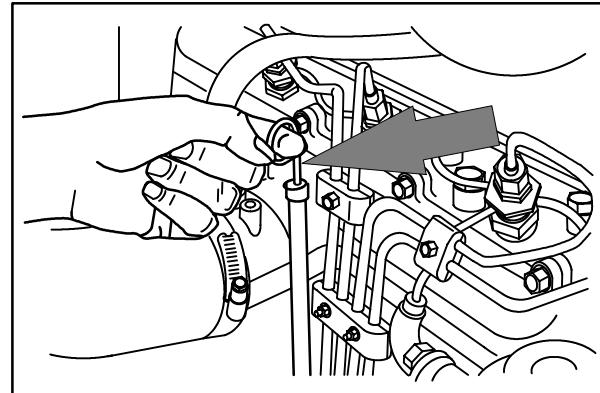
WG ... パーマネントタイプエチレングリコール不凍液（-34°C）の水溶液

注：（■）印は運転最初の50時間の点検手順にも従ってください。

潤滑

エンジン

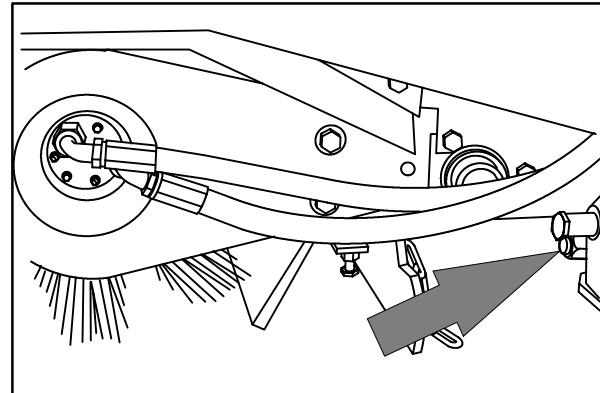
エンジンオイルのレベルは毎日点検して下さい。最初の50時間運転後に、エンジン・オイルおよびオイル・フィルターを取替え、その後は100時間運転毎に取替える。エンジンオイルには10W30SAE-CC/CDクラスを使用して下さい。



08431

エンジンオイルドレンは本機左側、メインブラシ室の内側にあります。エンジン・オイルが暖まったときは排油する。

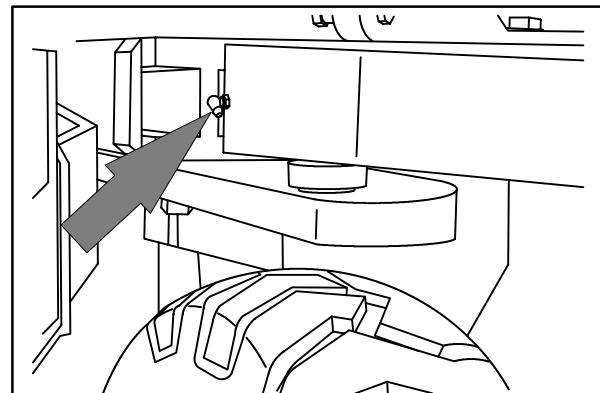
エンジンオイルは点検棒の指示レベルまで入れて下さい。エンジンオイルの容量はオイルフィルターを含めて、13.4Lです。



08448

後輪サポート

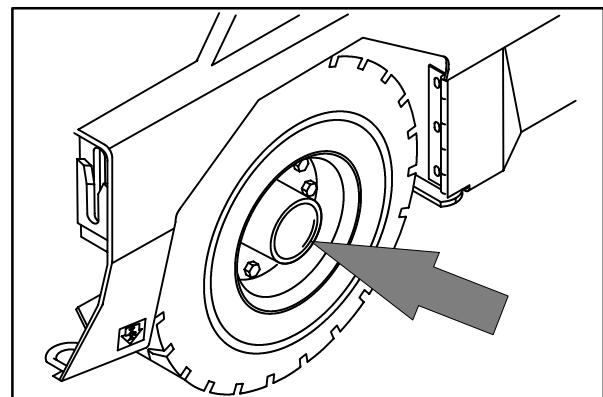
後輪サポートは後輪の向きを変える働きをします。サポートにはベアリングのためのグリス注入口があります。後輪サポートベアリングは使用200時間毎に注油して下さい。グリスはルブリプレートEMBグリス（テナント社部品番号01433-1）を使用して下さい。



08451

前輪ペアリング

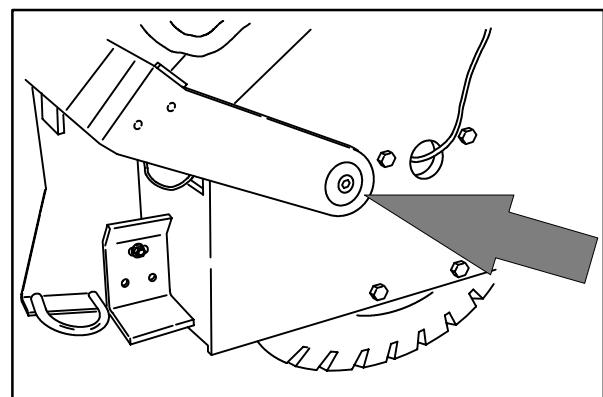
使用1600時間毎に前輪ペアリングのシールの損傷を調べ、ペアリングを詰め替えて調整して下さい。グリスはルブリプレートEMBグリス（テナント社部品番号01433-1）を使用して下さい。



08579

サイドブラシピボットピン

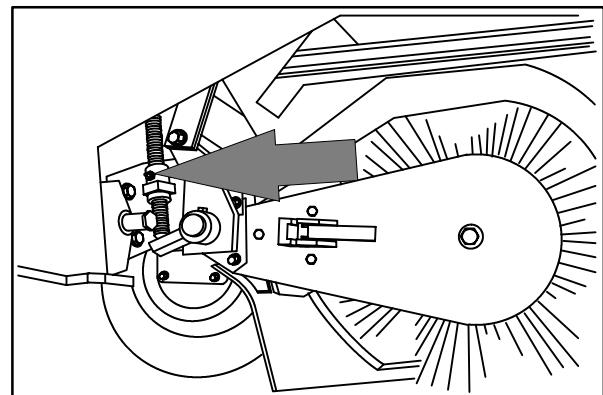
使用200時間毎にサイドブラシピボットピンにルブリプレートEMBグリス（テナント社部品番号01433-1）を注油して下さい。



08581

メインブラシ調整装置

メインブラシ右側に潤滑用のグリースフィッティングが一ヶ所あります。これをEMB潤滑グリース（テナント部品番号01433-1）を使用50時間毎に注油して下さい。



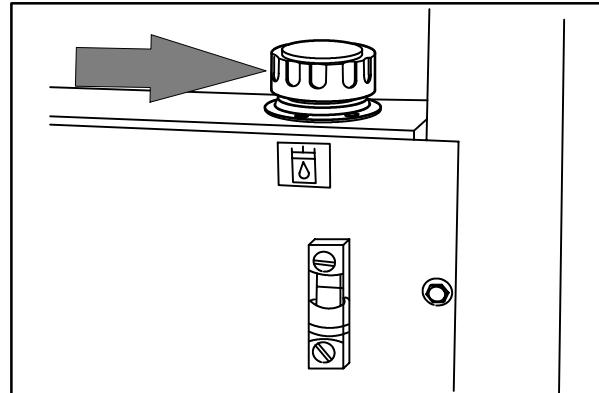
08934

油圧

油圧作動油タンク

作動油タンクはオペレーター席の後ろにあります。

タンクの上部にはブリーザーの付いたキャップがあります。使用800時間毎にこのキャップを交換して下さい。



08452

使用100時間毎に、油圧作動油の使用時の温度でのレベルを点検して下さい。その際、ホッパーが下に降りていることを確認してから行って下さい。外から見ることができるレベルゲージには、黒い線と赤い線があり、それぞれ満杯レベル、補充の必要なレベルを示します。

キャップをタンクに戻すとき、ガスケットに作動油を薄く塗って下さい。

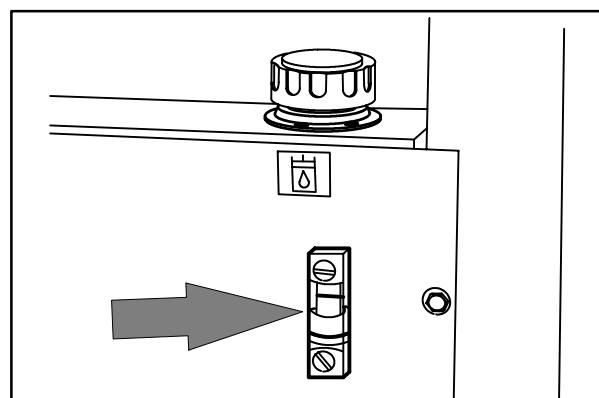
留意事項！作動油タンクから作動油があふれたり、タンク内の作動油レベルが低いまま、本機を操作したりしないで下さい。本機の油圧システムを損傷する恐れがあります。

使用400時間毎に作動油タンクの作動油を捨て、新しい作動油を入れて下さい。

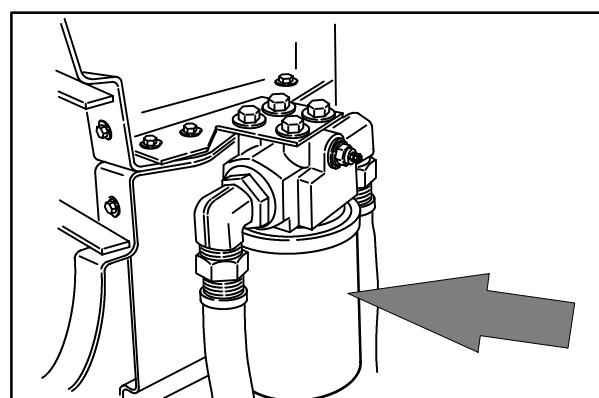
油圧作動油フィルターはエンジン室の中になります。

使用400時間毎にフィルターエレメントを交換して下さい。

作動油タンクには、作動油が油圧システムに流れ出る前に作動油を濾過するストレーナーがついています。使用800時間毎にこのストレーナーを交換して下さい。



08450



08453

油圧作動油

油圧作動油の品質と状態は本機の調子に大きく影響します。テナント社の作動油は特にテナント社の機械のニーズに合わせて選ばれたものです。

テナント社の油圧作動油は油圧部品を長持ちさせます。周囲の温度に合わせて、次の2種類の作動油があります。

テナント社部品番号	周囲の温度
65869	7°C以上
65870	7°C以下

7°C以上のための作動油は粘度が高いので、7°C以下の時には使用しないで下さい。不適切な潤滑作用により油圧ポンプの損傷することがあります。

7°C以下のための作動油は、低い温度の時に使える粘度の低い作動油です。

特定の作動油しか手に入らない場合は、テナント社の作動油の仕様に合っているか、確かめて下さい。代用の作動油では油圧部品の不調を引き起こす恐れがあります。

ヨーロッパで売られた機械にはその地方で手に入る油圧作動油がはいっています。油圧作動油タンクのラベルをよく見て下さい。

注意：油圧部品は内部潤滑を油圧作動油に頼っています。油圧システムにはこりや不純物が入り込むと、作動不良、異常な摩耗、破損を引き起します。

油圧ホース

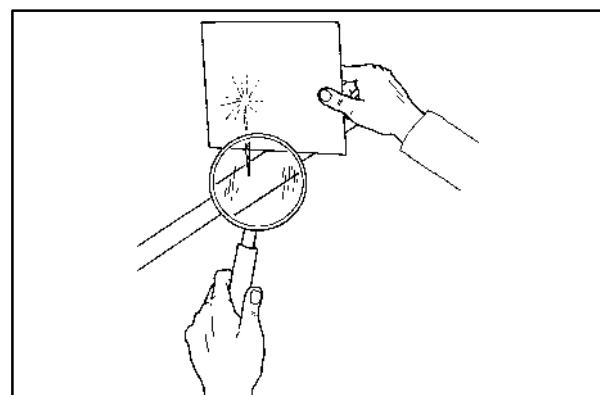
使用800時間毎に油圧ホースの摩耗や損傷を調べて下さい。

非常に小さな穴から高圧で吹き出している作動油はほとんど目には見えません。そのため、人に重傷を負わせる恐れがあります。

万一、作動油の漏れで負傷したら、直ちに医師に見せて下さい。すぐに適切な治療を受けられなかつた場合は、深刻な傷害や後遺症を引き起こす恐れがあります。

安全のために：本機の点検整備の際、圧力のかかつた油圧作動油の漏れの位置を捜すときは厚紙を使用して下さい。

もし、作動油漏れを見つけたときは、メカニック及び監督者に知らせて下さい。



00002

走行モーター

シャフトナットを237Nm(24.2Kg-m)のトルクで締め、さらに十分なトルクでスロットナット及びシャフト穴を調整する。これを使用最初の50時間後に実施し、その後は800時間毎に行なう。

エンジン

冷却システム

ラジエーターの冷却液レベルを使用100時間毎に点検してください。冷却液にはきれいな水にパマネントタイプのエチレングリコールの、-34°Cクラスの不凍液を混ぜたものを使用してください。冷却液のレベルは、注入口の下25mmから50mmの間にする。

安全のために：本機の点検整備の際、熱せられたエンジン冷却液には触れないようにして下さい。

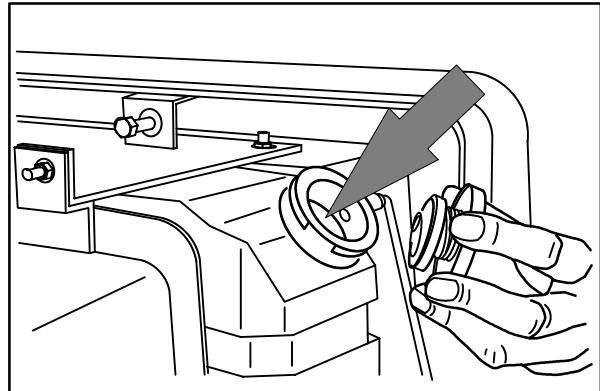
注意：オーバーヒートしたエンジンのラジエーターには冷たい水や冷たい不凍液を絶対に入れないで下さい。シリンダーへッドやブロックのひびわれを防ぐために、エンジンは自然に冷めるのを待って下さい。水を補充する間はエンジンをかけておいて下さい。

ラジエーターのスクリーンは使用100時間毎に清掃して下さい。

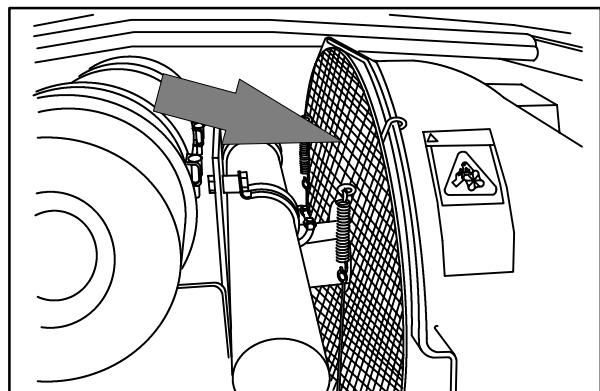
使用200時間毎にラジエーターホースとクランプを点検して下さい。クランプが緩んでいたら締め直して下さい。ホースがひび割れていたり、堅くなっていたり、膨らんでいたら、ホースとクランプを交換して下さい。

使用100時間毎にラジエーターのコアエクステリアと油圧クーラーのフィンにゴミが付いていないか、点検して下さい。通常の空気の流れと反対方向に、グリルとフィンを通して風を吹き付けたり、水をかけて、塵をラジエーターの方へ落として下さい。グリルと油圧クーラーは、清掃が容易にできるように開けます。清掃しているときにフィンを曲げないように気を付けて下さい。フィンに塵が積もらないように、きれいにします。ひび割れを防ぐために、ラジエーターが冷めるのを待って、ラジエーターとクーラーの清掃をして下さい。

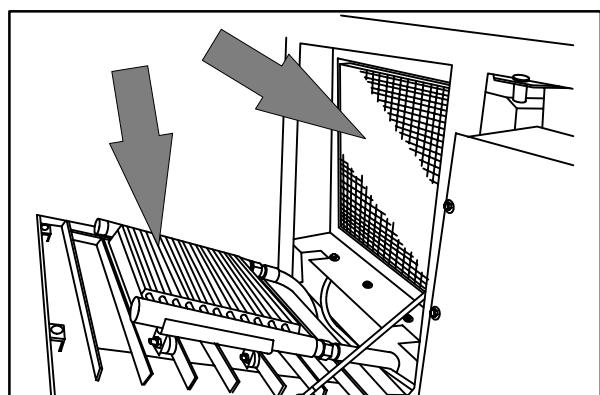
安全のために：本機の点検整備の際、圧力のかかった空気や水を使用するときは保護眼鏡や耳栓をして下さい。



08432



08582

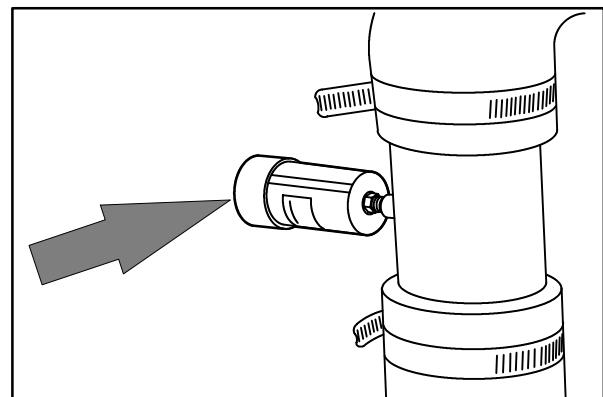


08454

エアフィルター汚れ表示計

エアフィルター汚れ表示計は、エアフィルター エレメントをいつ清掃、交換すればよいかを示します。表示計は毎日点検して下さい。表示計の赤い線が、エアフィルター エレメントが汚れていくのに従って動きます。赤い線が5kPaに達して、「赤・整備」という窓が赤になってから、エアフィルター エレメントの清掃、交換を行って下さい。表示計の赤い線はエンジンが停止すると、目盛りの下の方に戻ります。エンジンをかけてしばらくすると、赤い線は正しい読みを示すようになります。

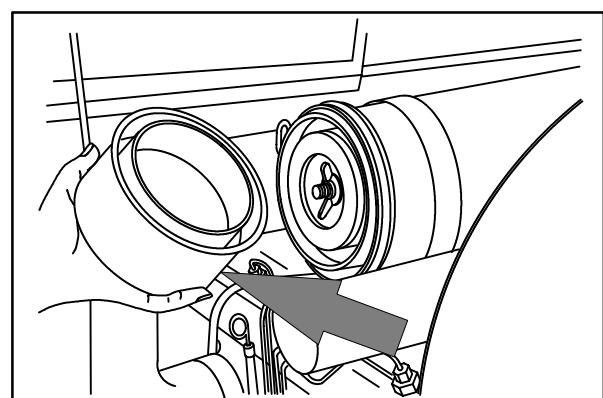
エアフィルター エレメントを清掃したり交換した後で、表示計の端にあるリセットボタンを押して、エアフィルター汚れ表示計をリセットして下さい。



08447

エアフィルター

エンジンのエアフィルター ハウジングには防塵キャップとドライカートリッジ型のエアフィルター エレメントが入っています。キャップの塵は毎日取り除いて下さい。エアフィルター エレメントが損傷したり、エレメントの清掃を3回しているときはエアフィルターは交換しなければなりません。

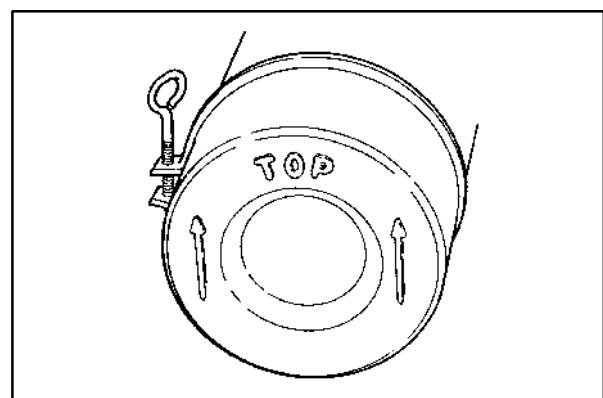


08455

防塵キャップは矢印を上に向けてエアフィルター ハウジングに取り付けて下さい。

エアフィルター エレメントを整備するのは、汚れ表示計が空気の取入れに支障があることを示したときだけにして下さい。空気の流れに支障がないのに、ハウジングからエアフィルター エレメントを外すことはしないで下さい。

安全のために：本機の点検整備の際、圧力のかかった空気や水を使用するときは保護眼鏡や耳栓をして下さい。

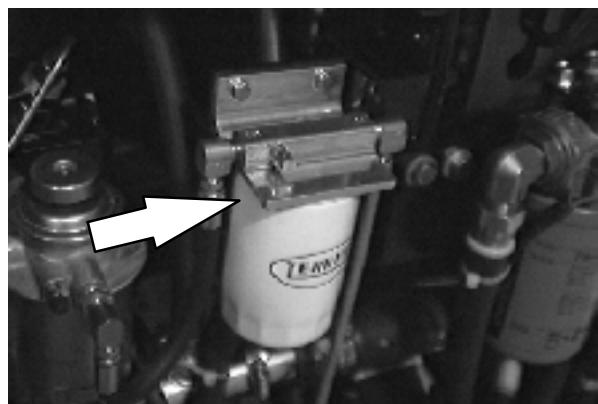


02492

ウォーターセパレーター/燃料フィルター

このフィルターは、燃料の不純物を濾過し、燃料系統の水を分離するものでエンジン室の左側にあります。水は必要なときに床部ドレンコックから排水できます。

ウォーターセパレーター／燃料フィルターのエレメントは、本機運転400時間毎に交換してください。



エンジン燃料フィルター

このフィルターは燃料の不純物を濾過するもので、エンジン左側にあります。

エンジンフィルターエレメントは、400時間運転毎に交換してください。

燃料ライン

使用50時間毎に燃料ラインを点検して下さい。

留めバンドが緩んでいたら、ネジの部分にオイルを差し、しっかりとバンドを締めて下さい。燃料ラインはゴム製なので、エンジンの使用時間に関わらず、磨耗してきます。燃料ラインと留めバンドは2年毎に交換してください。

燃料ラインと留めバンドに磨耗や破損が見つかったときは、2年より前であっても、すぐに交換して下さい。燃料ラインのどの部分を交換した場合でも、必ず空気抜きをして下さい。詳しくは「燃料系統の空気抜き」を参照。燃料ラインを取付ける前は、ラインにほこりが入らないように、両端にきれいな布又は紙を詰めておいてください。ライン内の汚れは燃料噴射ポンプの作動不良を引き起こす原因となる恐れがあります。



燃料系統の空気抜き

燃料系統の空気抜きは燃料ラインや燃料部品にある空気を取り除きます。燃料系統に残っている空気はエンジンのスムーズな回転を妨げます。

燃料系統の空気抜きは、燃料が足りないときにエンジンを回してしまった場合、低圧の燃料ラインを外した場合、エンジンの回転中に低圧の燃料系統の途中から燃料漏れがあった場合などに行なってください。

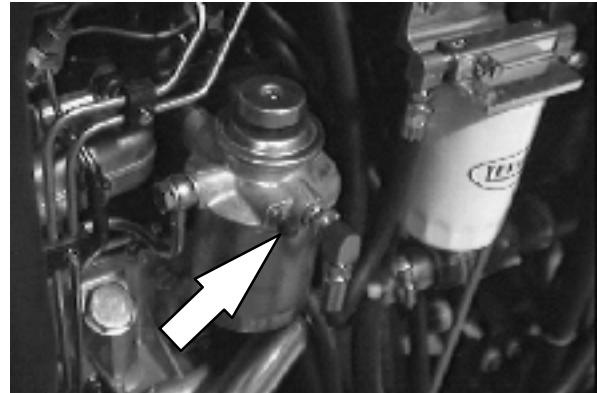
燃料系統の空気抜きの方法

1. エンジンを止め、パーキングブレーキをかける。

安全のために：本機を離れたり、点検整備をする際、本機を水平な場所に止め、パーキングブレーキをかけ、スイッチを切って下さい。

2. 燃料タンクを満たす。
3. エンジンの脇と上の点検用ドアを開ける。
4. 燃料フィルターの上部にある空気抜きネジを緩める。
5. イグニションスイッチを入れる。
6. 空気抜きの燃料がフィルター穴から出て来るまで、燃料フィルター上の空気抜きポンプ手動で作動させる。

安全のために：本機の精微作業中は、燃料系統に炎や火花は近づけないようにし、作業場所は換気をよくしてください。



7. 空気抜きポンプを作動させながら、フィルター穴ネジを締める。
8. 燃料噴射ポンプの送油管接続部を緩める。
9. 空気抜きポンプを、空気の混じらない燃料が燃料噴射ポンプの空気抜き穴から出てくるで回す。
10. 空気抜きポンプを回しながら、燃料噴射ポンプへ続く送油管接続部を締める。
11. アトマイザーの高圧燃料ラインの接続部のすべてを緩める。
12. スターターモーターを、空気の混じらない燃料がラインの接続部分から出てくるまで回す。

注：燃料ライン接続部のすべてを緩めておかないと、エンジンが自然に始動することがありますので注意して下さい。

13. 高圧燃料ラインの接続部分を締める。これでエンジンの始動の準備が完了。
14. 点検用ドアを閉める。

注：もしエンジンが少しの間、調子よく回った後に、止ったり、調子が悪くなった場合は、燃料系統に空気が入り込んでいないか、点検してください。もし空気が入り込んでいるときには、低圧の部分で漏れが見つかります。

15. イグニションスイッチを切る。

バッテリー

本機のバッテリーはメンテナンスの楽なバッテリーです。バッテリーに水を入れたり、バッテリーの通気孔のプラグを外したりしないで下さい。

バッテリーの位置は、号機番号001211以下の本機の場合は油圧タンクの下にあり、又、号機番号001212以上の本機の場合はエンジン室内にあります。

初使用50時間後とその後800時間毎にバッテリーの接続部を清掃し、締め直して下さい。



ベルトとチェーン

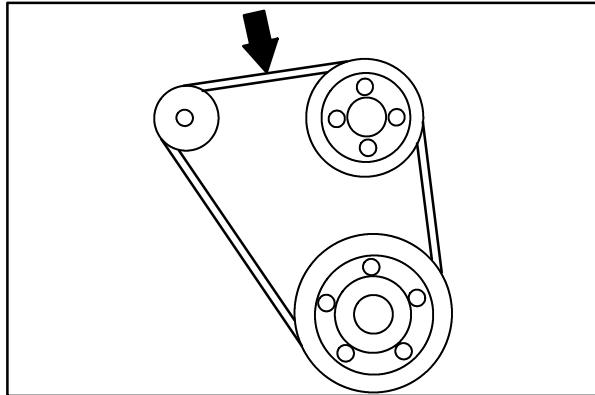
エンジンベルト

エンジンファンベルトはエンジンクランクケースのプーリーによって回り、交流発電機のプーリーを回します。正常なベルトの張りは、ベルトを10kgの力で押したとき、新しいベルトで9~10mm、使用中のベルトで10~11mm動くのが適当です。

使用50時間毎にベルトの張りを点検し、調整して下さい。



警告：動いているベルトやファンには近寄らないでください。

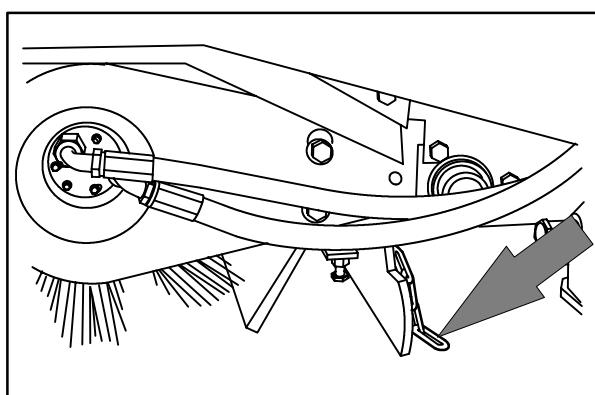


08486

静電気放電チェーン

静電気放電チェーンは本機に静電気が溜るのを防ぎます。このチェーンはメインブラシのリアスカートの取り付けボルトに付いています。

チェーンが常に床に接しているようにして下さい。



08449

ゴミ受けホッパー

ホッパー防塵用フィルター

防塵フィルターはホッパーから吸い上げられる空気のほこりを取り除きます。このフィルターには堆積した塵を取り除くためのシェーカーが取り付けられて、フィルターシェーカースイッチで制御します。

ホッパーのゴミ空けをする前と作業の区切り毎に防塵フィルターの塵落しをして下さい。防塵フィルターは本機の使用50時間毎に点検して、掃除して下さい。ほこりの多い場所で使用する場合は、もっと頻繁に清掃する必要があります。

防塵フィルターの掃除は下に記した方法で行って下さい。

- 握する—フィルターシェーカースイッチを押す。
- 空気—防塵フィルターの内側からコンプレッサーの空気を吹き付ける。この場合は本機のフィルターを取り付けたまま行ってもよい。また、さらに効果的な清掃として、本機から防塵フィルターを外し、フィルターエレメントからプレスクリーンのラップを外す。コンプレッサーを使用するときは必ず保護眼鏡を付けること。

安全のために：本機の点検整備の際、圧力のかかった空気や水を使用するときは保護眼鏡や耳栓を着用して下さい。

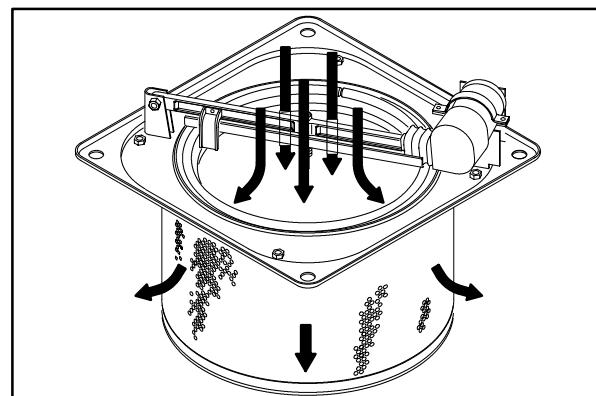
- 水—フィルターエレメントから布製のプレスクリーンラップを取り外す。プレスクリーンラップを薄い洗剤溶液で洗い、きれいになるまでよくゆすぐ。プレスクリーンラップを風で乾かす。ただし、コンプレッサーの空気を吹き付けないこと。フィルターエレメントは絶対に水につけてはいけない。

ホッパー防塵フィルターの外し方及び交換方法

1. 本機のエンジンを切り、パーキングブレーキをかける。

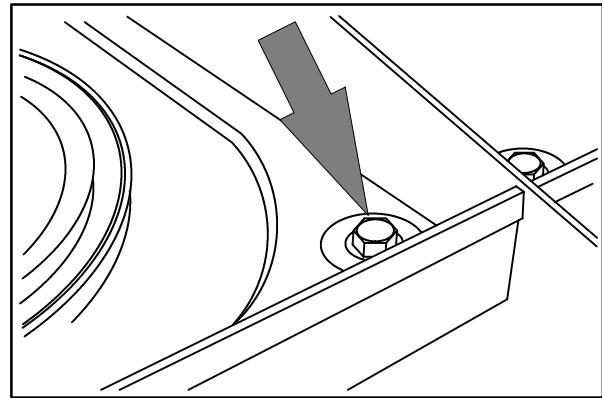
安全のために：本機を離れたり点検整備をする際は、本機を水平な場所に止め、パーキングブレーキをかけ、本機のスイッチを切り、キーを抜いて下さい。

2. ホッパーのカバーを開ける。
3. シェーカーのモーターの配線のコネクターを外す。



08594

4. フィルターシェーカーフレームの4本の取り付けナットを取り外す。
5. フィルターシェーカーフレームをホッパーから引き出す。

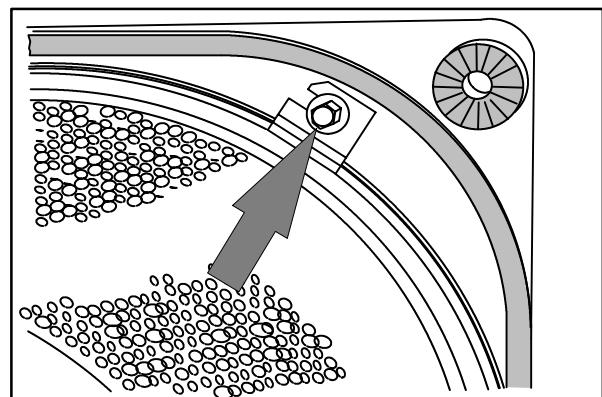


08591

6. 注意しながらシェーカーフレームとエレメントをひっくり返す。

7. シェーカーフレームから4本のフィルター取り付けネジを取り外す。
8. シェーカーフレームから保持用リングを外す。フィルターを外す。

9. プレスクリーンラップが新しいフィルター要素にしっかりと巻き付いて、外れないようになっていることを確かめる。新しいフィルターをフィルターシェーカーフレームにおく。



08592

10. フィルターの上に保持用リングをのせる。保持用リングをフィルター要素の縁の内側に合わせるようにする。保持用リングのスロットを取り付けネジの穴に合わせる。

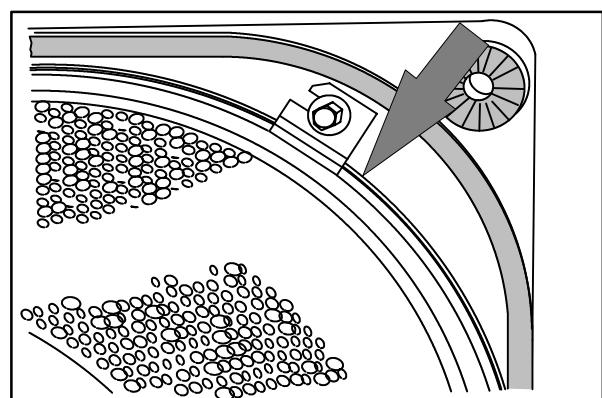
11. 取り付けネジでとめる。

12. シェーカーフレームの損傷を調べる。シェーカーフレームの4隅に振動緩衝器がついていることを確かめる。

13. フィルターのついたシェーカーフレームをホッパーに入れる。

14. 4本の取り付けネジで取り付ける。

15. シェーカーモーターの配線のコネクターをつなぐ。

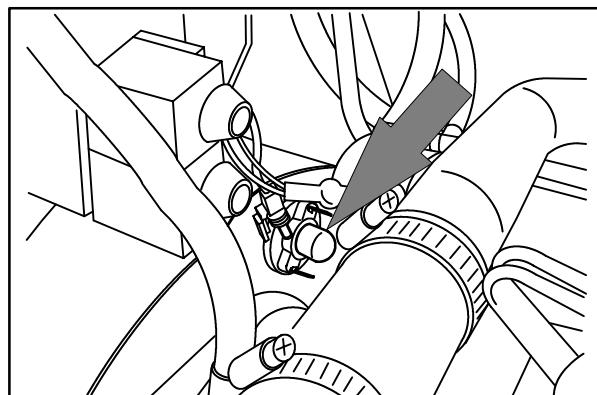


08593

サーモセントリ

サーモセントリはホッパーから吸い込まれる空気の温度を感じます。万一、ホッパー内で火災が発生した場合は、サーモセントリがバキュームファンを止め、空気の流れを遮断します。サーモセントリはバキュームファンハウジングの上にあります。

サーモセントリをリセットするときは、リセットボタンを押し込んで下さい。



08928

ブラシ

メインブラシ

メインブラシは円筒形で、本機と同じ幅のブラシです。メインブラシはゴミを掃き寄せ、ホッパーに入れます。

ブラシの摩耗や損傷の有無を毎日点検して下さい。メインブラシやメインブラシ駆動ハブ、メインブラシアイドラーハブに紐や針金が絡みついていたら、すぐに取り除いて下さい。

メインブラシのパターンを毎日点検して下さい。パターンの幅は50~65mmが適当です。オペレーター席の隣にあるメインブラシ下方圧調整ノブを回して、パターンの幅を調整して下さい。

使用50時間毎にメインブラシの左右を入れ替えて下さい。これはブラシを長持ちさせるため、また、よい清掃効果を上げるためです。

ブラシの残っている毛先の長さが30mmになったらメインブラシを交換して下さい。

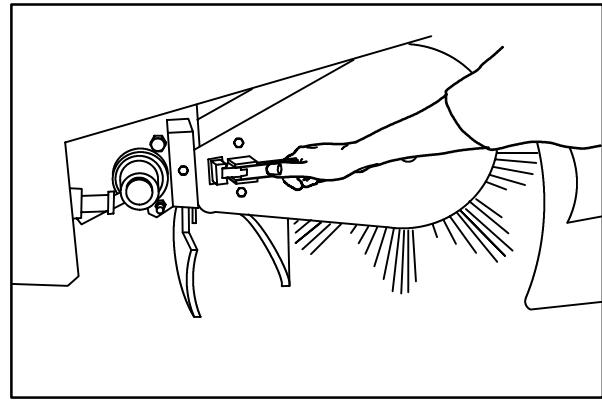
メインブラシの交換

1. エンジンを止め、パーキングブレーキをかける。

安全のために：本機を離れたり、点検整備をする際、本機を水平な場所に止め、パーキングブレーキをかけ、本機のスイッチを切り、キーを抜いて下さい。

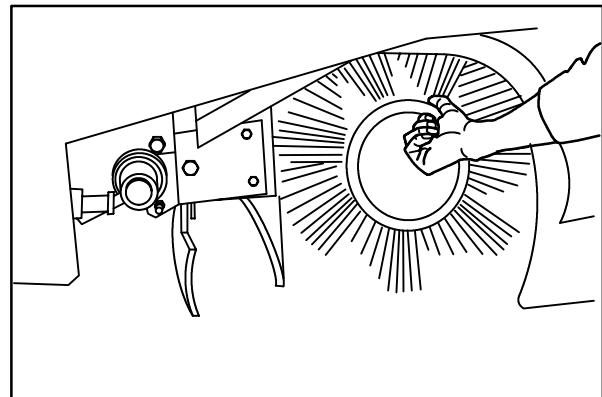
2. メインブラシを上げる。
3. メインブラシの右側の点検用ドアを開ける。

- 掛け金を外し、ブラシアイドラープレートを取り外す。

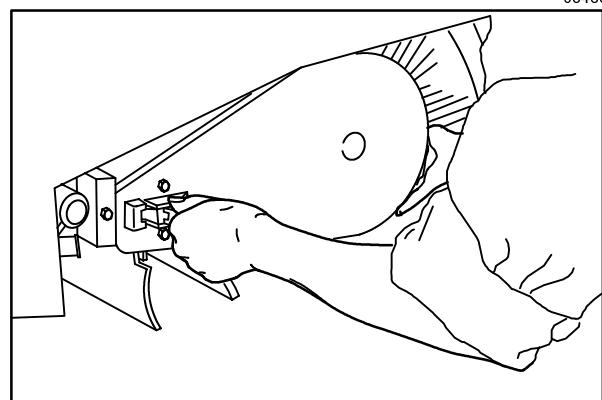


08487

- メインブラシをつかんで、ブラシ駆動プラグから引き抜き、メインブラシ室から取り出す。
- 新しいブラシを、またはブラシの左右を入れ替えて、点検用ドアに並べて置く。
- メインブラシを駆動プラグに差し込む。ブラシを回し、プラグにかみ合ったら、そのままブラシをプラグの奥まで押し込む。
- メインブラシアイドラープレートのプラグをメインブラシに差し込む。
- アイドラープレートを本機のフレームに掛け金で留める。
- メインブラシ右側の点検用ドアを閉じる。



08488



08489

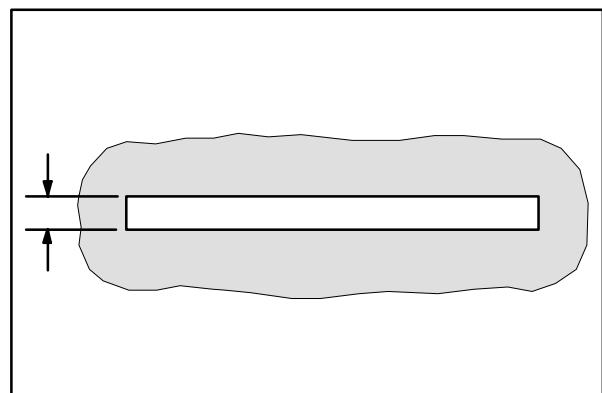
メインブラシパターンの点検と調整

- 滑らかで水平な床に、チョークなど風で簡単に吹き飛ばないものを塗る。
- サイドブラシとメインブラシを上げた状態で、メインブラシがチョークを塗った場所に来るようする。

3. メインブラシを回転させる。
4. メインブラシを15~20秒間降ろす。その間、本機が動かないようブレーキを踏んでいること。こうするとメインブラシの回転が遅くなります。

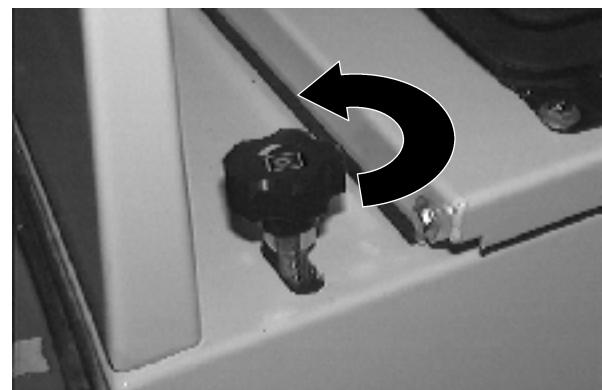
注：もし、チョークなどがないときは、ブラシをそのまま床に降ろして2分間回転させて下さい。床に磨き後が残ります。

5. メインブラシを上げる。
6. メインブラシを止める。
7. テストを行った場所から本機を移動させる。
8. ブラシパターンの幅をよく調べる。適当なパターンの幅は50~65mm。



00582

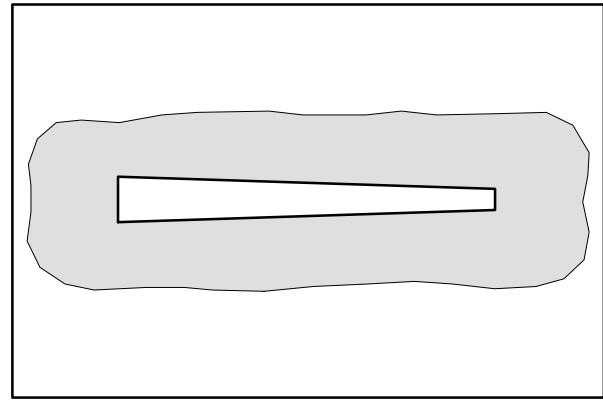
9. メインブラシのパターンの幅を広くしたいときは、メインブラシ下方圧調整ノブを左に回す。



メインブラシのパターンの幅を狭くしたいときは、メインブラシ下方圧調整ノブを右に回す。

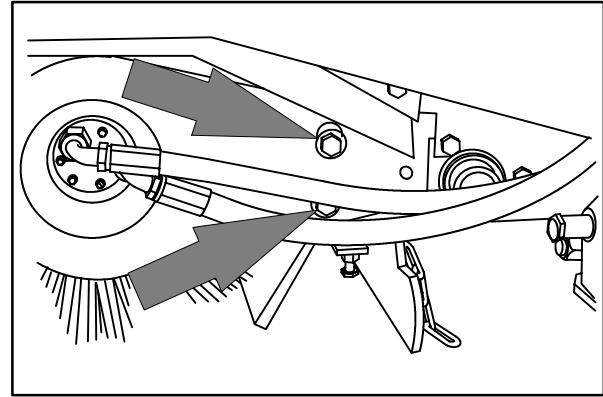


もしメインブラシパターンの両端の幅が15mm以上ちがっている時は、ブラシの駆動側の端にある傾き調整器で、傾きを直して下さい。



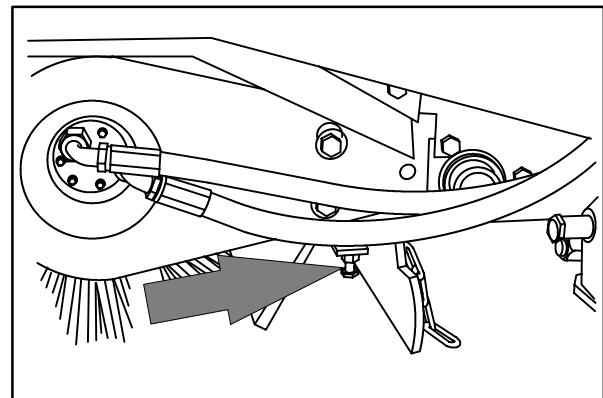
00601

- A. ブラシ駆動側のプレート取り付けボルトを緩める。



08450

- B. ブラシ駆動側のパターンの幅を広げたいときは、傾き調整器のナットを左に、ブラシ駆動側のパターンの幅を狭めたいときはナットを右に、それぞれ回す。



08490

- C. メインブラシのパターンを点検し、まだ傾きがあれば調整をする。その後、パターンの幅を調整する。

サイドブラシ

サイドブラシは隅のゴミをメインブラシの前方に掃き寄せます。

ブラシは摩耗や破損がないかどうか、毎日点検して下さい。サイドブラシやサイドブラシハブに絡み付いている紐や針金があれば、必ず取り除いて下さい。

サイドブラシのパターンは毎日点検して下さい。ブラシが回転しているとき、サイドブラシの毛先のうちの半分が床に接している状態が適当です。サイドブラシパターンはサイドブラシ下方圧調整ノブで調整して下さい。ノブを左に回すと、床に接するブラシの面積が増え、右に回すと床に接するブラシの面積が減ります。

サイドブラシは、能率が落ちたと思われるときは、交換しなければなりません。目安となるのは、残っている毛先の長さが50mmになったときです。軽いゴミを清掃している場合は、それより早めにサイドブラシを交換した方がよいでしょう。重いゴミを清掃している場合は、毛先がもう少し短くなつてもよいでしょう。

サイドブラシの交換

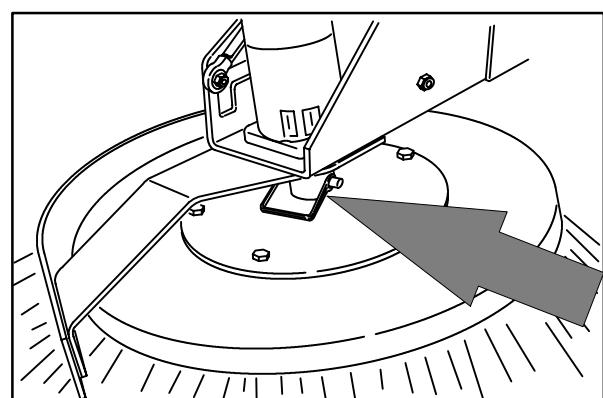
1. ゴミ受けホッパーを空にする。
2. パーキングブレーキをかける。
3. ホッパーを上げる。
4. エンジンを切る。

安全のために：本機を離れたり、点検整備の際、本機を水平な平面に止め、パーキングブレーキをかけ、本機のスイッチを切り、キーを抜いて下さい。

5. サイドブラシ駆動シャフトから、サイドブラシ止めピンを取り外す。
6. サイドブラシをサイドブラシ駆動シャフトから抜き取る。

注：新しいブラシに駆動ハブが付いていない場合は、抜き取ったサイドブラシの駆動ハブを取り外して、それを新しいブラシに付けて下さい。

7. 新しいサイドブラシをサイドブラシ駆動シャフトに滑り込ませる。
8. サイドブラシ・ハブとシャフトを通して、サイドブラシ止めピンを插入し固定させる。



08466

9. ホッパー安全棒を外してホッパーを降ろす。
10. サイドブラシのパターンを、サイドブラシ下方圧調整ノブで調整する。

スカートとシール

ホッパー・リップスカート

ホッパー・リップスカートはホッパーの底の後部にあります。このスカートはゴミの上を通過し、ゴミがホッパーに入り易くします。上側のスカートには切れ目が入っています。

ホッパー・リップスカートの摩耗や損傷の有無は毎日点検して下さい。

スカートが床に届かなくなったら、交換して下さい。

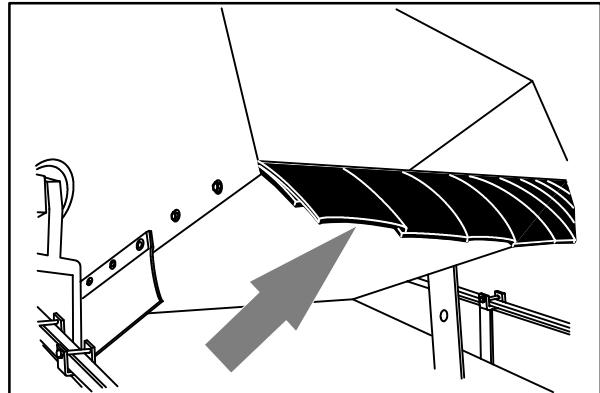
ブラシ室スカート

ブラシ室スカートは2つのメインブラシドアの下側と、ブラシの両端部分の周りのメインフレームに付いています。内側のブラシドアスカートは床面に触れ、外側のブラシドアスカートはゆかから3から5mm離すようにします。

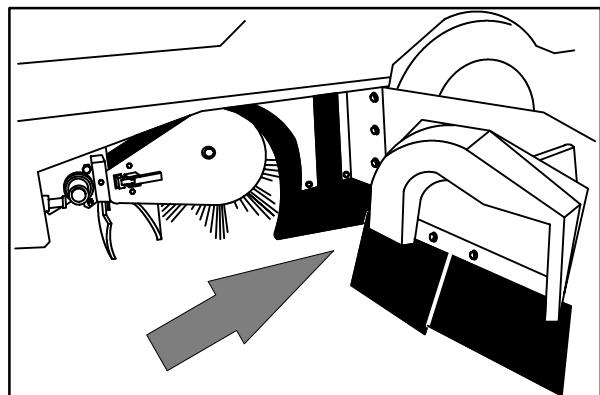
スカートの摩耗と損傷の有無は毎日点検し、調整して下さい。

注：ブラシドアスカートには床との隙間の調整のために縦長の穴があいています。調整をするときはドアを閉じて行って下さい。

注：タイヤの空気圧はスカートと床の隙間に影響します。



08491



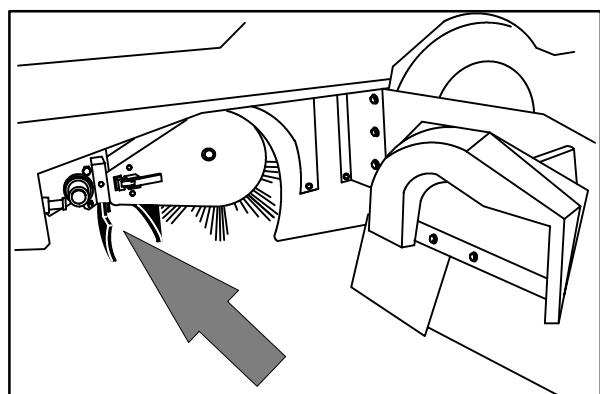
08493

リアスカート

メインブラシ室の底の後部に2枚のリアスカートがあります。垂直のスカートはほこりっぽい場所で使用する場合は、床から20mm離して、また、それ以外の場所で使用する場合は床に接するようにして下さい。回転スカートは自動的に調整されます。

スカートの摩耗、損傷の有無は毎日点検し、調整して下さい。

注：タイヤの空気圧はスカートと床の隙間に影響します。

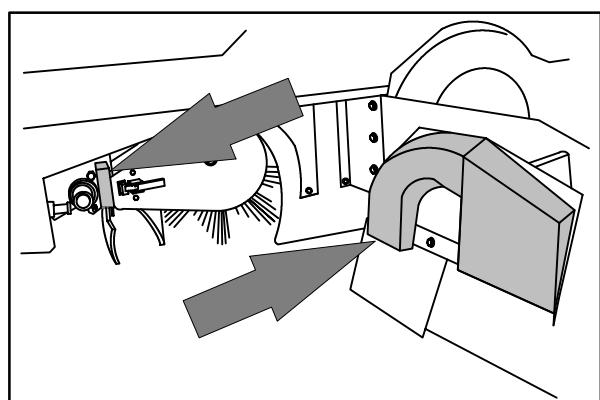


08494

ブラシドアシール

ブラシドアシールは両側のメインブラシドアとそれに触れるメインフレームの部分にあります。

シールの摩耗と損傷の有無を100時間毎に点検して下さい。

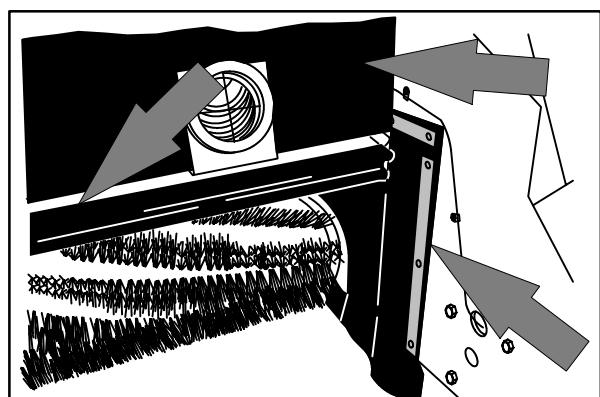


08495

ホッパーシール

ホッパーシールはホッパーに接する本機側のフレームの上部と側部についています。

シールの摩耗と損傷の有無を100時間毎に点検して下さい。

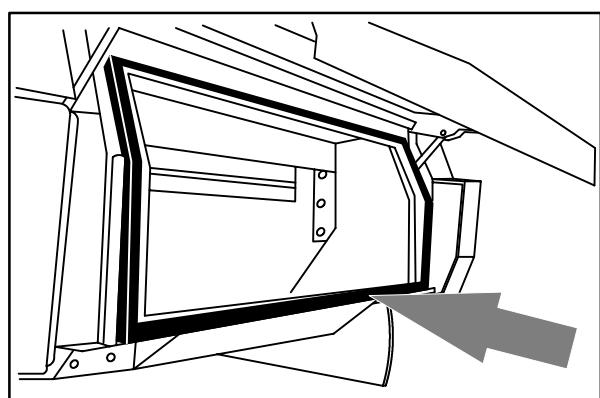


08496

ホッパードアシール

ホッパードアシールはホッパードアに付いています。このシールはホッパードアが閉じているときに、ホッパー内のはこりが外に出ないようにします。

シールの摩耗と損傷は使用100時間毎に点検して下さい。

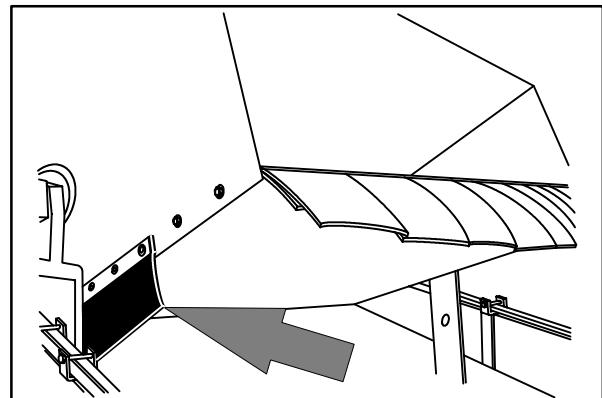


08497

ホッパー サイドスカート

ホッパー サイドスカートはホッパーの左脇にあります。

ホッパー サイドスカートの摩耗と損傷の有無を毎日点検して下さい。

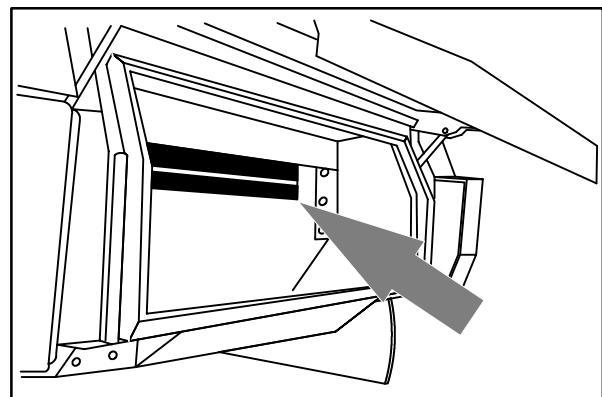


08492

ホッパー 防塵シール

ホッパー 防塵シールはホッパーの内部にあります。このシールはホッパー フィルター室のほこりが外に出ないようにします。

シールの摩耗と損傷の有無を使用100時間毎に点検して下さい。



08498

ホッパー カバーシール

ホッパー カバーシールはホッパー カバーの内側にあります。このシールはフィルター室のほこりが外に出ないようにします。

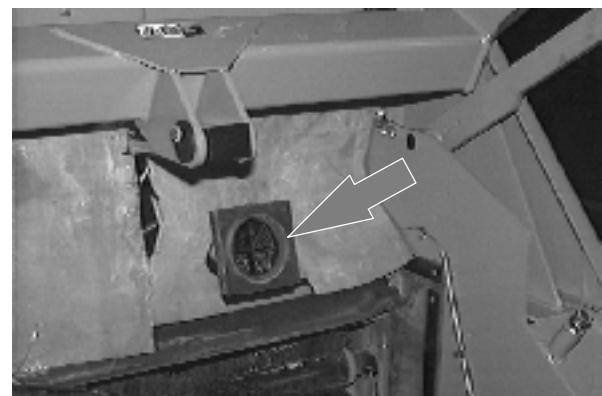
シールの摩耗と損傷の有無を使用100時間毎に点検して下さい。



ホッパー バキュームファンシール

ホッパー バキュームファンシールはバキュームファンの吸い込み口のブラケットに取り付けられています。

使用100時間毎にシールの摩耗と損傷の有無を点検して下さい。



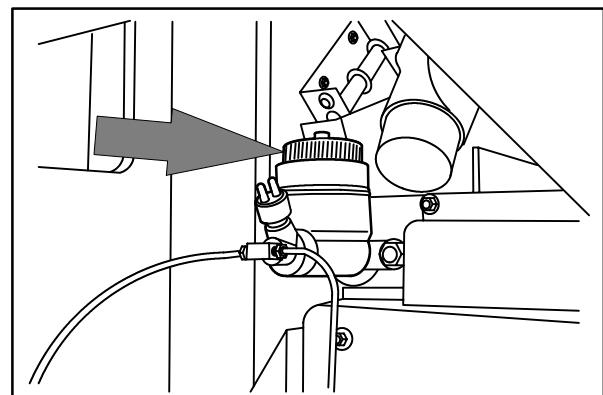
ブレーキとタイヤ

サービスブレーキ

前輪に油圧式のサービスブレーキが付いています。

マスターブレーキシリンダーは隔壁に付いています。

使用400時間毎にマスターブレーキシリンダーの作動油レベルを点検して下さい。

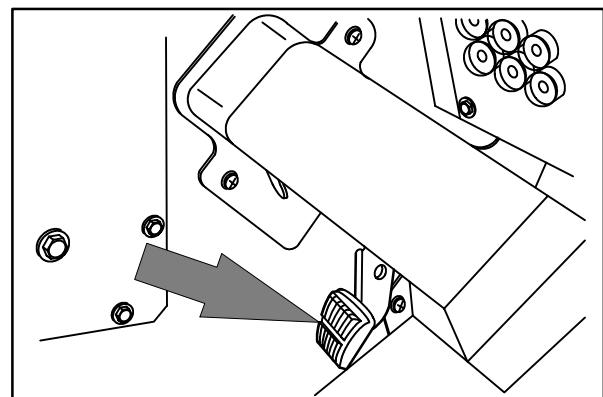


08501

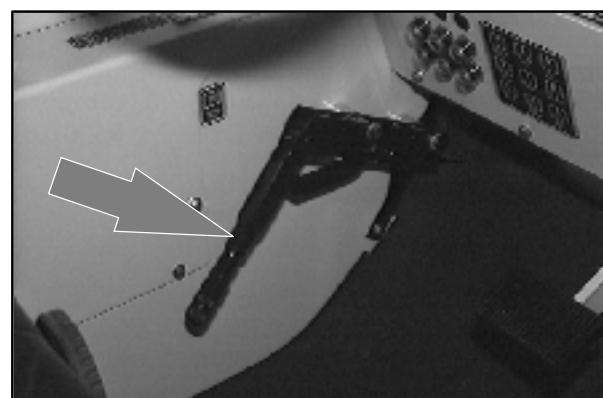
パーキングブレーキ

パーキングブレーキは、号機番号001102以下の本機の場合、足踏みペダルでかけ、号機番号001103以上の本機の場合は、パーキングブレーキ・レバーでかけます。

パーキングブレーキは使用100時間毎に調整して下さい。またパーキングブレーキが簡単にかけられるようになった時、パーキングブレーキをかけているのに本機が動き出す時にも、調整をして下さい。



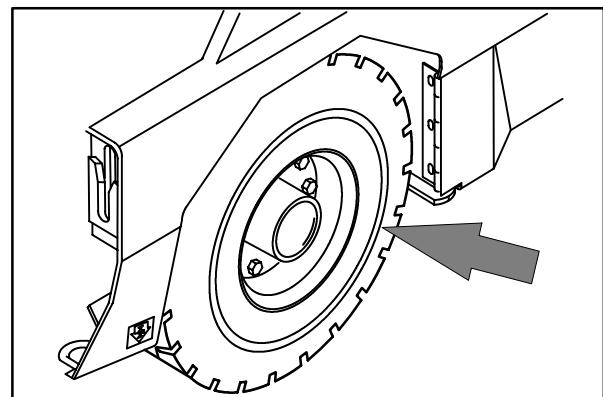
08574



タイヤ

本機の標準タイヤは空気タイヤです。

使用100時間毎にタイヤの空気圧を点検して下さい。空気圧は690~758kPaが適当です。



08575

リヤーホイール

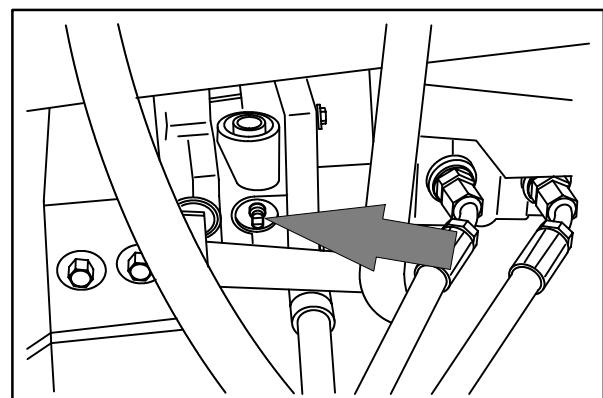
本機を使用し始めてから最初の50時間後に、リヤーホイールナットをスター・パターに従って102~115Nmのトルク値で締めつけ、その後は800時間毎に行ってください。

本機の押し方と引き方

本機を牽引するときに油圧系統が損傷しないようにするために、推進用ポンプに牽引用バルブが付いています。本機の牽引を始める前に、このバルブを右方向に90度回して下さい。

本機を押すのは前後からできますが、引っ張って動かすときは後部を引いて下さい。

留意事項：牽引用バルブを回さずに本機を押したり、引いたりしないで下さい。油圧系統を損傷する恐れがあります。

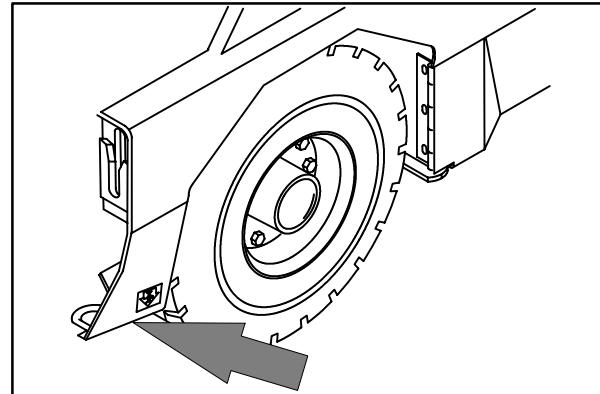


08576

本機のジャッキング

整備のため、本機の決められた場所にジャッキを当てて、本機を持ち上げることができます。十分な許容重量をもち、良好な状態のジャッキを使用して下さい。その際、必ず本機は水平で平らな場所に止めて、ジャッキで持ち上げる前にタイヤを固定して下さい。

前部のジャッキを当てる位置は、前輪の脇の本機フレームの前部分の平らな縁です。

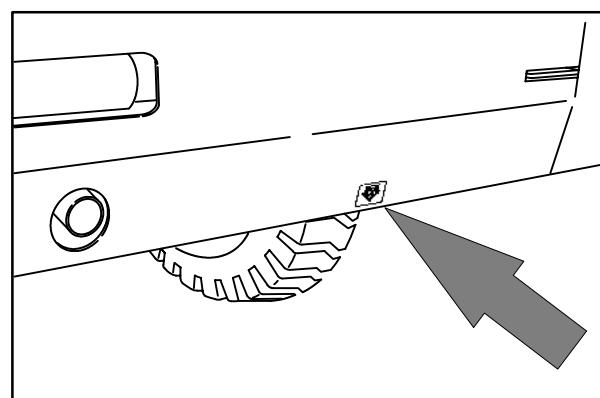


08485

後部のジャッキを当てる位置は、後部バンパーの中央です。

安全のために：本機の点検整備の際、ジャッキアップする前にはタイヤを固定して下さい。

安全のために：本機の点検整備の際、ジャッキは必ず本機の決められた位置に当てて下さい。持ち上げたら、ジャッキスタンドで本機を固定して下さい。



08586

本機の格納

本機を長期間保管しようとする場合は、錆や沈殿物、その他好ましくない付着物を防ぐため、準備をする必要があります。ニチュテナント社のサービスマンにご相談下さい。

仕様

本機の主要寸法と容量

項目	寸法／容量
長さ	3050 mm
幅	1780 mm
高さ	1335 mm
オーバーヘッドガード付き高さ	2095 mm
オーバーヘッドガード及び警告灯付き高さ	2310 mm
運転室付き高さ	2095 mm
運転室及び警告灯付き高さ	2310 mm
輪距	1560 mm
軸距	1420 mm
メインブラシ直径	405 mm
メインブラシ長さ	1270 mm
サイドブラシ直径	65 mm
清掃幅	1270 mm
サイドブラシ付き清掃幅	1675 mm
メインブラシパターン幅	50 to 65 mm
ホッパー許容重量	907.2 kg
ホッパー許容体積	849.5 L
防塵フィルター面積	17.7 m ²
GVWR	4068 kg
騒音レベル	83dBa
運転室付きの騒音レベル	80dBa
ゴミ空けに最小限に必要な床からの高さ	3355 mm

本機の主要性能

項目	数値
最高前進速度	15.9 km/時
最高後進速度	7.3 km/時
左回り最小転回幅	3450 mm
右回り最小転回幅	4675 mm
走行可能最大傾斜角度	8.5°

仕様

駆動方式

エンジン	型式	イグニション	サイクル	吸気	シリンダー	内径	ストローク		
パーキンス 4.154XA	ピストン	ディーゼル	4	自然	4	89 mm	102 mm		
	排気		正味出力、調整時			正味出力、最大			
	2522 cc		33.6kw@2400 rpm			44.8 kw@3000 rpm			
	燃料		冷却系統			電気系統			
	ディーゼル 燃料タンク：45.5 L		水／エチレングリコール不凍液			公称12V			
			合計：13.6L			50A交流発電器			
			ラジエーター：6.1L						
	アイドリング、積載なし		調整速度、積載あり						
	600~650rpm		2400 ± 50 rpm						
	エンジン潤滑油、フィルター付き								
	13.4L 10W30 SAE-CC/CDクラスエンジンオイル								

方向制御

型式	駆動源	非常時の方向制御
後輪、油圧シリンダー及び回転バルブ制御	油圧アクセサリーポンプ	手動

油圧系統

油圧系統	容量	作動油の種類
作動油タンク	47.3 L	テナント社部品番号65869-7°C以上
作動油合計	56.8 L	テナント社部品番号65870-7°C以下

ブレーキ系統

型式	操作
サービスブレーキ	油圧ドラムブレーキ2個、(各前輪に1個づつ) 足踏みブレーキマスター・シリンダー操作
パーキングブレーキ	サービスブレーキ使用、ケーブル操作

タイヤ

位置	型式	サイズ	空気圧
前(2個)	空気タイヤ	16.5×69.7mm	690~758kPa
後ろ(1個)	空気タイヤ	16.5×69.7mm	690~758kPa